



Jリーグ ホームタウン活動調査 2019年版



2020年4月8日版
公益社団法人 日本プロサッカーリーグ

- 本調査は、2019年にJ1・J2・J3の55クラブが実施したホームタウン活動を、クラブからの報告に基づいて集計したものです。
- 2016年版から下記の集計ルールを採用しています。
- クラブによるルール解釈・報告精度の違いを調整できていないため、あくまで参考値としてご覧ください。
- クラブにより、一部が異なるフォーマットで集計を実施しています。

期間	2019年1月1日から12月31日	
場所	ホームタウン及び活動区域内での活動を対象とする。また災害被災地への支援や国外等での社会貢献活動は、ホームタウンまたは活動区域外であっても対象とする。	
活動者	クラブ（株式会社、および関連する社団、NPOなど）に所属し、または直接の契約を有し、またはクラブを公式に象徴する、あらゆる者による活動を集計対象とする。	
	対象とする (A)	対象としない
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 選手（トップ、女子、アカデミー） ・ 監督、コーチングスタッフ（トップ、女子、アカデミー、普及、スクール） ・ クラブの役員、職員 ・ アンバサダー、マスコット、公式チアチーム ・ エアゴールなど、クラブを象徴しうる備品の貸し出しは、集計対象とする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提携先の学校、クラブ、少年団等に所属する選手、監督コーチングスタッフ、役職員等 ・ クラブの外部株主 ・ 外部の支援団体（自治体、町内会、商店会、企業、学校、サポーター、ボランティア等）で、（左記）の（A）が参加しない場合

対象とする	対象としない
<ul style="list-style-type: none"> 企業での講話、講演 	<ul style="list-style-type: none"> 企業や店舗への表敬訪問、または商談
<ul style="list-style-type: none"> 地域振興団体*への表敬訪問 	<ul style="list-style-type: none"> 地域振興団体*との事務的な協議
<ul style="list-style-type: none"> 地域振興団体*主催の大規模パーティ、懇親会への出席 	<ul style="list-style-type: none"> 一般的な、またはプライベートな食事会・懇親会
<ul style="list-style-type: none"> 豆まきへの参加（地域の催事への協力） 	<ul style="list-style-type: none"> 必勝祈願（クラブの行事）
<ul style="list-style-type: none"> スタジアムでのリユース食器利用や就労支援 AEDボランティア 	<ul style="list-style-type: none"> ちらし等の配布、またはポスティング グッズ売り場での販売補助 試合会場、トレーニンググラウンド（キャンプ地を含む）におけるファンサービス
<ul style="list-style-type: none"> 社会貢献・地域貢献に関する取材対応 地方振興団体*の広報への協力 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツに関する取材対応
<ul style="list-style-type: none"> 障がい者など、社会的弱者を試合に招待 チャリティ目的の選手シートの設置 	<ul style="list-style-type: none"> 一般的な試合招待事業
<ul style="list-style-type: none"> クラブとしての寄付、及び物品寄贈 	
<ul style="list-style-type: none"> クラブと無関係の選手個人の活動 巡回指導など、無償の普及活動 サッカー以外のスポーツ振興活動 介護予防事業 	<ul style="list-style-type: none"> Jリーグ公式行事への参加 クラブが主催する、支援者またはファン・サポーター向け行事への参加（ビジネスパーティ、入団会見、ファン感謝デー、ファン向けトークショーなど） 研修やセミナーの受講

・ 地域振興団体：自治体、商工会、青年会議所、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、経済同好会、商店会、自治会、及びその外郭団体。並びにクラブを応援する地域の集まり（ホームタウン連絡協議会など）。

** 年間を通して毎日稼働する活動（スポーツチームの保有、医療センター開設など）は、1件として報告する。その際、活動内容/名称欄に（チーム）（常設）などと付記する。但し学校訪問など、その都度訪問先が異なる場合は、従前通り一訪問先毎に報告する。

調査概要 (3/3) 調査項目の新設 (活動目的・協働者)

2019年調査において、以下の項目を新設しクラブへのヒアリングを行っています。

活動の目的

「その活動をどんな目的をもって行っているか」を集計しています。
 目的は以下の8つの分類とし、同じ活動でも複数の目的を持つ場合を想定し3つまで選択可能となっています。

- サッカーの普及
- 多様性・多文化性
- まちづくり
- 介護予防・健康増進
- 環境保護
- 教育
- 震災復興・防災
- その他

活動の協働者

活動目的を達成するために3者以上で行う「シャレン」活動の発掘・把握を目指し、活動を一緒に行う「協働者」を集計しています。
 協働者は以下の7つの分類とし、同じ活動でも複数の協働者が存在する場合を想定し5つまで選択可能となっています。

- 行政
- 教育機関
- 企業
- NPO等の非営利組織
- 自治会や商店会等の地域組織
- サポーター/ボランティア
- その他

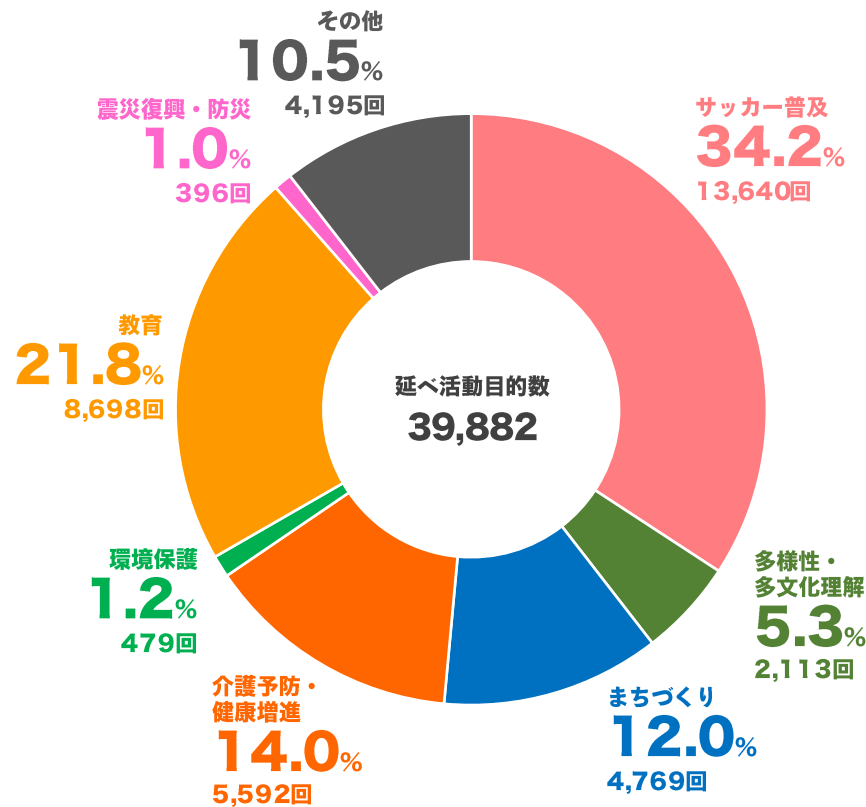
※フォーマットの違いにより、一部のクラブの「活動者の協働者」は集計していません。

年間活動回数： **25,287**回

シャレン活動回数： **1,382**回

※活動目的を達成するために3者以上で行う「シャレン」活動をクラブからの報告をもとに精査・集計した参考値となります。

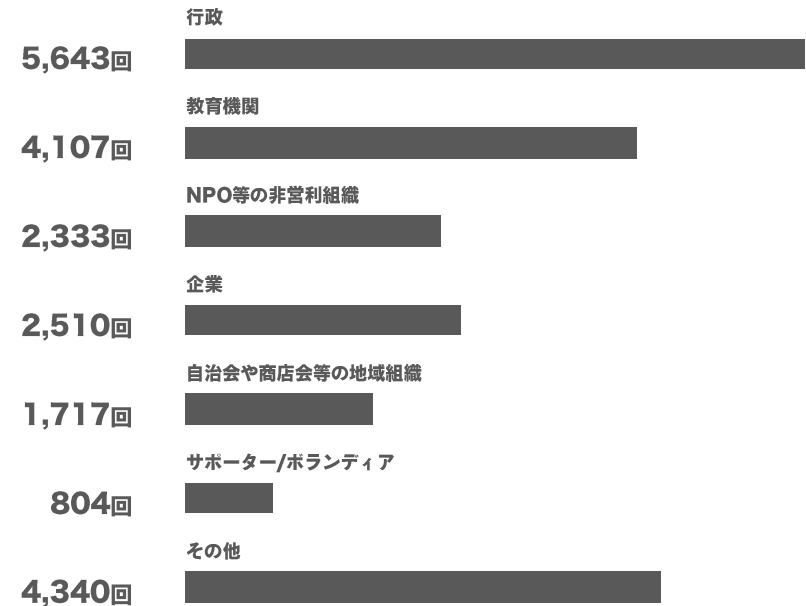
活動目的の構成



※各クラブが実施したホームタウン活動を、クラブからの報告に基づいて集計しています。
 ※「活動目的」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。

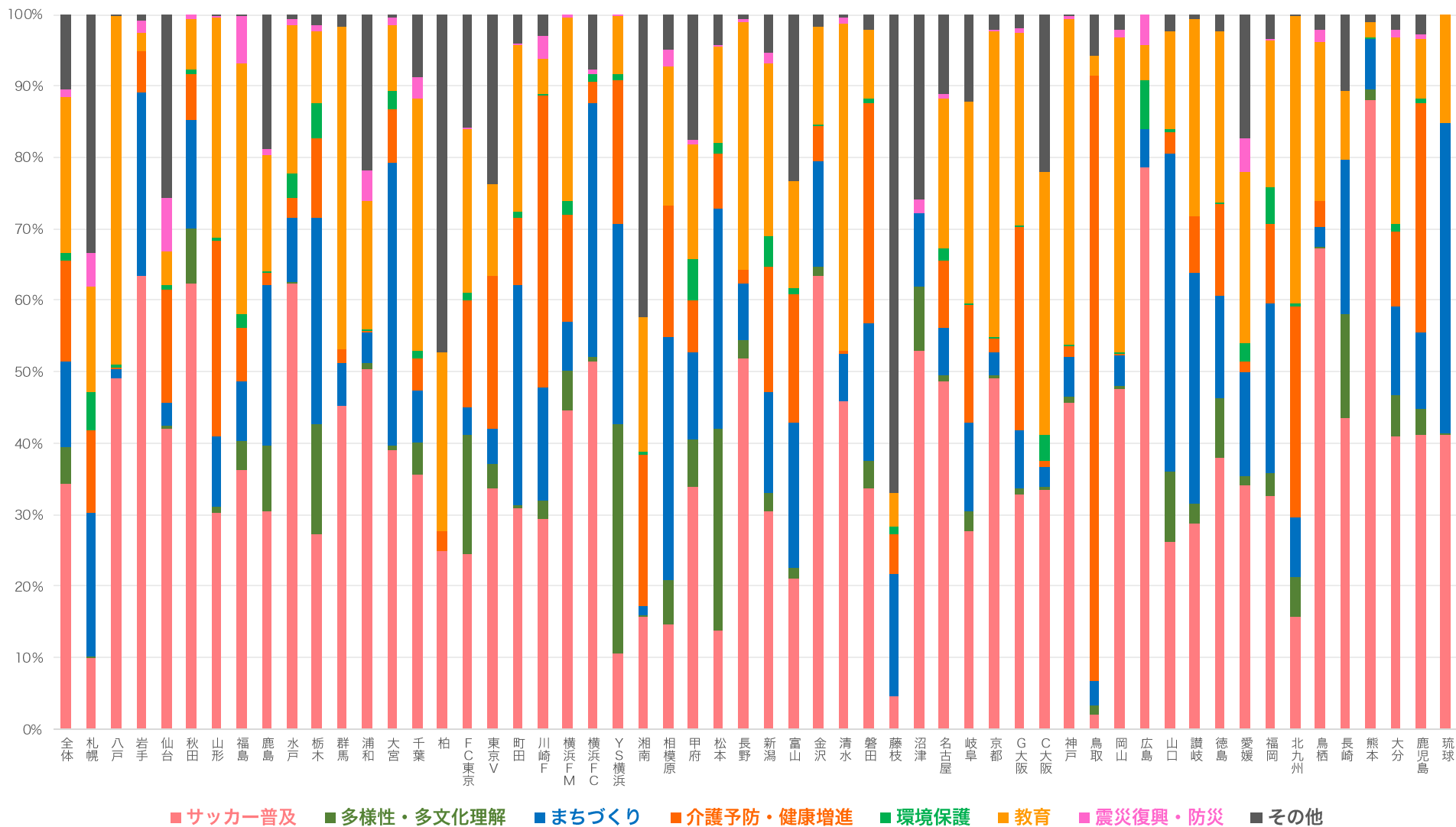
協働者

各協働者を行った延べ活動回数



※集計した49クラブの合計値です。
 ※フォーマットの違いにより、一部のクラブを除く参考値です。
 ※「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。

55クラブ活動目的（クラブ別）

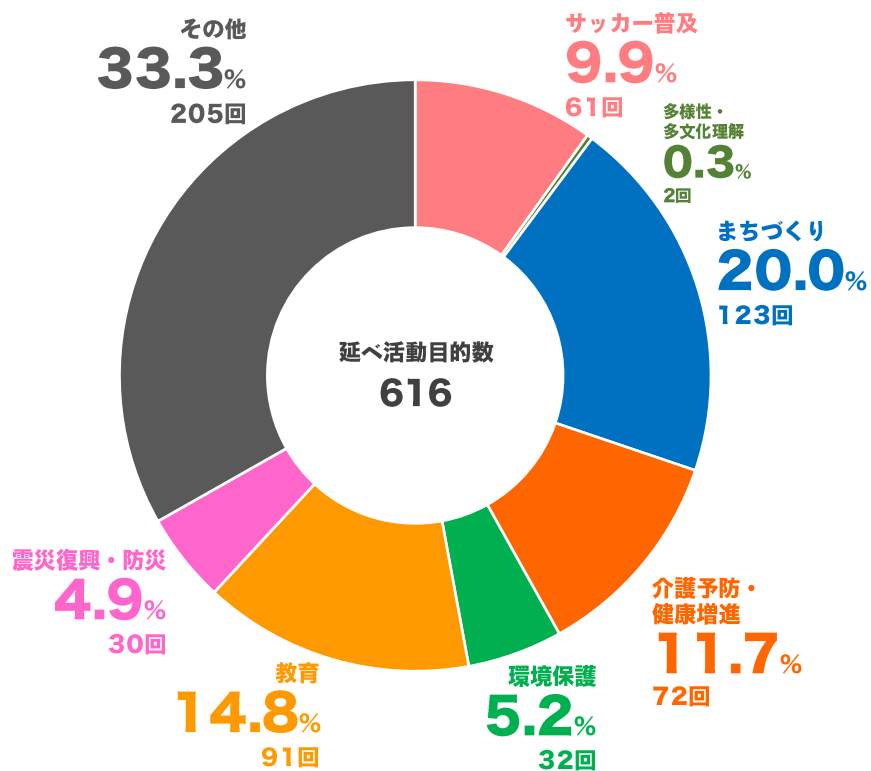




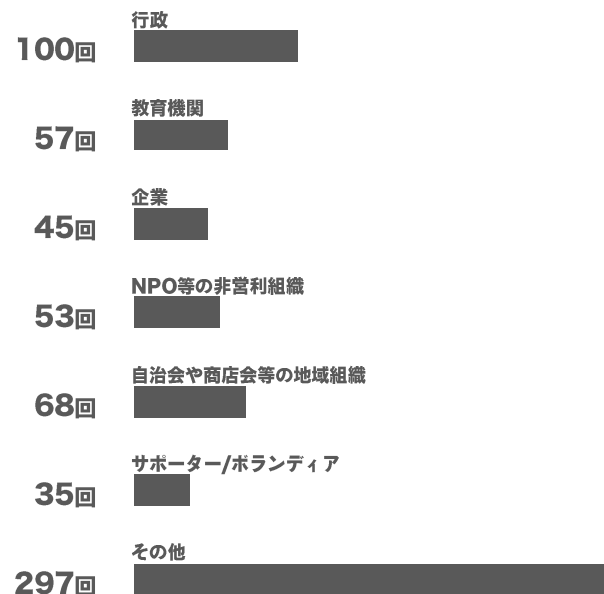
ホームタウン
札幌市を中心とする北海道

年間活動回数：**425**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



子ども食堂支援

JAグループ北海道、北海道教育庁、北海道教育大学、北海道コンサドーレ札幌の4者で意見交換した際、「こども」をテーマとした活動で何ができるのかを話し、行き場のない子供達のための「居場所」と「学びの場」として増加している「子ども食堂」の運営主体をサポートする取り組みを実施することにした。それぞれ得意分野があり、食育はJAグループ北海道、徳育は北海道教育委員会、知育は北海道教育大学、体育は北海道コンサドーレ札幌が担当し、子供の健全な成長と住み良い地域社会の創造に貢献する活動を展開する。

- 活動場所** : 子ども食堂もくきち、札幌市立信濃小学校
- 取組テーマ** : ⑥地域のコミュニティ
- 協働者** : ①企業, ④学校, ⑤行政
- 協働者名** : JAグループ北海道、北海道教育庁、北海道教育大学

活動で工夫した点

食育を担当するJAグループ北海道は食育講座やかかし作り体験、食材の提供、徳育を担当する北海道教育庁は図書の貸出しや読み聞かせ（大型絵本、エプロンシアター、紙芝居等）、知育を担当する北海道教育大学は学生による宿題等の学習支援、体育を担当する北海道コンサドーレ札幌はサッカー教室やバドミントン教室を開催し、それぞれの強みを生かした活動を毎月行っている。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

北海道内に100を超えるこども食堂があり、支援するこども食堂の選定に難しさを感じた。4者が支援できる内容を基に、北海道こども食堂ネットワークが選定した数か所を視察し、最終的に札幌市厚別区にある子ども食堂「もくきち」に決まった。

クラブや地域の活動後の変化

子ども食堂を利用する子供達が増えた。（ご飯を食べずに遊びに来る子供達も含めて）共働き世帯や貧困世帯の子供達がお飯を食べるだけの場所ではなく、地域のコミュニティーの場となっている。



協働者の声

この4者と一緒に取り組むことができ良かった。子供達の笑顔や楽しそうな姿は勿論のこと、地域ボランティアの方々からもたくさんのお礼の言葉をいただいた。これからも続けていきたい。

参加者の声

一緒にサッカーや宿題ができて楽しかった！優しいお兄さんやお姉さんと遊ぶことができ嬉しかった。毎回遊びに来てね。

活動の「ここぞ！」というPRポイント

4者がそれぞれ持っている想いと強みを生かすことによって、子供達の学力や体力の向上、食に関する理解、健全な育成について同時に取り組むことができる。

補足

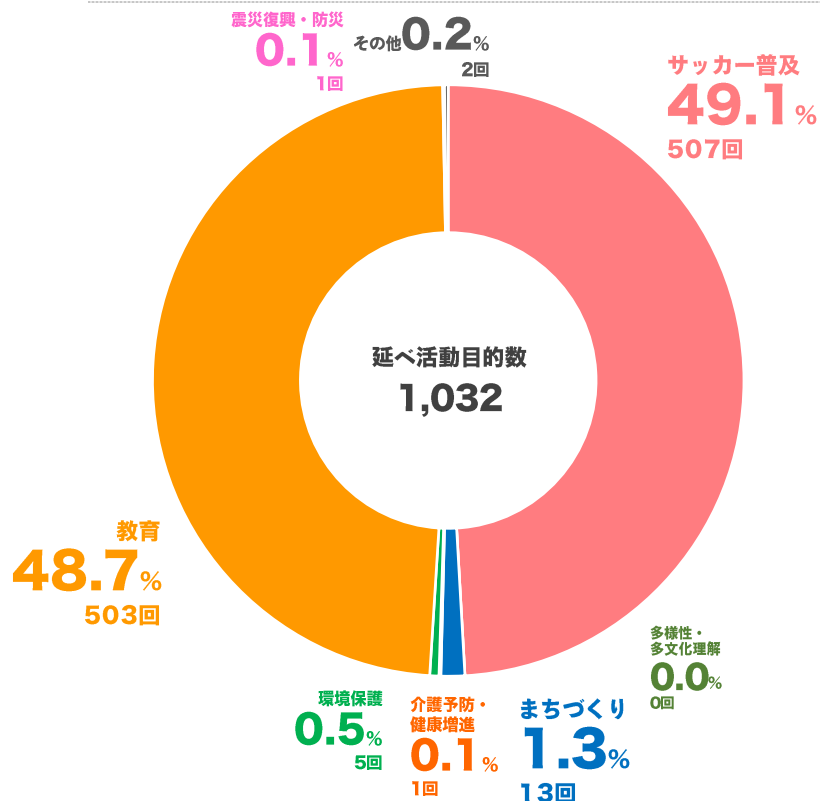
4者でこども食堂支援に関するモデルケースを作り、最終的には北海道内のそれぞれの地域でこども食堂を支援できる仕組みを作る予定。



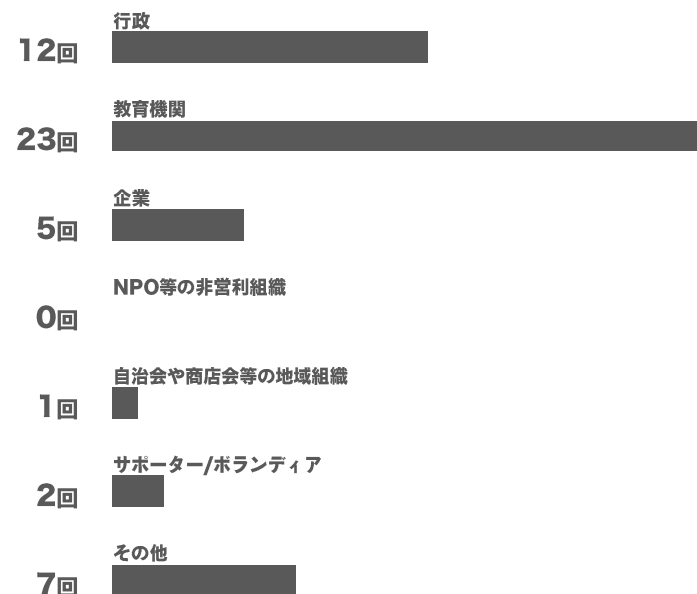
ホームタウン
八戸市を中心とする青森県

年間活動回数：**524**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



ヴァンラーレ八戸農業支援

2018年に青森県から農業の担い手不足を選手・スタッフがお手伝いし、労働力の確保・事業PRとして活動しました。翌年、クラブのスポンサーでもある株式会社MISTsolution（本拠地：東京）が八戸市内での農業事業を企画することとなり、2019年春ごろから活動が始まりました。八戸市南郷にある農地を活用し、ブロッコリーやピーマン、ミョウガ、トマトなどを栽培をし、10月には選手とサポーターと株式会社MISTsolution役員、地元農家の方々と共に、ニンニクの植付けを実施し、ともに交流を深め、2020年6月ごろに収穫を迎える予定となっております。農業活動実施を行っています。

- 活動場所** : 八戸市南郷
- 取組テーマ** : 交流人口・関係人口の増加
- 協働者** : 企業
- 協働者名** : 株式会社MISTsolution

活動で工夫した点

ゼロベースから始めるとクラブの力だけではどうにもできないため、株式会社MISTsolutionの方で、農業担当の雇用を、我々は地元の農家のツールを掴んで農地を選定し、最初は野菜をホーム会場で販売し、関心を持ってもらうところから始めました。その後、ニンニクの植付けイベントとして選手とファンの交流の場を持って大掛かりな植付け作業をイベント参加者で労働力を補完するなど、お互いが楽しめるように工夫しました。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

天候に左右されるものが多々あることと時期があるので、関心が途切れないように、定期的に野菜販売等実施するタイミングなどの調整は苦労しました。

クラブや地域の活動後の変化

活動を通じて選手が収穫した野菜を求めてくれる人が増えました。また、ニンニクの植付けイベントに参加したファンの方は今年の収穫を楽しみに待っているようです。パートナー企業もこの活動を知っていて、良い地域貢献活動をしている！と好評です。



協働者の声

株式会社MISTsolution田代さん 地域密着クラブの活動として、サッカークラブがサッカーはもちろんサッカー以外のことを積極的に実施することは非常に地域にとって良いことだと思います。またこの活動をファンやサポーターの方々と共有することで、農業やクラブや選手に対する理解もより深まることも、良いことだと感じています。

参加者の声

ニンニクの植付けのイベントに参加した親子 選手と一緒に植付けできて楽しかった。収穫するときもまたイベントとしてやってほしい。

活動の「ここぞ！」というPRポイント

収穫した野菜は試合会場で可能な限り販売しています（時期によりますが）。ちなみにピーマンは【谷尾のピーマン】として販売し、即完売。

補足

【スタミナ源たれ】という商品と2019年秋にコラゴを実施して【スタミナヴァンたれ】という特別ラベルにてホーム開幕戦に販売を予定していますが、6月に収穫予定のニンニクをヴァンたれに入れて、リニューアルをして販売企画中です。

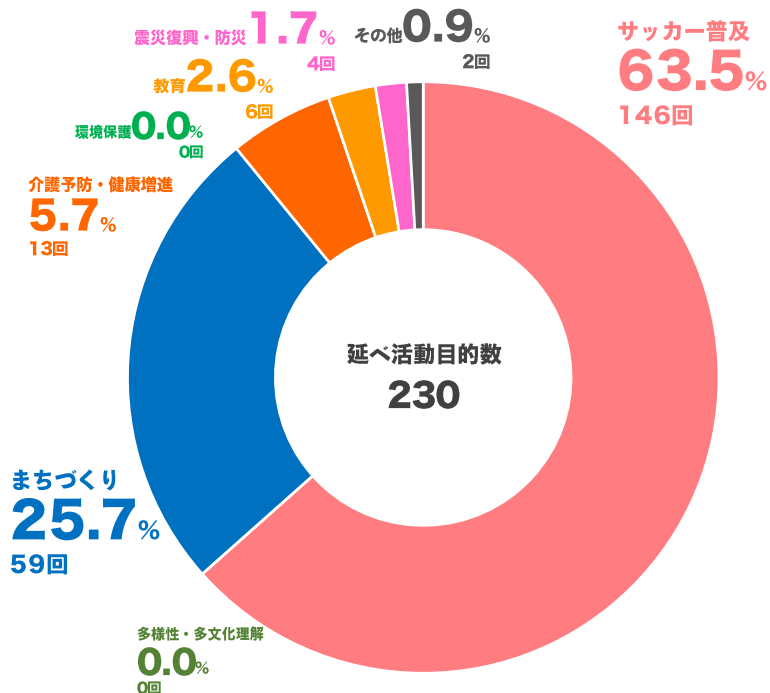


ホームタウン

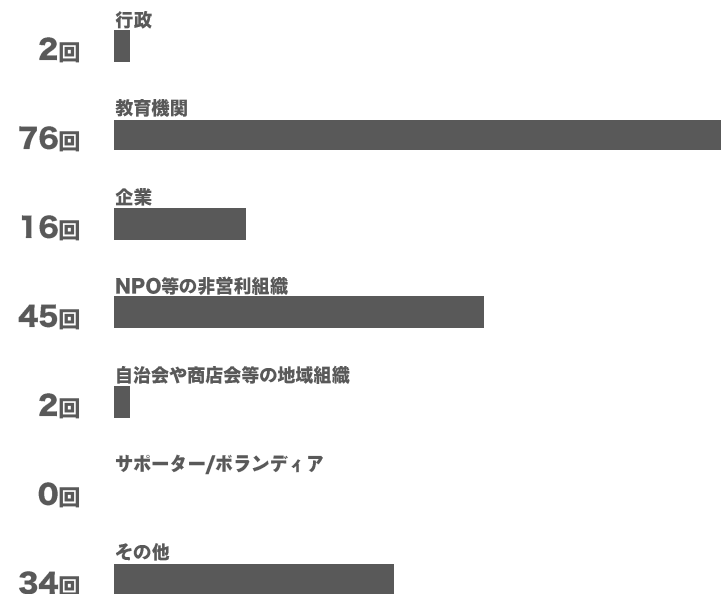
盛岡市・宮古市・大船渡市・花巻市・北上市・久慈市・遠野市・一関市・陸前高田市・釜石市・二戸市・八幡平市・奥州市・滝沢市・雫石町・葛巻町・岩手町・紫波町・矢巾町・西和賀町・金ケ崎町・平泉町・住田町・大槌町・山田町・岩泉町・田野畑村・普代村・軽米町・野田村・九戸村・洋野町・一戸町
【岩手県全県】

年間活動回数：**173回**

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



繫地区との繋ぐ力

盛岡市繫地区は選手寮があった場所で、地域の方々には食事の提供、温泉にも入浴させていただくなど様々なサポートを受けておりました。現在、選手寮はなくなってしまいましたが、元々のご縁もあり繫地区のみなさまとは様々なイベントを通じて交流を深め、地域の活性化に繋がっています。例えば2019年には地区の小学校・中学校の運動会にトップチームの全選手が参加しました。繫地区でも生徒数が年々減っており残念ながら2019年度で中学校が閉校になります。少しでも中学校での思い出を残してもらおうと選手達が参加しました。他にもペンキ塗りを手伝ったりハンギングバスケットを作ったりなど地域の景観を守る作業にも取り組んでいます。

活動場所 : 岩手県盛岡市繫地区

取組テーマ : ⑥地域のコミュニティ

協働者 : ③住民, ④学校

協働者名 : 盛岡市立繫小学校・中学校、つなぎ温泉観光協会

活動で工夫した点

地域貢献が第1の目的ですが、繫地区の方々に選手達の名前を覚えてもらうことにも力を入れました。例えば子供達と一緒に活動する場合はニックネーム入りのオリジナル名札を作成し、コミュニケーションを取りやすいようにしました。他にもハンギングバスケット作りの際にもそれぞれのオリジナリティーを發揮しながらバスケットを作成したうえで名札を加え、選手たちの特徴を覚えていただきました。

活動で大変だった(苦労した)ポイント

スケジュールの調整に苦労しました。例えば上記の運動会参加ですが、次の日にホーム戦を控えておりました。全部に参加するのは難しくとも10分、15分でも参加できるよう調整いたしました。

クラブや地域の活動後の変化

選手達は繫地区の方々と活動を共にするたび、いかに自分達が地域の人に支えられているか、いかに自分達が地域の人々に活気を与えているかを自覚するようになりました。またペンキ塗り、ハンギングバスケット作成により、地域の景観が整い地域の雰囲気明るくなりました。



協働者の声

つなぎ温泉観光協会様の声：繫地区は観光地なので、選手・スタッフの方々に協力いただいたペンキ塗り、ハンギングバスケット作りのおかげで景観が保たれ、観光客のみなさまに喜んでいただきました。

参加者の声

選手達と一緒に運動会ができて楽しかったです。プロの選手からボール取るのは難しかったですがいい思い出になりました。今度スタジアムに選手達を応援に行きたいです！

活動の「ここぞ！」というPRポイント

繫地区の皆様とは様々な活動を行っていますが、どの活動も1度だけではなく定期的にを行っています。特に地域の子供たちとの交流を絶やさないため、引き続き小学校の運動会の参加、また別の活動も模索しております。

補足

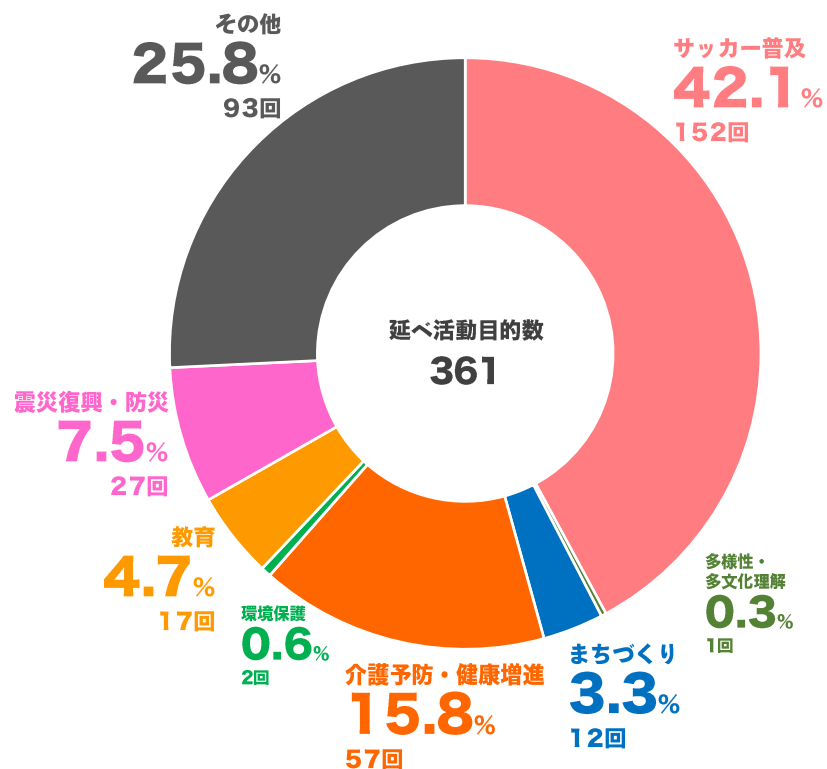
-



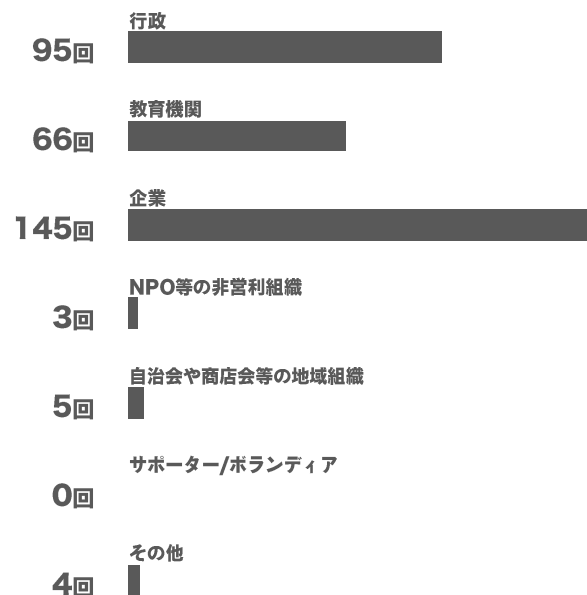
ホームタウン
宮城県／仙台市

年間活動回数：**339**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



ベガルタキッズラボ Enjoyシェイプアップ

宮城県は「メタリックシンドローム該当者および予備群」の割合が、都道府県別で全国ワースト3位と高く、県民の課題になっています。また、子ども世代においても、肥満傾向児の出現率が5歳で全国1位、9歳、10歳で全国3位と例外ではありません。

そこで、地域の課題解決に取り組むべく、当クラブでは小学生を中心に『ベガルタキッズラボ Enjoyシェイプアップ』を展開しています。重視しているのは、楽しみながら体を動かすことです。プロサッカークラブのメソッドを生かし、ボールを使った運動やベガルタチアリーダーズとのダンスはもちろん、借り物競争や玉入れなど、運動会のような要素を柔軟に織り交ぜています。できる、できないが目的ではありません。汗を流す喜びを体感し、運動が苦手な子どももまずはEnjoy!!!

活動場所 : 宮城県立こども病院、各小学校、児童館、障がい者施設など

取組テーマ : 健康/SIB

協働者 : 企業/NPO/学校/行政/医療機関

協働者名 : 宮城県保健福祉部健康推進課、宮城県立こども病院、各小学校、各児童館、パートナー企業各社

活動で工夫した点

サッカーだけでなく、チアダンスやリレーなど、さまざまな運動を取り入れながら、個人の運動レベルや身体的、精神的障がいの有無にかかわらず、すべての子どもたちが楽しめるバリアフリーの場を創出しました。

活動で大変だった(苦労した)ポイント

親子で楽しめることをポイントとし、サッカー以外のスポーツの要素を取り入れ、日常とは違った形のコミュニケーションを実現し、家族の絆を深めることを重視した内容を確立した。

クラブや地域の活動後の変化

宮城県の保健福祉部との関係構築に伴い、県が制作したウォーキングアプリへクラブマスコットが採用されました。宮城県立こども病院においては、肥満外来における治療カリキュラムの一環としても採用いただいております。また、本事業に企業、団体からご賛同をいただき、クラブをハブとして企業と自治体を巻き込みながら、官民が一体となり課題解決を推進しています。



協働者の声

宮城県立こども病院で肥満外来を担当する医師から、「県内の子どもの10%は肥満。食事、運動、生活習慣の3つで治療をするが、運動の部分が一番弱い」と話がありました。本事業の目的を説明する調整会議で、「まさに求めていたこと、ナイスゴールですね」と期待のお言葉をいただきました。当日は同医師だけではなく、看護師やスタッフ、県職員の方も参加し、親子にとどまらず協同の輪が広がりました。

参加者の声

「お父さんとサッカーができて楽しかった」、「初めてのダンスが難しかった」という子どもたちの声に加え、保護者の方からは「子どもの諦めない姿が見られた」、「みなで協力している姿に感動した」との声をいただきました。担当医の方も「ご家族も一緒に参加いただきかなりの人数となったことにより、とても賑やかで楽しく過ごせました。みなさん笑顔でお帰りいただいたことが何よりの証であり、収穫です」と手ごたえを感じられていました。

活動の「こころ」というPRポイント

当日は子どもたちの笑顔が多く見られ、親子の交流やスタッフの参加など、いろいろな垣根を越えて、すべての人が笑顔で一体となる瞬間であふれていました。単年の事業ではなく、5年、10年と継続し県民の課題である「脱メタボ」に取り組めます。

補足

当クラブは、地域のみなさまの想い、33万2千名の署名が集まり、スタートした市民クラブです。東日本大震災の被災地クラブとして「希望の光」を放ち、地域とともに復興へと歩み続ける強い決意を持っています。クラブ創立25周年を経て昨年、こころもからだも健康で、多様性に富んだ豊かな社会づくりを目指し「KIZUNA未来プロジェクト」を立ち上げ、本事業もその一環となります。

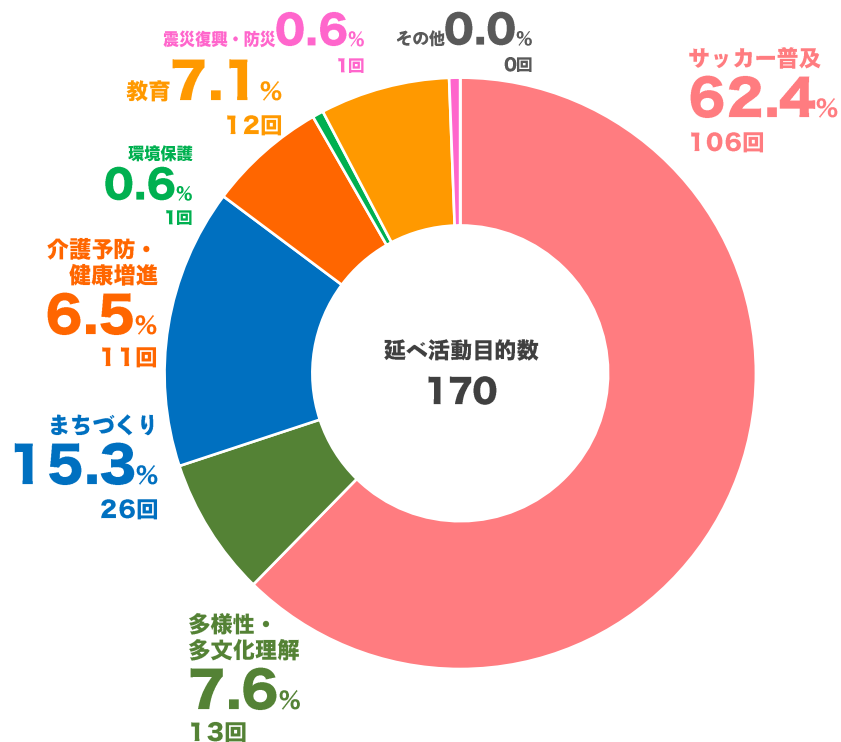


ホームタウン

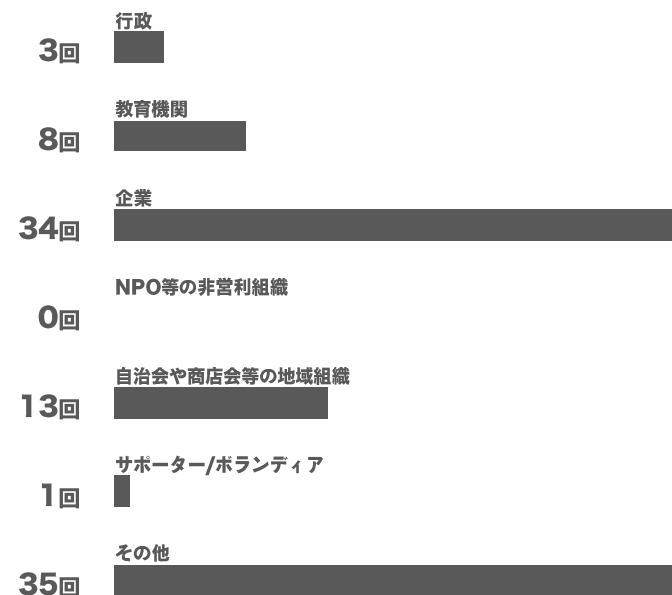
秋田県／秋田市、由利本荘市、にかほ市、男鹿市を中心とする全県

年間活動回数：**144回**

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



福+（ふくたす）プロジェクト ～秋田に「福の輪」を～

当クラブは世界で最も高齢化率の高い秋田だからこそ、世界に先駆けて社会課題解決に取り組んでいます。中でも中央大学FLP小林ゼミと協働し、以下2つの社会課題解決に向け2014年より活動を行っています。①地域コミュニティの機能が減退→交流機会の創出による繋がり構築②高齢化による社会保障費増大→運動・試合観戦機会の創出による健康寿命延伸 具体的には東京の学生が主体となり、高齢者を対象にしたスポーツイベントを開催し、運動機会・多世代交流の機会を創出しました。また運動することが困難な高齢者に対しても、eスポーツや試合観戦が健康・生きがいになるということを実証しました。

活動場所 : ・ソユースタジアム・秋田市茨島体育館
・秋田市スポーツ科学センター・秋田市役所センター

取組テーマ : ③持続可能な地域づくり⑤健康/SIB⑥地域のコミュニティ
⑦交流人口・関係人口の増加⑨スポーツ観戦を生きるチカラ

協働者 : ①企業, ④学校, 各種地域スポーツ協会

協働者名 : ・中央大学FLP小林勉ゼミナール・秋田市グラウンドゴルフ協会
・秋田県8人制バレーボール連盟・常葉大学准教授今村貴幸教授
・国立大学法人秋田大学・ワタナベ整骨院長渡部真吉先生
・中央大学学員会秋田県支部・朝日綜合株式会社

活動で工夫した点

運動することが困難な高齢者に対してeスポーツ・試合観戦の機会を提供したことです。eスポーツを誰でもできるバリアフリーなスポーツとして、eスポーツ講演会を開催しました。体験前後の心拍数の変化からeスポーツに軽強度の運動効果があることが判明し、健康促進ツールとしての可能性を見出しました。また試合観戦においてもTDMS-ST調査より、観戦前後の心理状態の変化からフレイル予防につながる事が判明しました。

活動で大変だった(苦労した)ポイント

活動を進めていく中での各関係者との利害関係の調整です。一例として、イベントの運営面でご支援いただく方と広告・景品協賛のスポンサー企業との間の参加者募集対象の相違です。特に、参加者に求める競技志向やエンジョイ志向、年齢層など、各関係者の想いや狙いがあったからこそその衝突でした。そこでクラブ・学生が仲介役として話し合いの場を多く作り関係者・参加者にとってHappyとなる施策を打つことができました。

クラブや地域の活動後の変化

学生：活動の中で困難な壁にぶつかり・越えていくことで、苦しさや嬉しさ、達成感を感じ、大きな成長を実感 イベント関係者：メディアに取り上げられ認知度も年々拡大しているため、共感性が増大し助言も熱を帯びる 参加者：6年の蓄積で普段からスタジアムに足を運び試合観戦をする方が増加 地域の雰囲気：毎年参加して下さる方も多くおり、プロジェクトを通して「福の輪」が広がりに地域に根付いた活動になっていることを実感。



協働者の声

中央大学FLP小林勉ゼミプロジェクトリーダー野澤さんの声：
毎年主体となる学生が変わる中で、6年目のメンバーとして参画させていただきました。参加してもらいからは必ず笑顔で帰っていただきたい、という想いのもと半年間にわたり入念に準備を重ねました。準備を進める段階で気付いたことは、毎年このプロジェクトを楽しみにして下さっている方々がいらっしゃるということです。サッカー観戦とはほど遠い対象であった高齢者の方々とスタジアムを結ぶこのプロジェクト。当日はあいにくの荒天でしたが、別の形でイベントを楽しみ、試合観戦を行いました。応援が通じたのか、勝利が決定した時は、参加者の方と手を取り合って喜びました。スタジアムと高齢者、高齢者と高齢者、若者と高齢者、ありとあらゆるものを交流させるこのプロジェクトに携われたことは一生涯の誇りです。

参加者の声

上記「eスポーツ講演会」に参加した方※取り上げていただいたABS秋田放送より抜粋・「孫がやっていると『あまりやらないで』と言っていたのが、『あ〜いいんだ』って今思いました」・「笑ってできるスポーツなのですごく楽しんでできました」と思いました
その他スポーツイベント参加者の声：・「来年も必ず参加します」・「東京の学生が秋田で活動してくれて本当に嬉しい」

活動の「ここぞ!」というPRポイント

クラブのリソースを活かし東京の学生が主体で活動しており、年々関係人口の濃度が濃くなっています。またクラブ中心の「学生・イベント支援者・協賛企業・参加者」など関わる全ての人がHappyになることです。

補足

この活動では、クラブのリソースを学生に有効活用してもらおうべく、クラブと学生のマインドセットをする必要がありました。そのため毎年変わる主軸学生の想いに耳を傾け、目指すべき目標や理念の統合に注力しました。またこの活動は、①秋田(住民含め)：社会課題の解決 ②クラブ：高齢者層のファン獲得や地域に密着したクラブに③学生：社会課題解決に机上ではなく現場で活動できるという三者以上にベネフィットが生まれています。

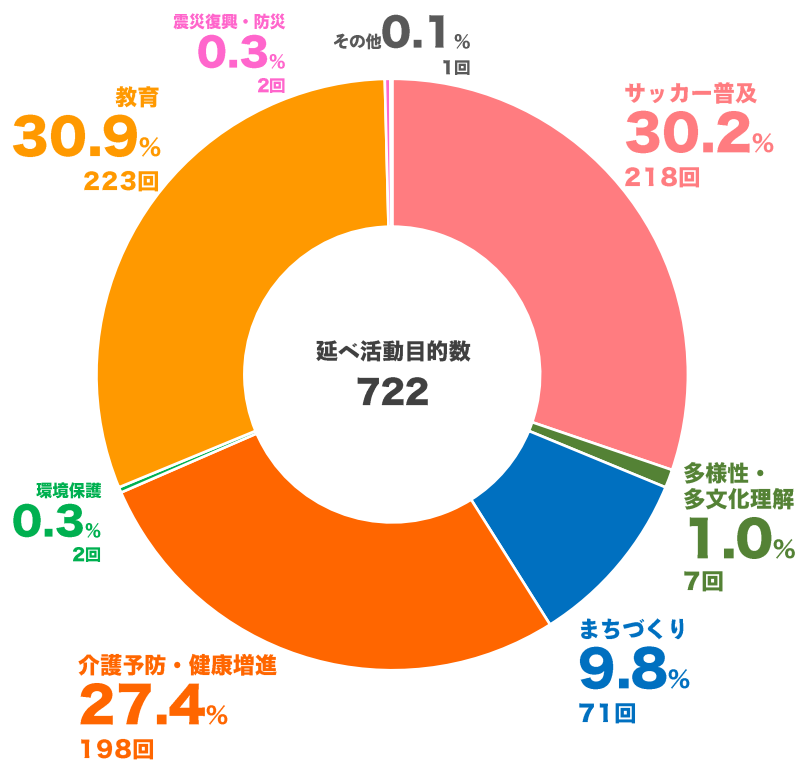


ホームタウン

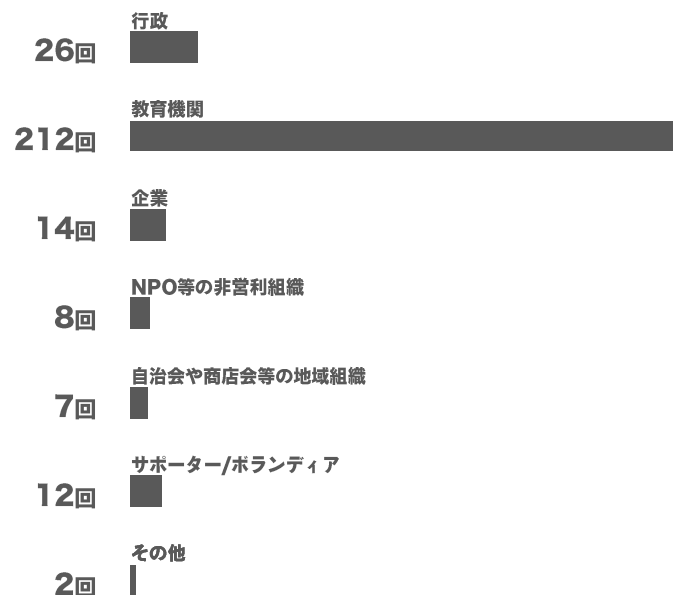
山形県／山形市、天童市、鶴岡市を中心とする全県

年間活動回数：**281**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



TEAM MATES事業

長期療養が必要な子供をクラブの一員、チームメイトとして迎え入れ、児童の身体条件とチーム活動での目標のJ1昇格という目標に合わせて、選手やスタッフをサポートしながら社会復帰を目指す活動です。



- 活動場所** : NDソフトスタジアム
- 取組テーマ** : ⑤健康/SIB
- 協働者** : ①企業, ②NPO
- 協働者名** : NPO法人Being ALIVE Japan

活動で工夫した点

初めは、選手・チームスタッフ・フロントスタッフ・サポーターに存在を知ってもらう為に、チームの練習参加・試合前のロッカー準備・クラブ主催イベントで司会を務めることで長いシーズンを一緒に戦う一員として認知させることができました。

活動で大変だった(苦労した)ポイント

活動する上で、「呼ばれたから」「誘われたから」という流れ作業にしてほしくなかった為、練習の時にはドリンクを作る、試合の日にはロッカー作成などルーティーンを作ってあげることで、児童が主体的に行動できる環境を作ること。

クラブや地域の活動後の変化

選手・スタッフ・サポーターから名前を覚えてもらい、直近ではサポーターからファンレターをいただくまでになりました。これは、クラブとしても活動させる上で児童のファンを作り、輝く場所を作ることができ、チームに関わる人たちの心が温くなる場面が増えた。

協働者の声

NPO法人Being ALIVE Japan北野様:引き続きサポートできるお手伝いができたら、本人にとっても大きなモチベーション、チーム一丸の感覚を持てるのではと思っています。

参加者の声

選手と直接ふれあい、会話をする事でチームの一員という実感が出てきた。もっと自分からチャレンジしたいことを見つけて、チームを応援したい。

活動の「ここぞ!」というPRポイント

会社全体で取り組むことができ、この活動が他のスポーツへ繋がり、より多くの子供たちに夢を与えられる活動になればいいと思います。

補足

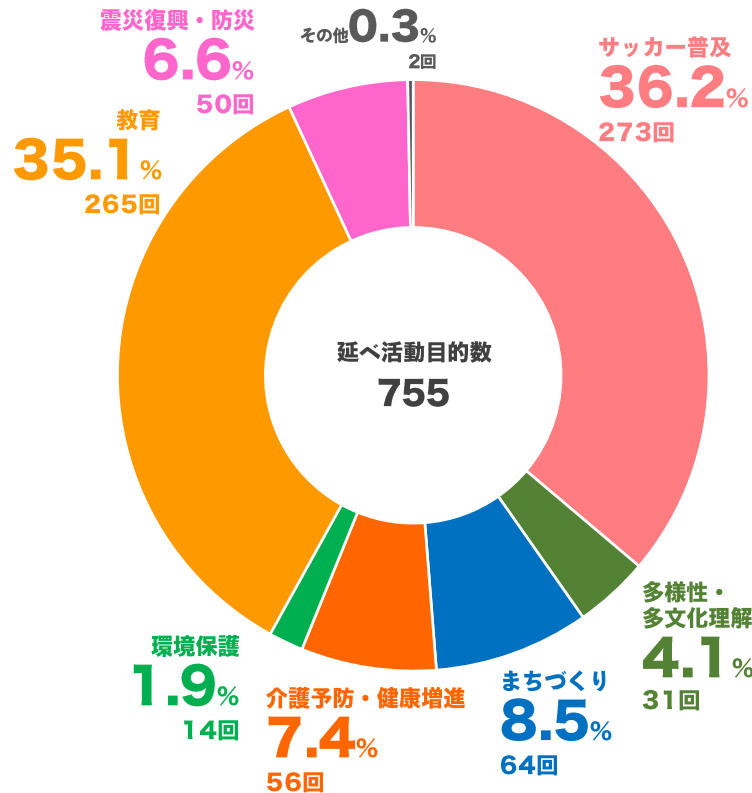
-



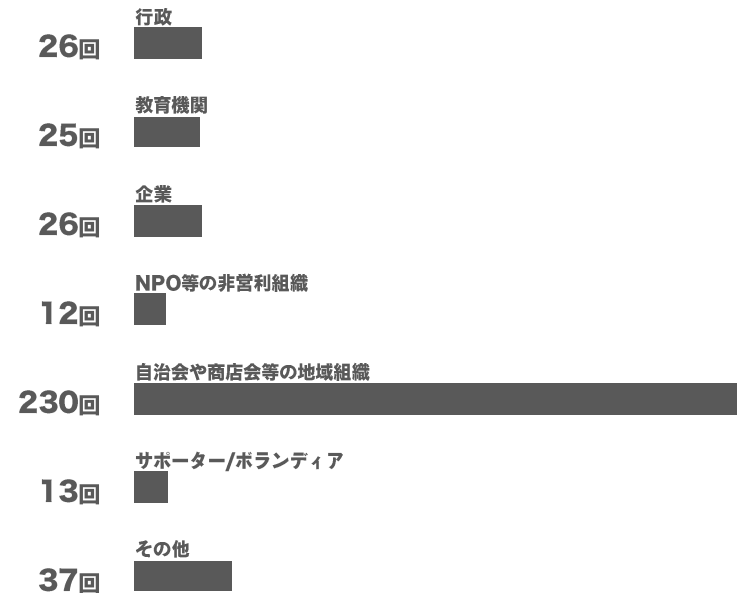
ホームタウン
福島県／福島市・会津若松市を中心とする全県

年間活動回数：**373**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



福島県産農産品生育、販売PR活動

東日本大震災による原発事故の風評払拭活動としてスタート。現在はりんご、桃、お米、ぶどう、洋梨を生育している。県内農家さんとのコラボ事業として、果物の木オーナー制度の活用や田んぼを買取り、選手とスタッフで生育する。サッカークラブが農作業に取り組む姿をメディアを通して全国に発信することで、サッカーに興味が無かった方にもクラブとして取り組んでいる活動を知ってもらうきっかけとなり、風評の払拭はもちろん福島県産品のPRとして広く発信できるものだと考える。生育した農産品はWEBでの販売のほか、アウェー会場や提携している湘南ベルマーレの試合会場を中心にブースを出店して販売している。

活動場所 : 大野農園／安斎果樹園／カトウファーム／鈴木農園／渡辺果樹園／株式会社いちい／福島県／福島市 他

取組テーマ : ②防災・震災復興

協働者 : ⑤行政、県内農家

協働者名 : 大野農園／安斎果樹園／カトウファーム／鈴木農園／渡辺果樹園／株式会社いちい／福島県／福島市 他

活動で工夫した点

桃の生育で言えば、大きな作業で年間5回行っている。花が咲く前に摘蕾、花を摘み取る摘花、果実の量を調整する摘果、収穫前に反射シート敷き、そして7月末～8月初旬にかけての収穫。単なる収穫体験ではなく、ガチンコで作業を行う。年間作業を通して農家さんとの関係を築き、地域に根ざしたクラブとして、選手と県民の方との接点（ニュースや新聞で見る機会、サッカーだけではなく活動）を増やす。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

屋外での活動のため天候に左右されることと、果物によっては作業時期が限られており、選手のスケジュール調整が難しい時がある。また、5種類の農産物で年間活動回数が約30回あるため、作業時期がかぶる時など選手への依頼も続いてしまうことがあるが、クラブとして力をいれている活動のため、強化部にも理解してもらっている。

クラブや地域の活動後の変化

選手にとって福島のクラブに来た意味を理解してもらう良い機会だと思っている。ほとんどの選手が初めての経験のため、農業と福島県の実情（東日本大震災）についての認識を高める意味もあり、クラブ全体で積極的に取り組む姿勢ができています。



協働者の声

Jリーグ所属のプロサッカー選手が農業と一緒にいることで、サッカーファンを中心に「果物」「農業」に対する認知が高まっていると感じる。農業＝古いというイメージではなく、クラブを通して、農業は素晴らしいもの、福島県産品の魅力発信ができています。農家とサッカーチームという異業種で連携を図ることで新しいお客様への購買にも繋がり、チームはさらに別の農家との繋がりも生まれる。（大野農園：大野さん）

参加者の声

この活動の参加者＝選手にとっては、福島のクラブとしての活動事業と福島県への理解を高めてもらっている。クラブとしてこの活動を「農業部」という部署を設け、選手の中には「農業部部长」として毎回参加している選手もいる。「ここまで農業に力をいれているクラブは無い。福島のサッカーチームだからこそできる。貴重な経験になる」との声が多い。

活動の「ここぞ！」というPRポイント

生育する農産物の販売とアウェー等での物販を合わせて収入面の1つとしている。ボランティアではなく、しっかりと売上をあげる仕組みができていますのでその場限りではない継続した活動ができています。

補足

福島県産品のPR・販売について言えば、基本的にはアウェー会場での販売に留まっているが、ホームタウン担当間や東北クラブとの繋がりで昨年は大宮、仙台へのブース出店も実施した。シャレンの活動としてご理解いただけるのであれば、J1～J3カテゴリーを超えて今まで行けていない地域にも拡大したい。

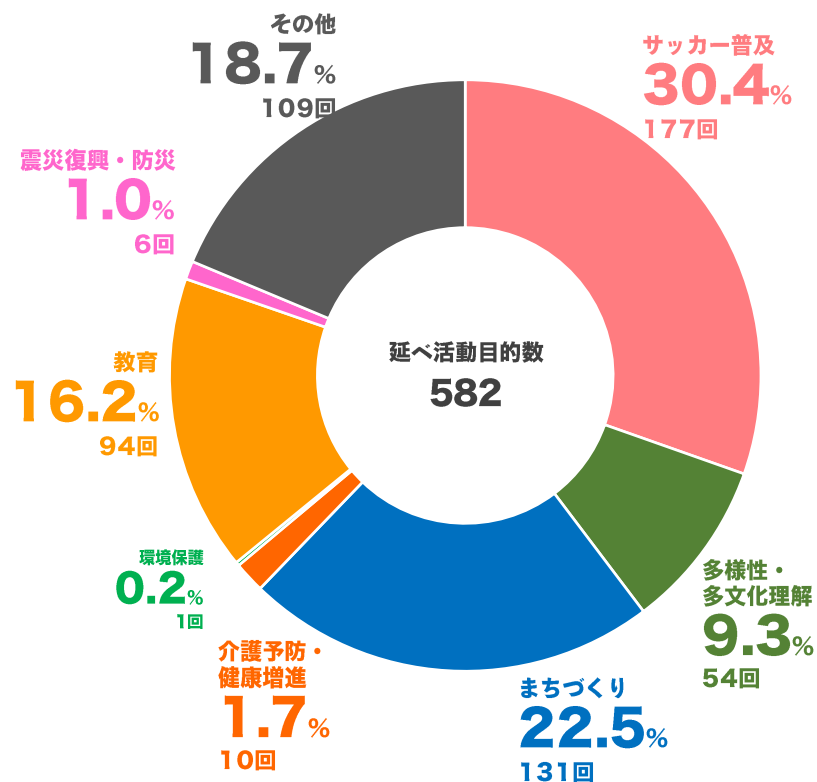


ホームタウン

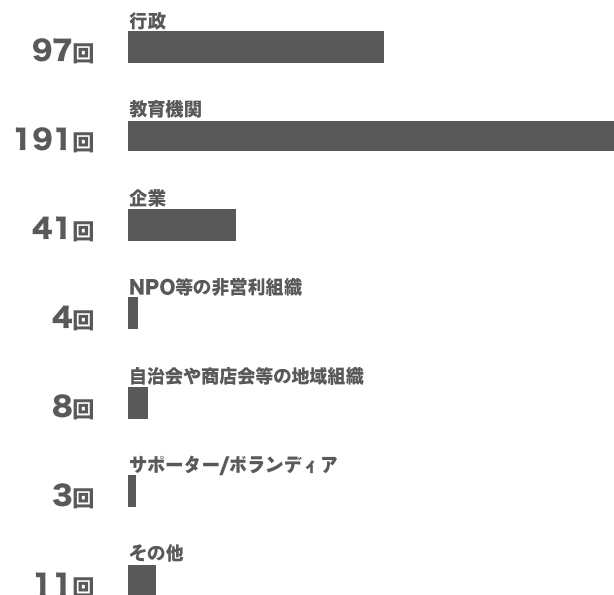
茨城県／鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、銚田市

年間活動回数：**194**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



特別支援学校サッカービューイング

特別支援学校の多くの生徒は、スタジアムからわずか3.4kmの距離にもかかわらず、サッカー観戦を楽しめないうちがいました。本イベントは横山教頭先生の「サッカーが好きなのに、障がいや家庭の事情等でスタジアムへ行けない子どもたちがたくさんいる。アントラーズを身近に感じてもらい、サッカー観戦を楽しませてあげたい」との想いから実現しました。NTTドコモ様の技術を活用し、体育館にスタジアムからの高画質映像を配信。学校の先生方がコンコースやウォーミングアップの様子を紹介しました。さらにクラブマスコット「しかお」との質問コーナーや応援体験、遠隔ハイタッチ体験などを実施した後、試合観戦を楽しんでもらいました。

活動場所 : 茨城県立鹿島特別支援学校、
及び茨城県立カシマサッカースタジアム

取組テーマ : ⑨スポーツ観戦の生きるチカラに

協働者 : ①企業、④学校

協働者名 : 茨城県立鹿島特別支援学校、株式会社NTTドコモ

活動で工夫した点

生徒たちと普段接している先生方に出演いただくことで、サッカーに馴染みの無い子ども楽しめるようにしました。また、ずっと座り続けることが難しい生徒の為に、会場（体育館）に休憩スペースとサッカーポウリングを用意し、息抜き出来るようにしました。その結果、休憩した生徒が再度観戦に戻る姿が見られました。応援体験、ハイタッチ体験、質問タイムもまた、双方向プログラムとして子どもたちを惹きつけるのに効果的でした。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

当初は活動の趣旨・アクティビティが十分に伝わっておらず、参加者が集まりませんでした。教頭先生に許可を頂き、アントラーズスタッフがPTA会議に出席。当日配布予定のタオルマフラーを持参し、実施イメージを共有したことで生徒・保護者計約90名の参加に繋がりました。また、学校の先生方には業務の合間を縫って台本の読み合わせをしていただき、前日リハーサル及び当日は一日中準備～実施終了までご協力いただきました。

クラブや地域の活動後の変化

初の試みでしたが、イベントを楽しもうとする先生方の姿勢が子どもたちに伝播し、沢山の笑顔と歓声に包まれたイベントとなりました。また、クラブとして、スタジアムで観戦できない方々の実情を知り、新たな観戦スタイルを考えるきっかけとなりました。現地観戦してもらうことだけを集客と捉えるのではなく、「行けないけど観戦したい」ニーズに応えられる施策を検討しています。



協働者の声

NTTドコモ増原さんの声：サッカー観戦を「いつもの場所でいつもの仲間と体験する」ことを通し、社会（スタジアム）へ踏み出すきっかけにしてほしい！／横山教頭先生の声：サッカーが好きなのに、障がいや家庭の事情等でスタジアムへ行けない子どもたちがたくさんいる。アントラーズを身近に感じてもらい、サッカー観戦を楽しませてあげたい！／吉澤先生の声「生徒向けのイベントでしたが、私達も楽しく参加でき、とても貴重な経験ができました。選手ウォーミングアップのリポートをピッチサイドでできたことは一生忘れません！」

参加者の声

中部男子生徒「スタジアムじゃなくて体育館だったけど、それでも面白かった！」
高等部男子生徒「好きだったサッカーがもっと好きになった。スタジアムに行ってみよう！」
平野校長「サッカービューイングが社会参加に繋がってほしい。生徒がスタジアムに行きたいと思ってくれれば嬉しい。」

活動の「ここぞ！」というPRポイント

映像から先生が登場した瞬間に盛り上がり、タオルマフラーを全員で振ったりした事で非常に一体感が高まりました。涙ぐみながら感想を話してくれた保護者も。費用面・運営面の課題を克服し、今後も続けたいです！

補足

クラブにて事前告知を行い、新聞社4社に取材/掲載いただきました。生徒の顔出しはNGでしたが、学校側は「学校の存在を広く知ってほしい」との事で協力的でした。ホームタウンかつ遠方の小学校でも実施してみる、学校周辺の住民にも参加してもらおうなど、地域の賑わいや障がい者に対する理解向上に発展できますので、ぜひ他クラブでも実施してみただければと思います。

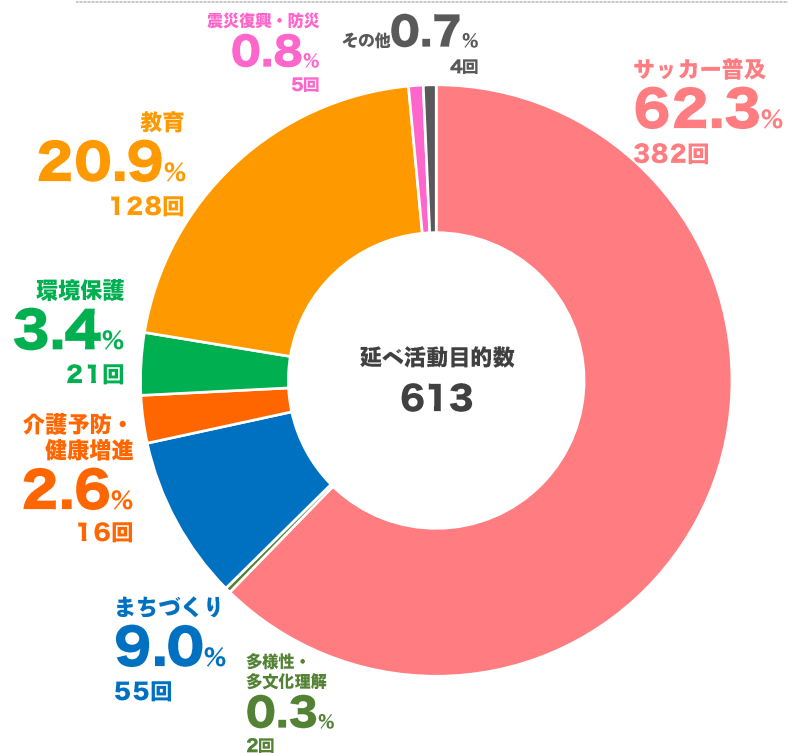


ホームタウン

水戸市・ひたちなか市・笠間市・那珂市・小美玉市・茨城町・城里町・大洗町・東海村

年間活動回数：**613**回

活動目的の構成



協働者

行政	NO DATA
教育機関	-1回
企業	-1回
NPO等の非営利組織	-1回
自治会や商店会等の地域組織	-1回
サポーター/ボランティア	-1回
その他	-1回

※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



水戸ホーリーホックメディカル教室

2018年よりクラブハウスを城里町に移転し、クラブから城里町へ何か恩返しすることはできないか模索している中で、公民館講座で何かできないかと相談されたのが始まりです。地域住民の皆様を手軽にかつ定期的に、プロと同じようなメニューで体をほぐす運動を取り入れることを意識して実施しました。自宅でも簡単にできるエクササイズ等が好評で今年度も継続して事業を行うこととなりました。

- 活動場所** : 城里町常北公民館
- 取組テーマ** : ⑥地域のコミュニティ
- 協働者** : ⑤行政
- 協働者名** : 城里町

活動で工夫した点

参加者それぞれの目的に沿うような形で、1人のコーチが担当することはせず3人のコーチをローテーションさせることで様々なニーズに応えられるように工夫した。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

どのような年齢層でどれほどの男女比になるのかが、あまり想像がつかなかった。そのため、コーチの経験に頼り当日臨機応変にメニューを変えながら実施した。

クラブや地域の活動後の変化

地域のコミュニティの1つとなりつつある。水戸ホーリーホックに対する認知度の向上。



協働者の声

城里町公民館講座担当者の声：城里町でこのようにプロの方の指導を受けられる機会が出来たことに嬉しく思います。受講生の方からも、好評で継続的に行ってほしいとの意見をいただきました。

参加者の声

受講生の声：自分の身近の所で、気軽に参加できてとても良かった。特に、インナーマッスルを意識したメニューはとても勉強になり自宅でも実践するようにしています。水戸ホーリーホックへの関心も高くなり、講座を受けて以降スタジアムへ足を運ぶようになりました。

活動の「ここぞ！」というPRポイント

住民の方に水戸ホーリーホックを身近に感じていただき、体を動かすことの大切さを感じて欲しい！

補足

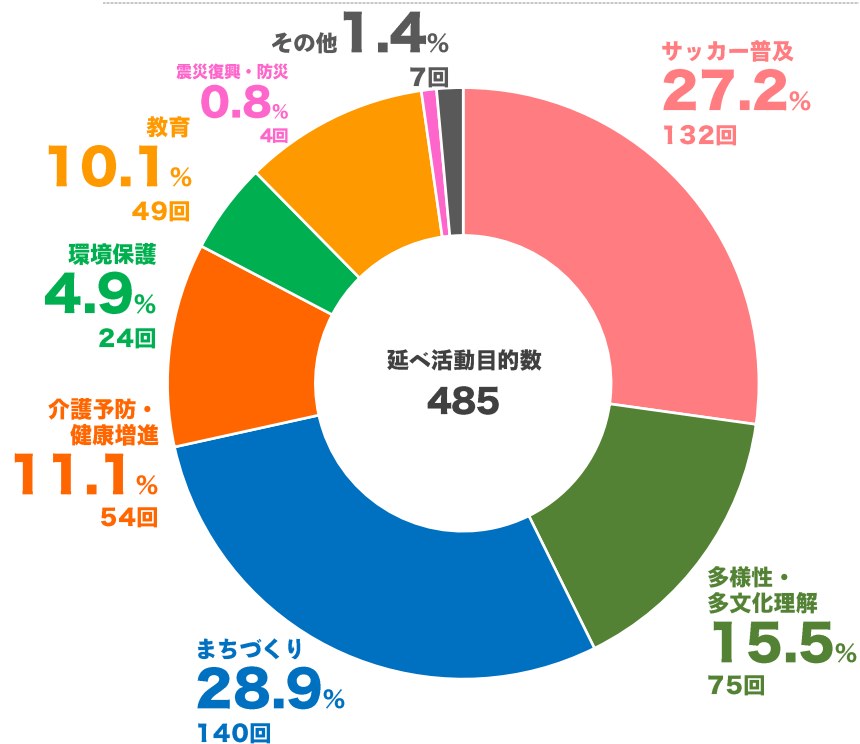
-



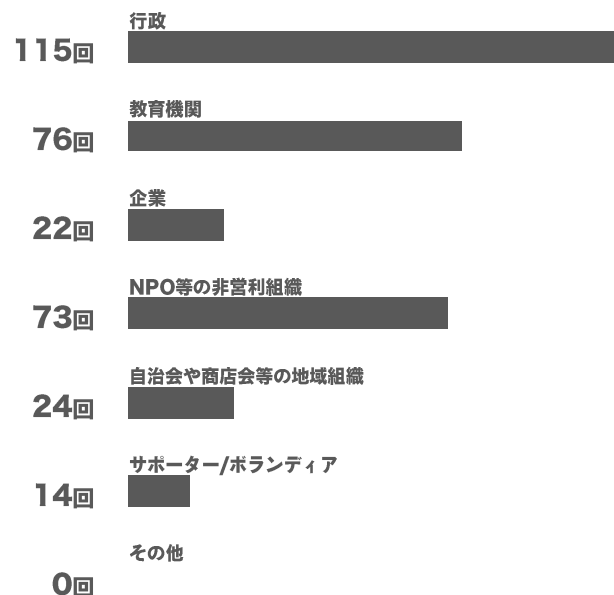
ホームタウン
栃木県 / 宇都宮市

年間活動回数：**323**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



食育キャプテン活動

2017年に県内他プロスポーツチームと共に子ども達へ「食べて強い体をつくろう」というメッセージを伝えてほしいということで、「食育キャプテン」に任命いただきました。しかし具体的な活動があまりできていなかったため、保育園でのおにぎり作り体験やホームゲームでの食育イベントを実施しています。ホームゲームでは選手との食育クイズ、「1日の野菜必要量350gを当てよう」「箱の中身の野菜はなんだろう？」ブースを実施。

- 活動場所** : 栃木県グリーンスタジアム、学校法人石嶋教育会
認定すずめこども園、ひかり幼稚園、
- 取組テーマ** : 教育
- 協働者** : 企業／学校／行政
- 協働者名** : 栃木県農政課、栃木県食生活改善推進員協議会、
よつ葉生活協同組合、株式会社新朝プレス、各幼稚園

活動で工夫した点

1日の野菜の摂取目標量が350gであることを周知したいということで、ホームゲームにて選手を交えて食に関するクイズ大会や、ゲームを実施し、子供たちに興味を持ってもらえるようにした。

活動で大変だった(苦労した)ポイント

ホームゲームに実施する食育ゲームの内容決定に時間がかかった。スムージー作りなど、子供たちが実際に野菜を口にする活動を実施したかったが、保健所の申請が下りず、野菜の重さを計ったり、野菜の形を決めたりというゲームに変更した。

クラブや地域の活動後の変化

栃木県担当課が非常に喜んでくださり、2019年に栃木県で実施された「食育推進大会」で事例発表をしてほしいとの依頼がありました。そのような活動をしていることが、地域の方々へのPRにもなった。



協働者の声

「とちぎ食育応援団」である栃木県食生活改善推進員協議会、よつ葉生活協同組合の方々、たくさんの子供たちがブースに集まってくれたことをとても喜んでくれました。

参加者の声

「1日に食べなきゃいけない野菜の量を覚えた」「意外とたくさんたべなければならぬことがわかった」「選手がたくさん食べて活躍していることがわかった」

活動の「ここぞ!」というPRポイント

「食」というスポーツに欠かせないものの大切さを子供たちに広めることができる活動であること。

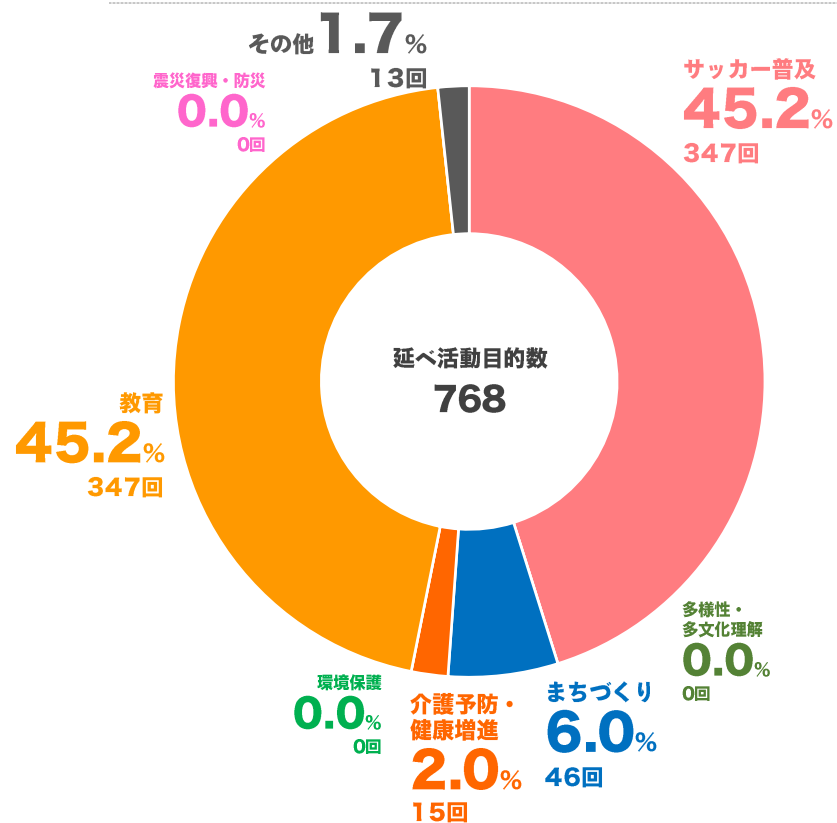
補足



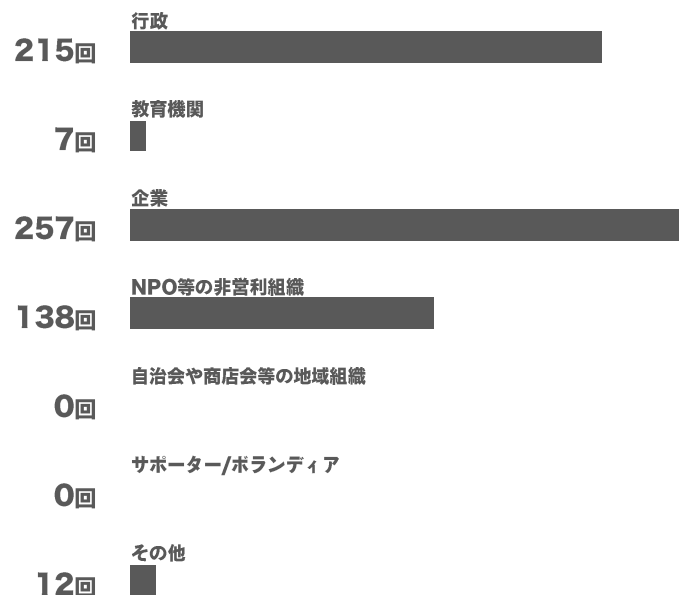
ホームタウン
群馬県／草津町、前橋市を中心とする全県

年間活動回数：**420**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



健康づくり教室in前橋市

前橋市在住の中高年の方を対象に群馬ヤクルト（株）様の栄養講座と善衆会病院様の運動教室を行う地域の健康促進を目的とした活動です。ご高齢者の方々にも運動をする楽しさや親しみを抱いてもらうことや毎日の食生活におけるアドバイスなどを伝えより澆刺とした人生を送ってもらいたいという強い気持ちがあります。

活動場所 : ヤマト市民体育館

取組テーマ : ⑤健康/SIB

協働者 : ①企業, ③住民, ⑤行政

協働者名 : 前橋市、群馬ヤクルト販売株式会社、善衆会病院

活動で工夫した点

栄養講座にて当日からすぐに実践できるように身の回りにある食材を使ったメニューを提案した。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

運動に対して苦手意識を持っている参加者の方も多く、運動のパートに移行する際に少々難色を示す参加者もいたが、善衆会病院の指導者の方が運動意識へのハードルを下げながら運動へ興味を持ってもらうようにユニークに実行していただいた。

クラブや地域の活動後の変化

参加者の方々の前向きに取り組む姿勢に刺激され、クラブの同席者も健康に対する意識が変わっていった。



協働者の声

善衆会病院の理学療法士の声：講習開始時は緊張しましたが参加者の皆様と楽しく体を動かすことができました。

参加者の声

講師の方の話がわかりやすくとても素晴らしかったです。体全体が動かせてよかったです。

活動の「ここぞ！」というPRポイント

高齢者の方々が健康でアクティブな生活を送ることが地域の活性に繋がる。

補足

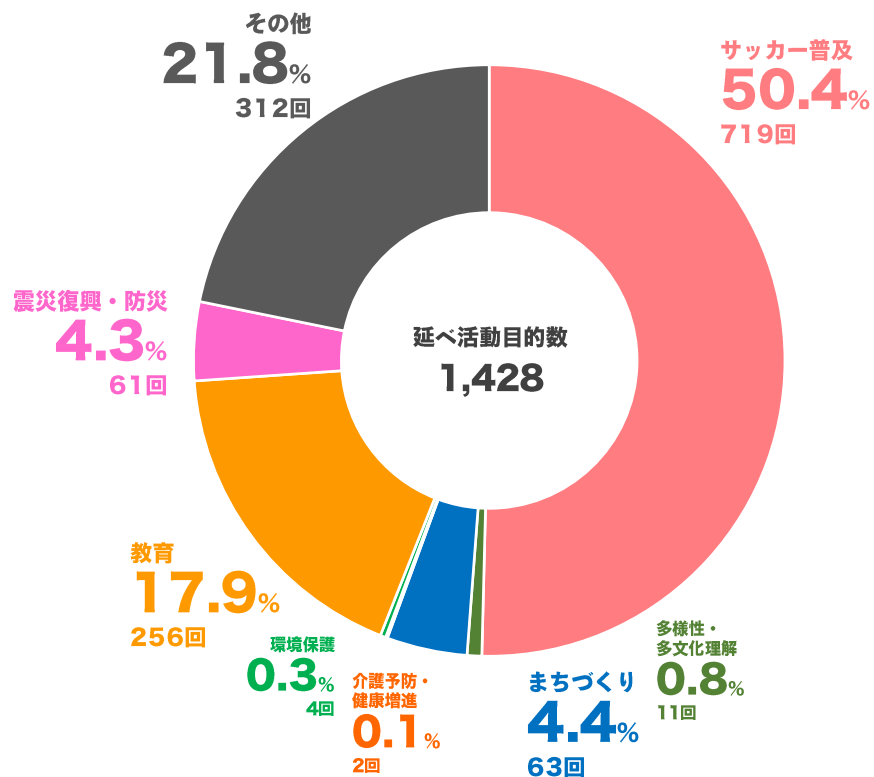
-



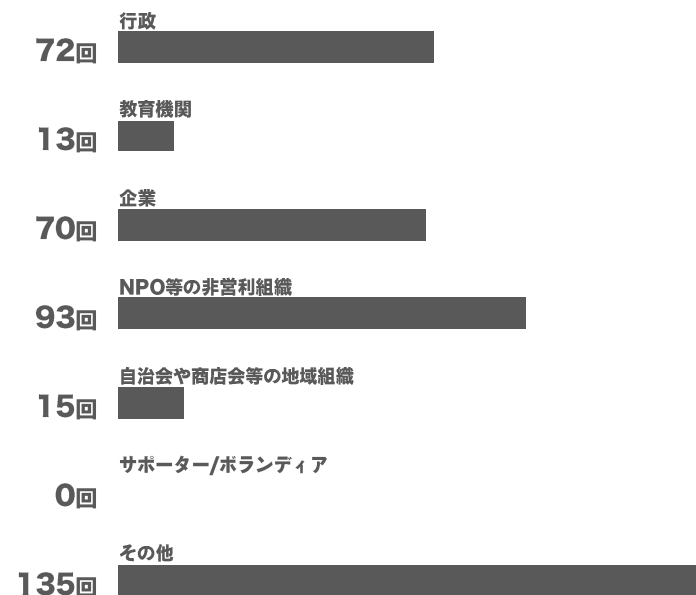
ホームタウン
埼玉県／さいたま市

年間活動回数：**1,161**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



埼玉県上下流交流事業 「水源わくわくセミナー」

ダム建設が進む群馬県吾妻郡長野原町を訪問し、ハッ場ダムの役割や地元の皆様の苦労などを理解してもらうとともに、サッカー教室を通じて地元の小・中学生との交流を図る。



- 活動場所** : ハッ場ダム建設地（群馬県吾妻郡長野原町）
- 取組テーマ** : ダイバーシティ（共生社会）／持続可能な地域づくり／教育地域のコミュニティ／環境
- 協働者** : 住民／行政
- 協働者名** : 埼玉県、埼玉県企業局、国土交通省関東地方整備局ハッ場ダム工事事務所、群馬県、群馬県長野原町

活動で工夫した点

親子での参加など多くの方が参加しやすいよう夏休みに開催したこと。／ダム見学のほか、クイズ大会やサッカー教室後のミーティング、サイン会、落合キャプテンの講話など、参加者交流ができる時間を多く設けたこと。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

活動初期の頃は整備されたグラウンドがなく、前日から小石拾いやライン引きなど暗くなるまで準備をしていたと聞いています。／開催にあたって、地元の町や県、国土交通省など準備から終了まで数多くの協力が必要なこと。

クラブや地域の活動後の変化

20年以上も続けていることから、地元の皆さんにとっても毎年楽しみにしている恒例事業となっている。／定着してきたことにより、より一層の水源地域振興を図るといった次なるステップにつながっている。／サッカー教室という子供たちが楽しみながら参加し交流できる事業だからこそ多くの人に喜んで参加してもらうことができ、それを通してダムや水源地域への理解が進みお互いの立場や状況を思いやる気持ちが育まれている。

協働者の声

埼玉県担当課の声：サッカーという身近なスポーツだからこそ取り組みやすく、多くの関心を引くことができるとともに、活動を通して多くの人の心を動かすことができました。サッカーの持つ力を改めて認識しました。普段は全く違った環境で仕事をしている人たちがこの事業に関り、全ての人が少しでも良いものによようと全力で取り組んでくれる姿に感動しました。

参加者の声

子供：とにかく楽しかった。サッカー教室はコーチが優しく丁寧に教えてくれたので夢中になれた。サッカーが上手になれるほかにも水の大切さやありがたさがわかった。大人：子供がとても楽しそうで生き生きしていた。サッカーの技術の他にも、水源地の方々の苦労や水のありがたさなど多くの大切なことを学べた。

活動の「ここぞ！」というPRポイント

多くの協働者の協力によって一つのことが成し遂げられることの達成感や、参加者の皆さんにもサッカーを通し、たくさんのお話を伝えたり感じたりしてもらうことができること！

補足

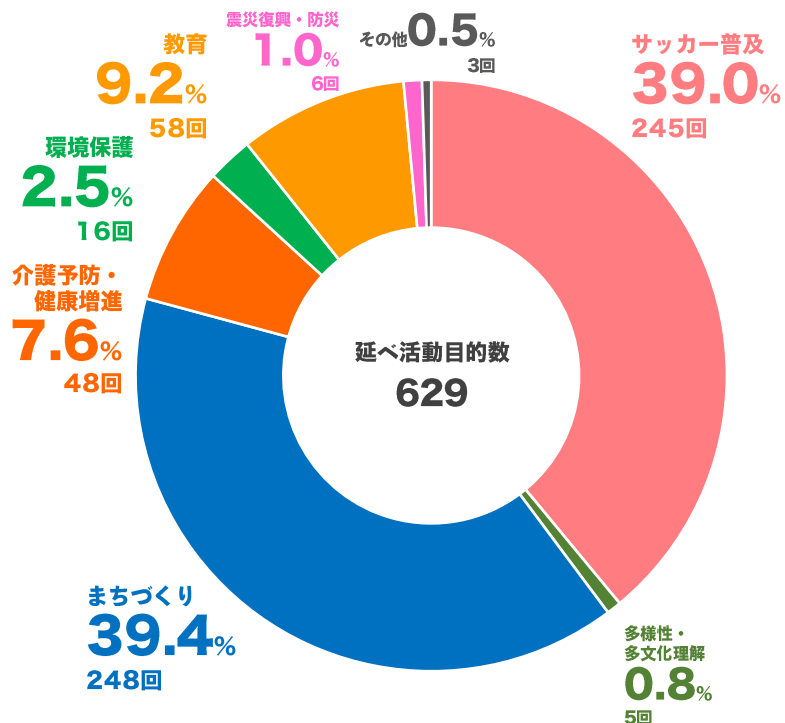
浦和レッズ（ハートフルクラブ）は、平成8年から長年にわたり参画した功績が認められ、昨年、国土交通大臣から水資源功績者表彰を受賞しました。



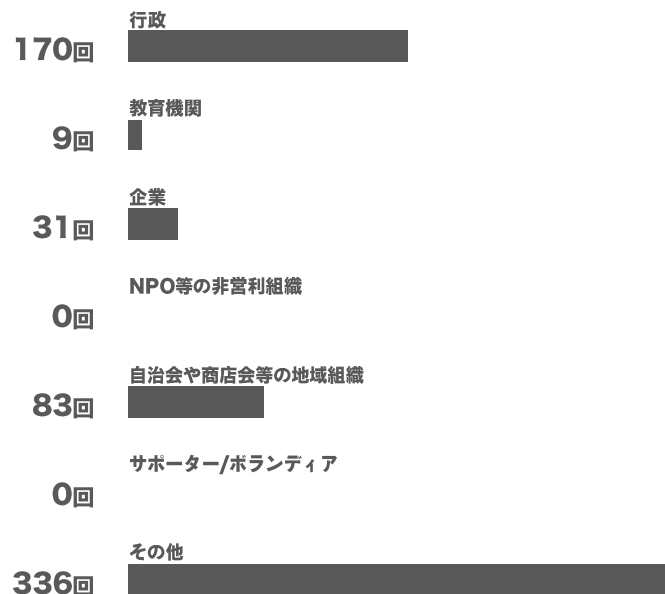
ホームタウン
埼玉県／さいたま市

年間活動回数：**629**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



手話応援デー

障がいのある人もない人も一緒に大宮アルディージャを手話で応援しようと、2006年からスタート。一時中断時期はあったが、2020シーズンで12回目を迎えるクラブの代表的な社会連携活動のひとつ。当日は、スタンドでの応援だけでなく啓発、手話体験、聴導犬等PRのブースもあり、スタジアム全体が手話応援に関わることができる仕組みとなっている。また、選手も手話応援デーTシャツを身に着けてピッチへ入場する。毎日興業株式会社の田部井様へ、地元経済会代表から「アルディージャのために何かしてほしい」と声がかかり、ノーマライゼーションの普及を目的としてみんなで一体となって応援できる企画を考案し実現した。

活動場所 : NACK5スタジアム大宮

取組テーマ : ①ダイバーシティ (共生社会)

協働者 : ①企業, ②NPO, ③住民, ④学校, ⑤行政, メディア, 実行委員会、後援団体等、計約80社/団体

協働者名 : 手話応援実行委員会 (事務局: 毎日興業株式会社)

活動で工夫した点

スタンドでの手話応援だけでなく、啓発ブース、手話体験ブース、聴導犬PRブースなどを通して、スタジアム全体が手話応援に関われる仕組みづくりをしている。そのほか、オリジナル手話応援デーTシャツ「愛してるぜTシャツ」の配布 (約2,000枚/年) や手話応援エリアに多くの手話応援デーフラッグを掲出し、スタジアムへの初来場者でも理解できるように広報活動を強化した。

活動で大変だった (苦労した) ポイント

初めて実施した2006シーズンでは、サポーターとの事前連携がなかったため、全体の応援統制を乱してしまい、中断を余儀なくされた。しかし、諦めずサポーターに掛け合うことで、実行委員会ですポーター代表も交えて協議した結果、2010シーズンに再開することが出来た。現在では、サポーターからの認知・理解も深まり、サポーターが手話応援をリードして自発的に参加してくれている。

クラブや地域の活動後の変化

2006年に80人の有志で始まった手話応援であるが、回を重ねるごとに賛同者が増えた。手話応援実行委員会という形で組織化もされ、参加者も年々増えている。その結果、各企業や団体からの興味や関心が増し、メディアへの露出も増えた。そのような各メディアも含め現在では協力企業や団体は約80社/団体となり、クラブの代名詞的な社会連携活動となっている。



協働者の声

手話応援実行委員会委員長 (毎日興業株式会社代表取締役会長) 男澤 望さまの声: 手話応援は、障がいのある人となない人が一緒になって作り上げているところに良さがあると思います。スペシャルオリンピックスで「ユニファイド」障がいのある人となない人が一緒にスポーツを楽しむことを進めています、手話応援もその域に達して来ているように思います。実際、試合後、「ありがとうございます」の声、ハイタッチ、握手の多さで感じました。引き続き「愛してるぜ!」の手話を広め、心優しい社会を作っていきます。

参加者の声

参加者 (地元小学生/聴覚障がい者) の声: 手話応援をきっかけに初めてサッカーを見に来たけれど、手話応援はとても楽しかった。スタジアムのごはんもおいしかった。手話体験コーナーでは、みんなが手話を覚えようとしていて、とてもうれしかった。

活動の「ここぞ!」というPRポイント

手話応援デーは、ダイバーシティ (共生社会) を目指す社会づくりにおいて、障がいのある人もない人も、みんなで一緒になってスポーツを応援するための社会連携活動のモデルケースであると考えています。

補足

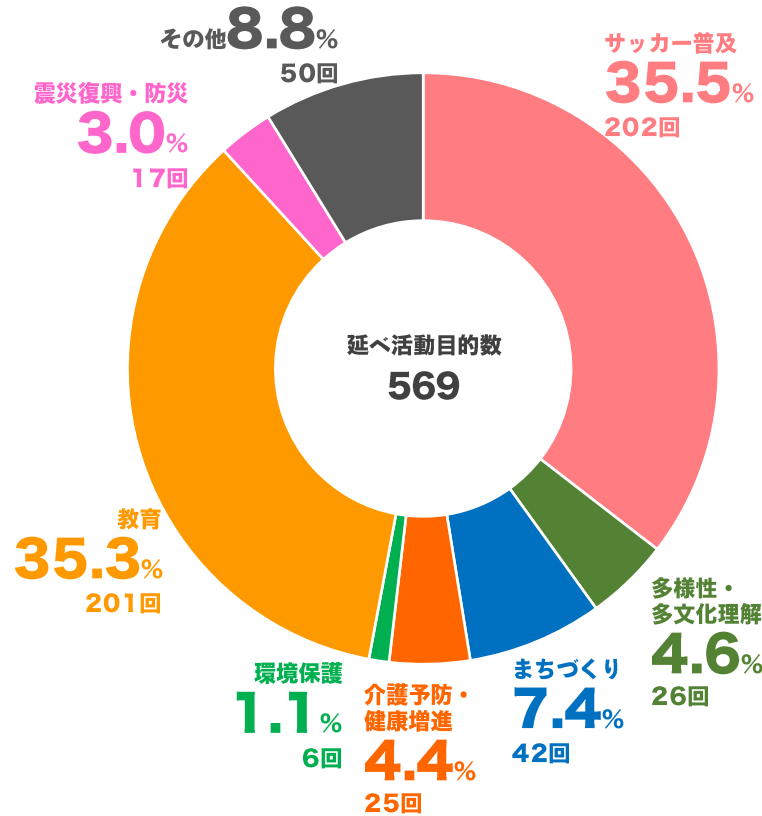
多くの人や団体に賛同頂き、計12回で累計約13,000人が参加。活動当初に大宮ろう学園に通っていた生徒が、今では成人して実行委員に参画するなど、長く継続してきた成果となっています。埼玉県知的障がい者サッカー大会の開催 (通算13回目) や、大宮ろう学園への選手訪問 (11年連続) など、手話応援デーをきっかけとして様々な活動の実現にも派生し、すべてが1本の線繋がっています。今年は、5月30日実施予定。



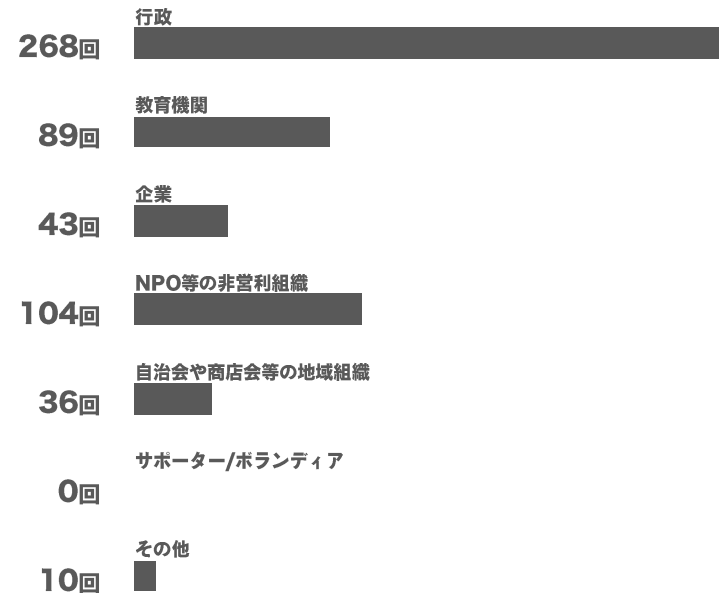
ホームタウン
千葉県 / 市原市、千葉市

年間活動回数：**410**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



J0プロジェクト (障害者施設への選手訪問)

「J0プロジェクト」は「ジェフ応援プロジェクト」の略称で、「(障害者施設が)ジェフを応援」「ジェフが(障害者施設を)応援」の2つの意味があり、障害者施設が製作するオリジナルグッズでジェフの応援を盛り上げるほか、千葉市内の障害者施設の販路を拡大し、障害者の自立支援の促進を図ることを目的としています。2016年よりスタートしているこの取り組みを社会貢献型のホームタウン活動に昇華させるため「選手の訪問」という新たな接点を作って障害者のモチベーション向上を目指しました。

活動場所 : カフェハーモニー (千葉市中央区弁天3-1)

取組テーマ : ダイバーシティ (共生社会)

協働者 : NPO/行政

協働者名 : 千葉市 (障害者自立支援課) / 千葉県障害者就労事業振興センター

活動で工夫した点

選手の訪問活動だけでなく、クラブイベント(ユナバまつり)での実販売や、障害者施設の方を試合に招待する(富士電機シート)など、立体的な取り組みになるよう検討しました。

活動で大変だった(苦労した)ポイント

販売は継続してきたものの、担当者に入れ替わりにより目的や意義が薄れマンネリ化していましたが、シャレン!の視点を共有することで活動に新たなモチベーションを加えることができました。

クラブや地域の活動後の変化

選手が訪問したことで施設利用者から次回作の要望など声をかけられる機会が増えたとのこと。クラブ、行政、NPOがこれまでやってきた活動の価値を再確認することができました。



協働者の声

千葉県障害者振興センターの声: J0プロジェクトという千葉市・福祉事業所・ジェフユナイテッド共同プロジェクトが始まって4年がたちました。その取り組みは定着した反面、スタートした当初の思いをどうやって維持していくか思案をしていた矢先のこの取り組みは、予想を超えた参加者の反響を得ることができました。ぜひ今後も続けさせていただきたいスペシャルプロジェクトです。

参加者の声

カフェ・ハーモニー様のコメント「うまくできるかなあ」「緊張するう」「教えるなんて無理」と言って迎えた当日。二人の選手のフレンドリーな対応に少しホッとしました。一生懸命取り組む選手に、夢中になって教えるうちに、緊張がほぐれていきました。終わってみると、「楽しかった」「ほめてくれて嬉しかった」「練習通りにできた」という充実した思いがわいてきました。とても貴重な経験でした。ありがとうございました。

活動の「ここぞ!」というPRポイント

「ジェフのショップに置いてもらう」のモチベーションから、「ジェフと一緒に作り、ジェフのイベントで販売する」という主体的な活動への進化。

補足

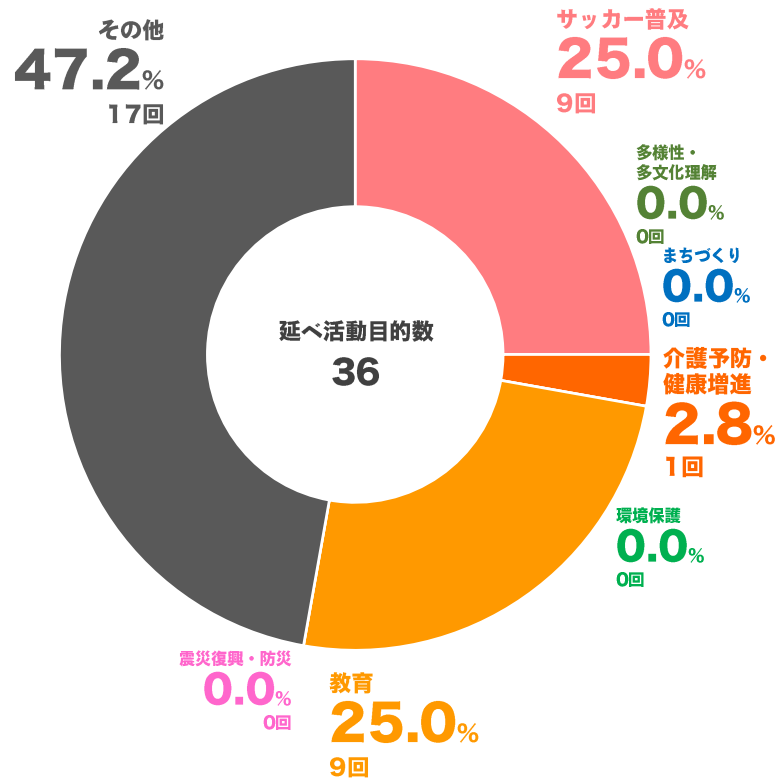
-



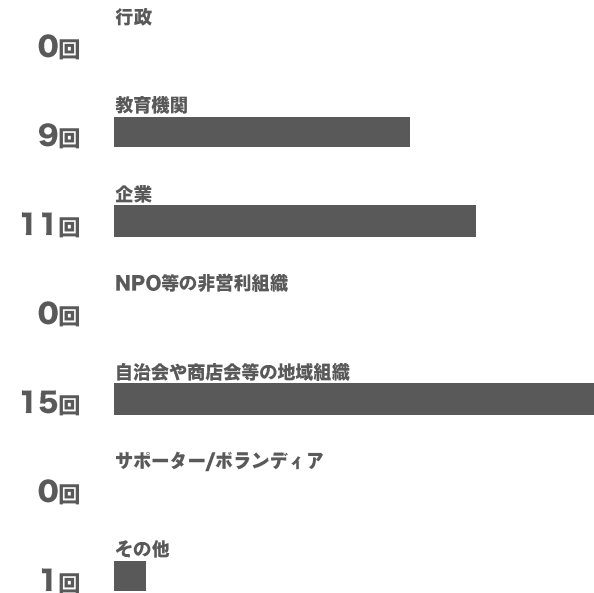
ホームタウン
千葉県 / 柏市

年間活動回数：**36**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



学校訪問「レイソルしま専科」

企画した目的としては、「地域密着」を謳うJリーグの理念に基づき、ホームタウンの子供たちの健全な育成に寄与することです。内容は選手やコーチが小学校へ訪問し、自らの体験談や、実技披露などサッカーの楽しさを体験してもらうプログラムを通じて、子供たちと交流する企画。

活動場所 : 柏市内小中学校

取組テーマ : 教育

協働者 : 学校／行政

協働者名 : 柏市役所、柏市教育委員会、柏市内小中学校

活動で工夫した点

柏レイソルを知ってもらうために、チームの歴史や現在所属をしている選手の紹介。そして実際に試合を見に来てもらうために試合の日程も紹介をして子供たちに柏レイソルを応援してもらうことを工夫した。また、メディアの方々にも来ていただき、レイソルのサッカー番組でも紹介してもらった。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

柏市内の小中学校を基本としていますが、東葛地域(ホームタウンエリア)内の学校からもお招きいただきました。ですが、柏を出るとまだレイソルを知らない子供たちは多く、サッカーにも興味がない子供たちもいてそこは大変でした。短い時間の中で、レイソルを知ってもらい興味を持ってもらう。子供たちに出来るだけわかりやすく説明をした。

クラブや地域の活動後の変化

実際にチケットを購入し、試合を観戦し、集客にも繋がった。



協働者の声

各学校の職員の方々：また来年もよろしくお願ひします等のお声を頂いております。

参加者の声

この企画を通して、柏レイソルを知り、サッカーにも興味を持ち、実際に試合に足を運んでくれたりもしています。また、サッカー選手になりたいという子供たちも企画を通じて多くいました。

活動の「ここぞ！」というPRポイント

2006年からはじめ、毎年10校ほど学校訪問の申し込みをしてくれています。子供たちに柏レイソルがどんなチームなのかを子供たちに紹介をしています!!!

補足

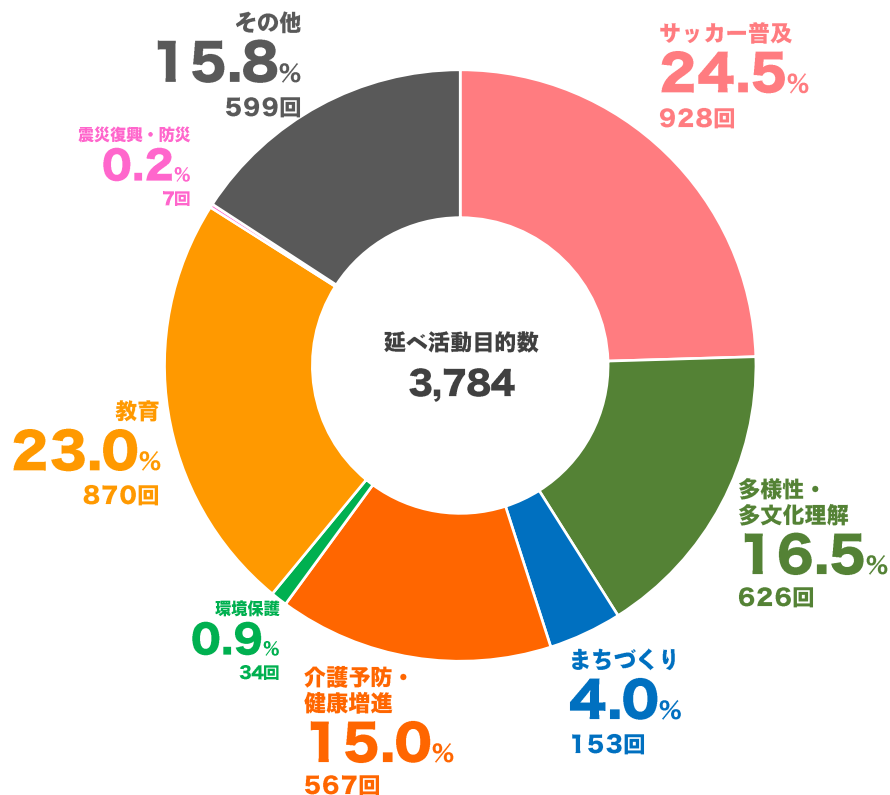
-



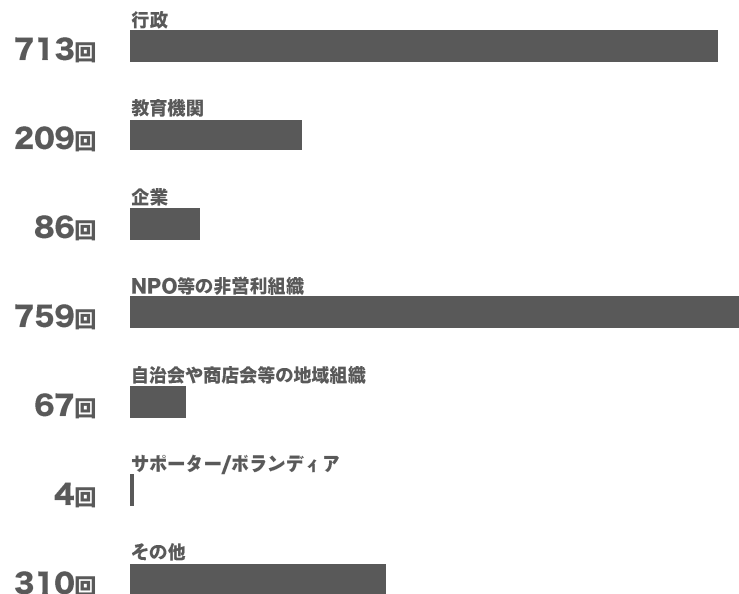
ホームタウン
東京都

年間活動回数：**1,995**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



少年院の少年たちの 社会復帰サポート活動

多摩少年院の体育で「サッカー教室」を実施したことをきっかけに、ホームタウンにおいて誰も取り残されることのない社会の実現を目指し、地元にある多摩少年院の少年たちの社会復帰をさらに支援すべく、彼らの「職業訓練（職場体験）」にも協力することに。トップチームの練習グラウンド・クラブハウスに迎え入れ、グラウンドキーパーやホペイロの業務体験、さらに選手との対談の機会を提供してきた。本人と家族だけではなく、そもそも貧困問題を含めた社会にも原因があり、また就労人口が減少する今後の社会で彼らにも次の活躍が期待されているため、一般国民にも関心を多く寄せてもらいたく、FC東京も積極的に関わりその発信にも努めている。

- 活動場所** : 多摩少年院およびFC東京小平練習グラウンド
- 取組テーマ** : 教育
- 協働者** : 企業／NPO／行政
- 協働者名** : 法務省、多摩少年院、認定NPO法人育て上げネット

活動で工夫した点

クラブのリソースを活用することにこだわった。少年たちと同年代の選手育成において、すでにJリーグが取り組んできた「よのなか科」のプログラムにヒントを得て、練習グラウンド・クラブハウスが職場体験として十分なコンテンツを提供できると確信し提案した。法務省にも相談したところ強い賛同が得られ、事前に審議官と企画官にも視察に来てもらい、まさに現地と一緒に企画内容を詰められたことが良かった。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

サッカー教室では、少年院の独自のルール（例えば握手含め接触禁止や名前前で呼び合わないなど）の把握や独特の雰囲気慣れるまでに苦労した。職業体験の受け入れも、より多くのことを学び、感じてもらうためにトップチームの公開練習日に合わせたく、少年院側にも日程調整してもらう必要があった。少年院に関して知らないことによる余計な誤解が生じないよう、強化部とも少年院側とも連携をかなり密に取り合った。

クラブや地域の活動後の変化

新聞やテレビのニュースでも採り上げてもらえ、一般に広く「少年院」のことに目を向けてもらいきっかけを増やせたことは大きな成果であった。クラブ内でも初回の時と比較して、実施を重ねていくごとに良い意味での特別感が薄れて、自然体で関われるレベルになってきた。また法務省や多摩少年院での評価も高く、それぞれの会議にその後も参加要請を受けて、事例発表をさせていただく機会が増えてきた。



協働者の声

●多摩少年院長の声：小平グラウンドにおける職場見学におきましては、当院在院者に大変貴重な機会を賜り、誠にありがとうございました。第一線で活躍するプロスポーツチームの選手と触れ合い、選手を支える方々のお仕事の一端に触れさせていただき、就労について視野の広がりを得ることにつながったものと考えております。●多摩少年院 統括専門官の声：職業の中でも、特別な業種であるスポーツ、サッカーに関わる方々の仕事に触れること、話ができること。ファン以上に特別感がある中、少年にとっては大変貴重な実習となっている。●認定NPO法人育て上げネットの声：原さんもFC東京さんも素敵でした。しばらく普段着はFC東京のシャツになると思います。少年も自分の不安な気持ちなどを聞いていただけて笑顔を見せていました。今まで負の経験が多い分、今回のようなたくさんの方々の愛を頂けることはとても大きい経験だったと思いました。●法務省 矯正局 少年矯正課の声：『少年院の在院生たちのことは、少年院に関わり続けるごく僅かな人々だけが、大切だと言いつつ世界がこれまででした。圧倒的多数の人々にとって、関心のない世界、そうする必要すら考えつかない世界だったと思います。今、変わってきていると、勇気付けられます。本当にありがとうございます！』

参加者の声

参加した少年…練習見学の時間になったときに元日本代表の石川選手にお会いしました。こういうお手伝いをしましたと伝えたら「現役の時も俺はそういう方々に感謝してプレーしていた」とおっしゃっていました。そういうところに感謝できない人は絶対に活躍できないともおっしゃっていました。今までサッカーをやってきた自分にあてはめてみたら、僕はそういうところに感謝できておらず、当たり前だと思っていたと気がつきました。

活動の「ここぞ！」というPRポイント

東京だけではなく全国に広げたい！法務省にも評価され、とても期待されている。クラブの練習グラウンドだからこそ、様々な社会体験と学びがあり、ファン含めて皆が支え合っていることも実感できる。

補足

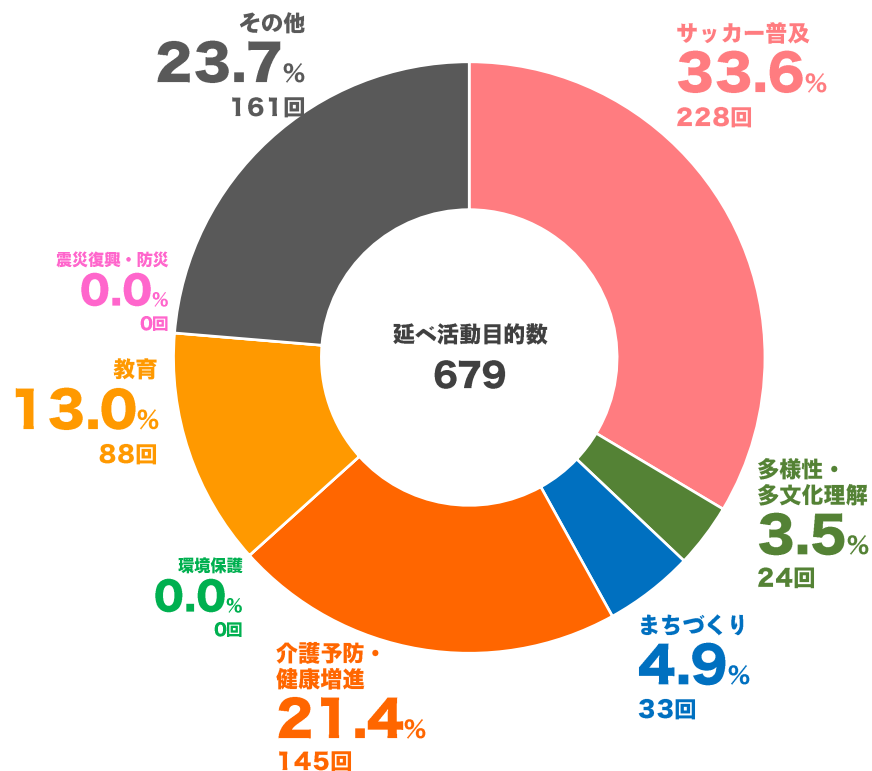
プロは華やかに見えるが、実際はとても厳しい世界。自主トレの様子も見てもらい、活躍している選手たちこそ、誰よりも努力している。誰もが努力し続けることの必要性、大切さも感じてもらうように心がけた。そしてJリーグで活躍する選手とも直に交流、激励してもらい、出院後の決意をより強くしてもらうようにした。先月の多摩少年院でのサッカー教室には「社会を明るくする運動」でご一緒した、保護司会の皆さんも来てくださった。



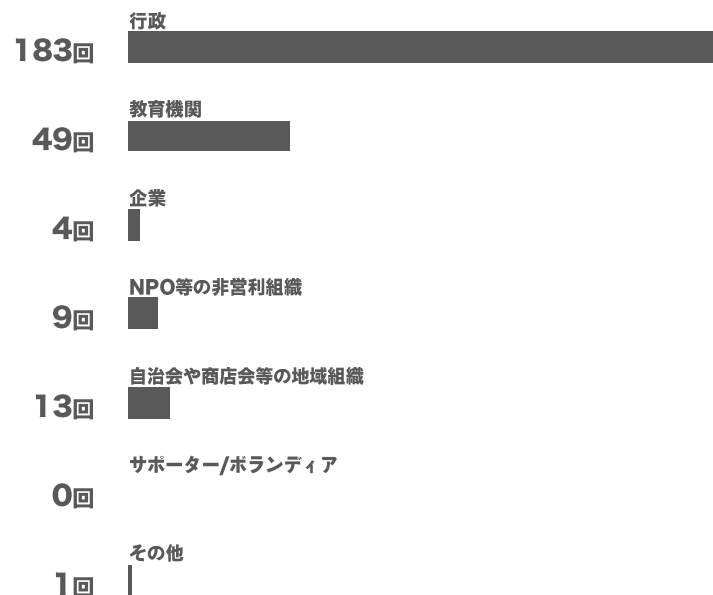
ホームタウン
東京都

年間活動回数：**268**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



障がい者スポーツ体験教室

東京ヴェルディのホームタウンの1つである東京都日野市から、市の事業として通年開催をする障がい者スポーツ教室を東京ヴェルディのコーチに指導してもらえないかと依頼があった。障がい者も健常者も誰でも参加できるというスタイルで、始まったこの活動。様々な目的がありますが、なかでも一番重要な目的が『障がいのある方が運動をする機会をつくる』。障がいのある方には運動をする機会自体がない場合が大変多い。この活動で1ヶ月に1回でも2回でも身体を動かす機会をつくることで、少しでも健康的な生活を送っていただき、最終的には「運動不足解消」から「スポーツを楽しむ」というレベルまで環境を引き上げたい。

活動場所 : 渋谷スポーツセンター/ひがし健康プラザ、北区赤羽体育館など、ホームタウンの公共スポーツ施設

取組テーマ : ①ダイバーシティ (共生社会)

協働者 : ①企業、⑤行政

協働者名 : 渋谷区、北区、日野市、立川市、多摩市、いなぎグリーンウェルネス財団

活動で工夫した点

『障がいのある方に対する理解を促進する』私達の活動では体育館の半分のスペースを使用し、なるべく隣で別の団体がスポーツをしている環境で教室を実施します。はじめは隣で活動する団体が戸惑ったり、施設に問合せをしてきましたが、次第に「障がいのある人は当たり前存在なのだ」と当たり前の事実気づき、こちらの教室にも参加する人がいたり好例も生まれました。

活動で大変だった(苦労した)ポイント

一番苦労したのは、いかにして多くの方にご参加いただくかということでした。はじめは参加者が数人だけということもありましたが、各ホームタウンの福祉作業所と連携し、あらかじめ参加しやすい曜日や時間を確認してから行政と調整してスケジュールを決定することで、安定的に20~30名以上の方々にご参加いただけるようになった。

クラブや地域の活動後の変化

活動範囲が広がることにより、クラブ内でも障がい者スポーツ指導員の資格を取得するコーチが増え、社内外で障がい者スポーツの普及や発展に対して話をする機会が増えた。またこの障がい者スポーツ体験教室をハブにして、協賛や新たなイベント実施、様々な団体とのコラボレーションなど、クラブ自体の活動の幅が広がった。行政や参加者からも「次回を楽しみにしている」という声をたくさんいただけるようになった。



協働者の声

渋谷区スポーツ振興課空間課長の声：ヴェルレンジャーの取り組みを知って、日野市の教室を見に行っただけがはじまりです。参加者が笑顔で取り組んでいたのが、すごく印象的。たまたま隣でスポーツをやっていた一般の方も「おもしろそうだから参加してみたいな」って交流が生まれたり。まさにこれが、渋谷区がめざす多様性だと思いました。

<https://actions.yahoo.co.jp/article/doman3/>

参加者の声

障がい者スポーツ体験教室参加者の感想：みんなと協力しあいながら楽しくスポーツをできてよかった。/ダンスが踊れて楽しかった。/手が不自由な人も(ポッチャの)ランプを使用して楽しむことができた。/試合に勝って嬉しかった。/たくさんの方が来てよかった。/フライングディスクを投げられて楽しかった。等

活動の「ここぞ!」というPRポイント

障がい者も健常者も誰でも参加できるスタイル。種目はサッカーだけにこだわらず、チアダンス、ポッチャ、卓球バレー、シッティングバレー、玉入れ、ウォーキングサッカーなど多種多様なラインナップ。

補足

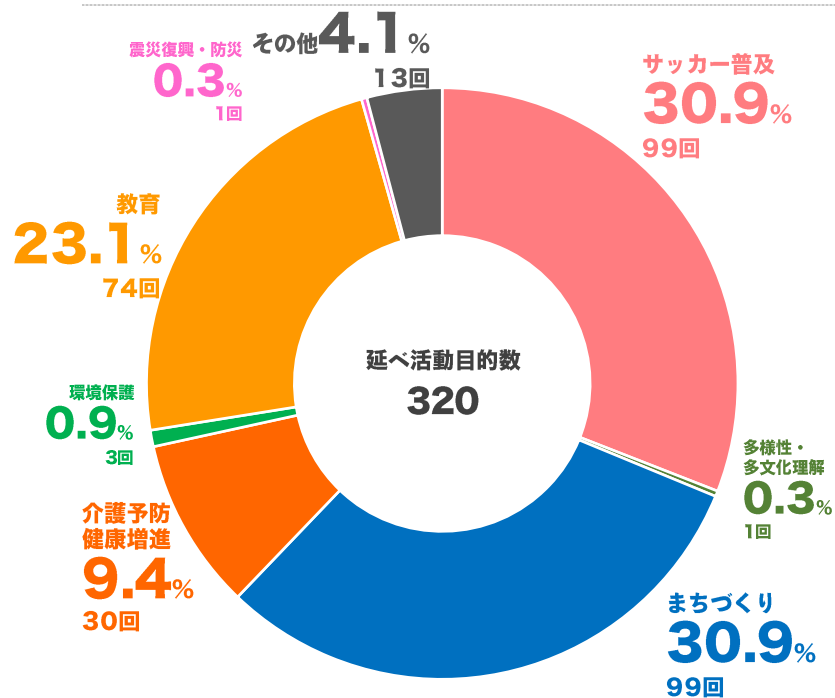
私達が重要視しているのはまずは参加者の方がスポーツを楽しむこと。各種目のルールを厳格に守るのではなく、そのスポーツの楽しみやすい部分を取り出して、みんなでチャレンジすることです。また2021年以降もこの障がい者スポーツ体験教室を継続、発展させていくことを何よりも大切に考えています。東京という街にある「クラブ」として、リーグ、協会、メディア、各種団体と協力して、この活動の意義を発信していきたいです。



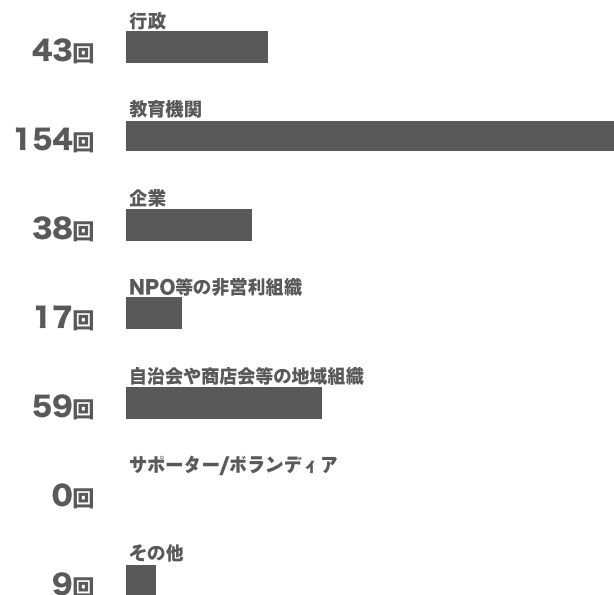
ホームタウン
東京都 / 町田市

年間活動回数：**320**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



『歩く』エンタメで社会課題を解決！ 男気コース!!

企画当初はスタジアムアクセスの改善が目的でしたが、協働者との連携が増える中で、歩くことによる、道路渋滞の緩和、CO2削減による環境改善、健康増進など、自然発生的に地域課題の解決へとシフトした。歩くという非常にシンプルだからこそ、気兼ねなく参加ができ、新たな出会いや発見、楽しみが味わえる。開催毎に魅力となるコンテンツの入れ替え、協働者を増やすことで日常的に歩くこと、地域課題を考える機会を創出している。更に、協力企業によるウォーキングアプリの開発、導入により、地域課題に対して一人一人が取り組み、参加者の総歩数がインセンティブとして返ることも大きな魅力である。目標は歩きやすく住みよい街No.1!

活動場所 : 小田急線鶴川駅から町田GIONスタジアムまでの町田市鶴川エリア一体

取組テーマ : ③持続可能な地域づくり

協働者 : ①企業, ③住民, ⑤行政, ファン・サポーター、病院、福祉施設、協議会、

協働者名 一般財団法人

: 小田急電鉄株式会社、株式会社小田急エージェンシー、ケアフルクラブ悠々園、町田市社会福祉協議会、まちだの丘連絡会、一般財団法人町田市文化・国際交流財団、株式会社ラナエクストラクティブ、町田市役所環境資源部（環境政策課、環境・自然共生課、環境保全課、循環型施設整備課、資源循環課、3R推進課）、町田市保健所健康推進課、町田市役所文化スポーツ振興部スポーツ振興課、オリンピック・パラリンピック等国際大会推進課、町田市役所地域福祉部福祉総務課、町田市役所防災安全部市民生活安全課、町田市役所道路部道路管理課、経済観光部観光まちづくり課

活動で工夫した点

目的がブレないことを大切にしながら、単純に歩くだけでなく、コース設定、街の魅力など、参加者のワクワク感をかきたてる内容作りを行うべく、行政・協力団体への働きかけに注力している。更に、参加者の声を積極的に取り入れ、協働者それぞれの強みを生かした活動を心がけながら、「振り切って、はっちゃけて、最大限楽しむ!」という精神のもと、地域課題の解決へと繋がるようなプログラム構成をしている。

活動で大変だった(苦労した)ポイント

参加者だけでなく、協働者の中にもあった「最寄駅からスタジアムまでは歩けない」「歩く距離ではない」という潜在意識を、「これなら徒歩圏内でしょ!」という意識の改革が大変だった。潜在意識という参加への高い障壁を超えるべく、魅力的なコンテンツ・インセンティブを提供することで、まずは1回、参加をしてもらう環境を整備し、協働者、参加者と対話を繰り返しながら、毎回何か1つ進化をさせていくことを心がけている。

クラブや地域の活動後の変化

当初は多くの方から「なぜわざわざ歩くの?」という声も聞かれたが、いざ歩いてみると「コースの提案いいですか?」「こんなテーマだったらもっと魅力的じゃない?」と協働者だけでなく参加者からも積極的なご提案をいただく状況がうまれました。毎回新たな参加者がいることも大きい。普段は活気のない商店街への立ち寄りコース内に設定し、参加者の消費により商品の売り切れがでた時は、みんなで騒ぐほど地域の一体感が出てきた!



協働者の声

町田市役所環境資源部・香山さんの声：
シャレンに参加し、「サッカーが選ばれ続ける未来のために、今できることを考える」というテーマに感銘を受けました。その課題意識は、自治体運営を行う我々にも通じています。そんな中、男気コースという企画は【スポーツ×環境行政】という新しい切り口と、【歩く】というシンプルな提案で、官民協定の枠組みにとられない取り組みとして実施しています。今後も、小田急電鉄との連携等、更なる可能性の拡がりを感じています。

参加者の声

初参加でしたが、遠足みたいで楽しかったです。ここ曲がるのー!笑…みたいな面白いコース設定や、ゼルサポはもちろん他サポの方々や普段交流することのない団体の方も話しが弾み、苦なく歩けました。それがエコや地域課題に繋がっている事も誇らしいです。

活動の「ここぞ!」というPRポイント

目的ありきではなく、協働者が増えていく過程でお互いの長所や魅力をいかした取り組みを行うことで、自然発生的に地域課題の解決へと繋がる活動へとシフトしたことは、他の活動と大きな違いではないか感じている。

補足

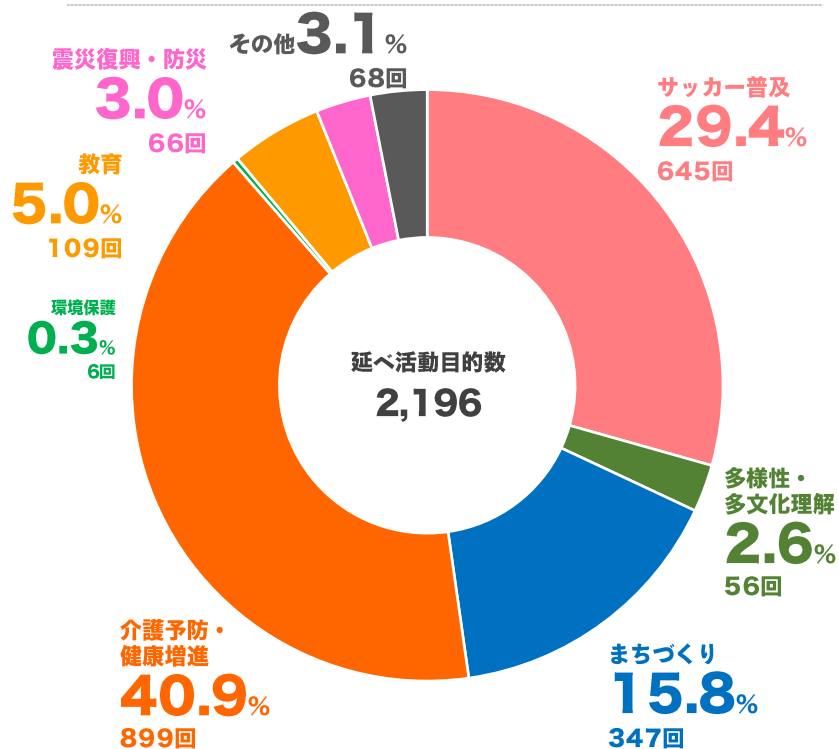
中心となるものが『歩く』という非常にシンプルなものなので、繋がっていく先が幅広い。病院や高齢者施設では、リハビリの一環として活用いただいたり、外出する機会の創出として利用いただいている。また、最近では外国の方々の参加も増えてきており、歩くだけで国際交流ができることは、東京オリパラを目前に控えた首都東京にあるクラブとして、街の魅力を世界に発信する機会と可能性を感じている。



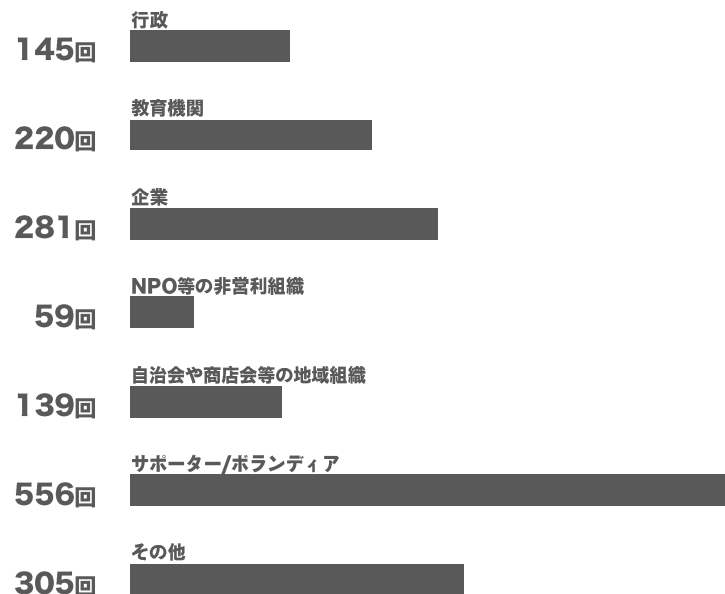
ホームタウン
神奈川県／川崎市

年間活動回数：**1,445**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。

川崎フロンターレ



発達障がい児向けサッカー × ユニバーサルツーリズム

発達障害は、見た目にはわかりにくく、社会認知度が低いことから、本人と家族が日常において周囲から色眼鏡で見られたり、しつげがなっていないと言われたりすることが多く、外出や旅行をためらうケースが多いと言われています。また、発達障害児には、特性から感覚過敏の方も多く、人混みなどが外出等における障壁となっており、スポーツ観戦にも楽しむ前にあきらめてしまっている子どもも多いとも言われています。今回の取組は、このような社会の偏見や誤解を払拭し、「ユニバーサルデザイン2020行動計画」に掲げる「心のバリアフリー」を進め、誰もがスポーツや旅行を安心して楽しめる社会の実現に向けて取り組むものです。

活動場所 : 等々力陸上競技場及び麻生グラウンド

取組テーマ : ダイバーシティ (共生社会)

協働者 : 企業／行政／サポーター

協働者名 : 川崎市、内閣官房、富士通株式会社、株式会社JTB、全日本空輸株式会社、川崎フロンターレサポーター、大分トリニータサポーター

活動で工夫した点

とにかく子供たちの立場になって考えること。音や光をコントロールできるセンサリールームを設置し、安心してサッカー観戦をしてもらえるようにしました。また、両チームサポーターによる横断幕の掲出やひらがな応援歌詞カードの作成などで子供たちが楽しく応援できるようにしました。大型ビジョンの選手名もひらがな表記にし、スタジアム全体での取り組みを実施することが出来ました。

活動で大変だった(苦労した)ポイント

関係者が多く、まずは運営スタッフ「発達障がい」の事を知らなければならぬと思ひ、JTBさんによる「心のバリアフリー研修」を受けました。また、富士通さんによるVRで発達障がいの症状を疑似体験ができ、実際の子供たちの見え方を事前に理解することができた。

クラブや地域の活動後の変化

社内での理解はもちろんですが、当日川崎市長が来場者の前で取り組みの事を発言していただき、スタジアム一体での取り組みを実施することができ、多くのサポーターに認識してもらうことが出来ました。また、地上波含めた多くのメディアで取り上げていただき社会的にも大きく発信をすることが出来ました。



協働者の声

全日本空輸株式会社・堯天様：「飛行機に乗って、スタジアムにサッカーを観戦しに行く」というお子様の大きなチャレンジをANAグループが一体となってサポートしたいという想いから参画しました。沢山のお子様やご家族の笑顔、喜びに触れることができ今後も活動に参画していきたいと考えています。

川崎市・原様：「見た目ではわかりにくく、まだまだ社会の理解を必要とする発達障害の方にスポットをあて、誰もが安心してスポーツを楽しむにはどうしたらよいか、ということ様々企業の皆様と一緒に考えて実施しました。サポーターや選手から多大なるご協力もあり、ご参加者からは「お子様の自信につながった」といった声もいただき、誰もが当たり前スポーツを楽しめる社会にしなければと想いを新たにしました。」

株式会社JTB・関様：「今回はスタッフ向け「心のバリアフリー」研修を担当しました。プロジェクトを通じて共生社会の実現に貢献したいです。」

参加者の声

大きな音や人混みは苦手で、日射や暑さにも弱いため、センサリールームは、自閉症の特性があってもスポーツ観戦を楽しめる素晴らしい施設ですね！今まで行きたくてもスポーツ観戦が好きな父親が諦めざるを得ず、今回のイベントをきっかけに、スタジアムへ行くことが楽しみのひとつになるかもしれず、新しい世界が広がりました。息子は、選手とのハイタッチや、コロッケさんのハーフタイムショーが楽しかったようです。

活動の「ここぞ！」というPRポイント

本プロジェクト名が「えがお共創プロジェクト」です。その名の通り多くの子供たちの笑顔を多くの関係者と共に創り上げた活動です。

補足

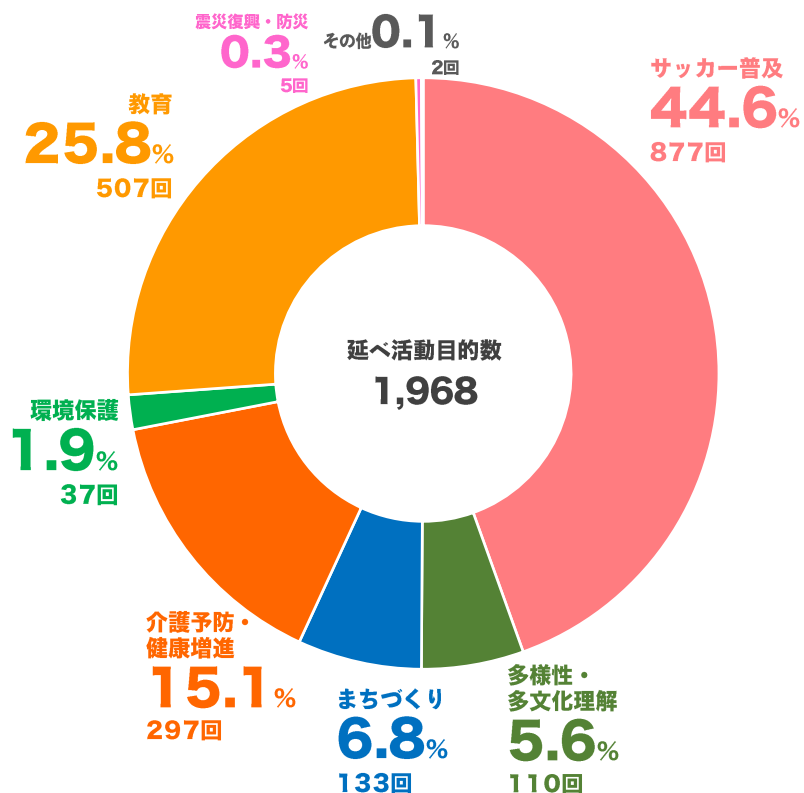
ここでは書ききれないほど、多くの工夫や取り組みをしました。後日談ですが、今までは外出するのも困難な参加者の子ども一人が、この観戦及びサッカー教室で自信をつけその後学校にも行くことができ、また11/2広島戦では、クラブスタッフと母親と一緒に中心応援エリアで応援することが出来ました。一人の子供の大きな成長を見ることが出来ました。



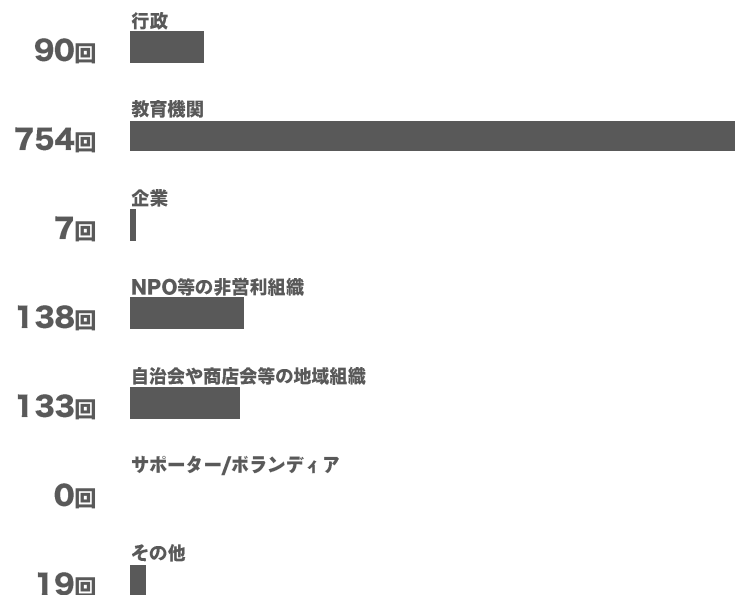
ホームタウン
神奈川県／横浜市、横須賀市、大和市

年間活動回数：**1,058**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



横浜F・マリノスカップ 電動車椅子サッカー大会

この大会を通して、多くの方々に電動車椅子サッカーの魅力伝えると共に、地域社会の障がい者スポーツに対する理解度、関心度の向上に繋げる。また、選手に日頃のトレーニングの成果を発揮する場を提供すると共に、大会を通じて仲間とふれあい、そして楽しむことで地域社会との繋がりを実感すると共に、アスリートとしての自覚を持ってもらうことで、選手としての更なる成長及び競技の普及・育成を図ることを目的としている。今回会場となった子安小学校は、以前クラブの練習場があったとても関わりの深い場所である。今後20回、30回と継続して大会を開催し、皆が毎年目標とするような大会にしていきたい。

- 活動場所** : 横浜市立子安小学校体育館
- 取組テーマ** : ①ダイバーシティ (共生社会)
- 協働者** : ①企業, ④学校, ⑤行政, 電動車椅子サッカー選手・チーム関係者
- 協働者名** : ジヤトコ株式会社、株式会社ツクイ、イリソ電子工業株式会社、横浜市立子安小学校、横浜中央図書館、横浜市立篠原中学校サッカー部、横浜市立城郷中学校サッカー部

活動で工夫した点

今回初めてジヤトコ株式会社の皆様にご協力いただき、選手の車いすのフロントバンパーの取り付け、取り外しを行う『ジヤトコビット』を設けた。選手の方からは「まるでF1のビットのようだ!」と好評で、選手のフロントバンパー脱着の負担からの解放、選手のスタンバイ時間の大幅な短縮による時間効率化など、大会運営にも大きなプラスがあった。資金だけではなく企業との新しい協働のカタチを創ることができた。

活動で大変だった(苦労した)ポイント

体育館の空調(暖房)が不十分であったこと。小学校にあるジェットヒーター2台を借用して使用し続けたものの、とても広い体育館ではそこまで温まらず、障がい者の方々にとっては厳しい環境であった。控室として使用した各教室は温まっていたため、選手の方々は試合がない時は極力控室で休息を取っていた。重度の障がいを持つ方でも安心して競技に臨める会場の整備・確保は今後も大きな課題である。

クラブや地域の活動後の変化

健常者では当たり前前のが当たり前でなかったり、普段気にしないような細かなところまで気にしたりと、選手たちと同じ目線になることで意識の変化があった。また実際に電動車椅子サッカーを観るのは初めてという方も多く、ゴールやパスワーク、激しくボールを奪い合うシーンなどでは歓声が上がっていた。会場にいる方々は自然と電動車椅子サッカーの魅力に惹かれ、最後は選手・スタッフ・観客全ての人が笑顔になっていた。



協働者の声

【ジヤトコ株式会社の方々の声】マリノスさんからの声掛けで、モノづくりの会社の自分たちにできることは何か、を1年かけて考えました。選手や介助者のみなさんが苦労されているガードの脱着を行う「ジヤトコビット」、「ガードの歪み修正治具」は、初めての取組みとしては大成功でした。その他、電動車椅子体験会やチームのサポートなど、全面に渡り協力させて頂き、参加者と交流も生まれ、サポートする側の私たちも喜びと達成感を得られた大会でした。

参加者の声

今大会は体育館で開催された事もあり寒さがかなり厳しかったですが、バリアフリーなのと待機場所が暖かったのが助かりました。大会の内容としてはとてもよかったと思います。試合中も体験会が行われ会場が賑わっていて、試合も全国トップクラスのチームが集まりとても白熱した試合を出来、楽しかったです。ジヤトコビットもレースカーのようにバンパーの作業をして下さったので本当に助かりました。また来年も楽しみにしています!

活動の「ここぞ!」というPRポイント

選手、父兄、企業、クラブで「実行委員」を作り大会の準備をした。特に、選手、保護者でなければ気づかない意見を取り入れたことで大会運営がスムーズに行えた。電動車椅子体験ゾーンもこの大会の魅力。

補足

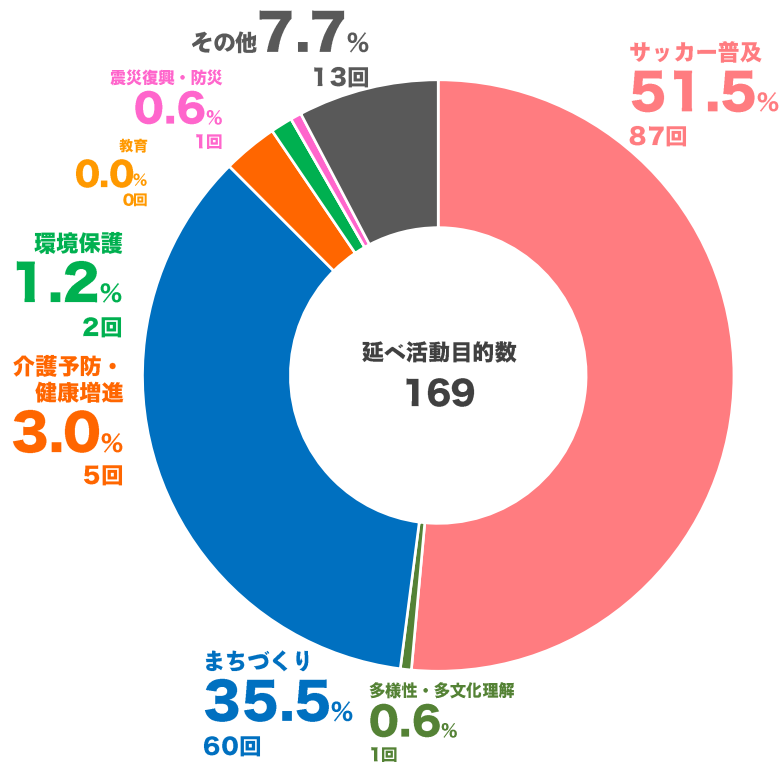
この大会も、全国の電動車椅子サッカーチームに浸透してきたようで、この大会に参加したいと要望も多々来ています。会場、日程の問題で現在の実施方法(10km:6チーム、6km:4チーム)となっていますが、将来的には、チーム数も増やしもっと大きな大会にして来たいと思います。また、電動車椅子サッカーを見たことがない方々に是非会場に来て頂き選手の熱いプレーを見て頂ければと思います。



ホームタウン
神奈川県／横浜市

年間活動回数：**169**回

活動目的の構成



協働者

行政	NO DATA
-回	
教育機関	
-回	
企業	
-回	
NPO等の非営利組織	
-回	
自治会や商店会等の地域組織	
-回	
サポーター/ボランティア	
-回	
その他	
-回	

※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



横浜FCヨコハマぼるとカップ

この大会は、地域貢献活動の一環として、さまざまな障がいのある方が社会との繋がりを持つことや、サッカーやフットサルを通じた社会参加の促進と余暇の充実を図ること、障がい者スポーツの普及と交流の場を広げるとともに、生活の幅を広げ、ひいては生活のしづらさを解消していくことを目的とします。また、障がいのある方の社会参加により、同じ環境に生活する人々に勇気と元気を覚えてもらえるきっかけを作ることを目指します。

活動場所 : 横浜FC・LEOCトレーニングセンター

取組テーマ : ①ダイバーシティ（共生社会）

協働者 : 行政

協働者名 : 一般社団法人横浜FCスポーツクラブ、
ヨコハマぼるとカップ実行委員会、桐蔭横浜大学FC
Eggplant、日本ソーシャルフットボール協会

活動で工夫した点

2019年は、女性だけが参加できるエキシビジョンのフットサルを実施しました。参加者の中から有志を募り14名の方が参加をしてくれました。エキシビジョンの最初はフットサルボールで試合を行い、途中からボールをゴム製の特大ボールに変更し、参加した方が飽きないようにエキシビジョンを行いました。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

子供の部を設定していたが、集まらなかったため、社内スタッフがサッカー教室を実施しました。

クラブや地域の活動後の変化

参加者となりますが、ゴールをしたときや仲間のいいプレーには身体全体で喜び、あと一歩が届かなかった仲間を励ますなど、自然体でチームワークを発揮している様子は清々しさを感じました。



協働者の声

大会後に振り返りのミーティングを開催。ヨコハマぼるとカップ実行委員会：女子エキシビジョンマッチでは40分時間を確保できたため好評・14名集めることができた・普段以上にボールが回ってきて楽しかった。

参加者の声

参加された方からは、「とても楽しかった！」「また参加したいです」と好意的なお声を数多く頂戴しました。

活動の「ここぞ！」というPRポイント

本大会では、精神障がい者だけではなく、様々な障がいをもたれている方に参加して頂いております。

補足

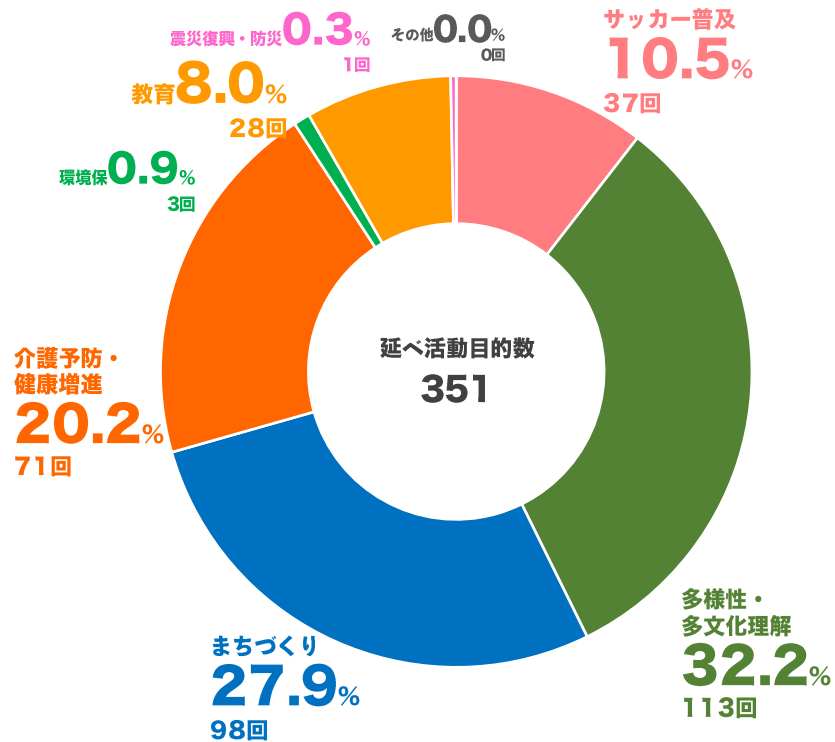
本大会に参加するチームが、神奈川県内外ともに参加チームが徐々に増えてきております。弊社としてはご協力いただける仲間を増やすことも視野に入れ、本活動を継続してまいります。



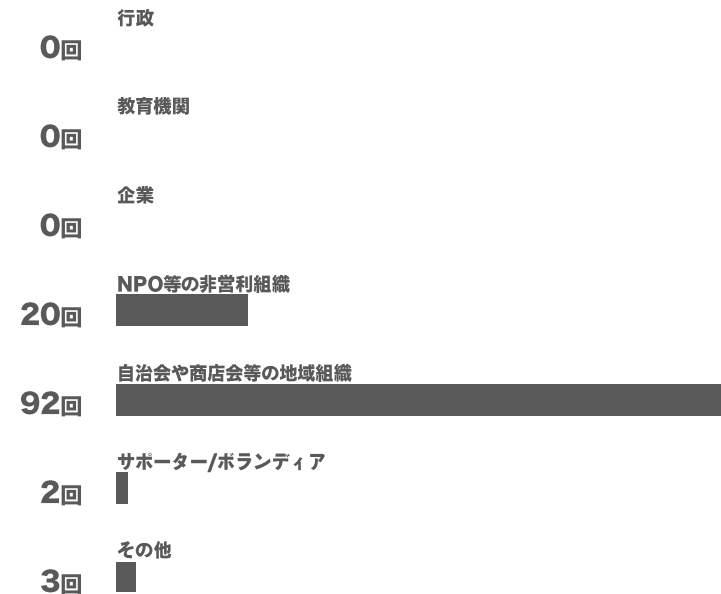
ホームタウン
神奈川県／横浜市

年間活動回数：**117回**

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



Y.S.C.C.が取り組む寿町自己啓発プロジェクト

寿町はかつての高度成長を陰で支えた日雇い労働者が数多く暮らす地域ですが、その多くが現在では高齢化しています。実際、生活保護を受けながら生活をされている方も多く、特に食事を始めとした健康管理が他の地域と比較にならないほど大きな社会課題となっています。Y.S.C.C.は、「スポーツを通じて地域に貢献したい」という思いから立ち上げたNPO法人ですが、スポーツだけではこの寿町が抱える社会課題は解決できないと考え、各種団体と寿町に特化したプログラム『寿町自己啓発プロジェクト』を立ち上げました。「食育・栄養」「咀嚼力・口腔衛生」「健康体操」を実施し、街の特性に起因する社会課題の解決に向け活動しています。

活動場所 : 横浜市寿町健康福祉交流センター

取組テーマ : ③持続可能な地域づくり

協働者 : 団体

協働者名 : 公益財団法人 横浜市寿町健康福祉交流協会

活動で工夫した点

実施するコンテンツは、特別な器具を必要とするものではなく、老若男女、年齢や性別を超えてどなたでも参加することができるメニューとなるように設計しています。また、実施団体からしても低予算で狭いスペースでも出来るよう、簡単に実施可能なメニューとし、カスタマイズも容易になっており、サステナブルに提供可能なプログラムとなるよう工夫しています。

活動で大変だった(苦労した)ポイント

寿地区住民の方の元気と活力になるには何をしたらよいか当初は模索する日々でしたが、その地域に住む方々にフォーカスし、様々なソリューションをカスタマイズして提供するというアプローチが不可欠だと考え取り組みました。そこに生活する方々の視点で多面的にアプローチし、サステナブルに継続した結果、参加者も年々増加し、今では年間約300人の方々にご来場いただいております。

クラブや地域の活動後の変化

安価でありながら健康管理にあたって重要なメニューを総合的にパッケージ化することで、住民の年齢層や経済的な地位に即した実践的なメニューを専門家と協力して構築しています。住民の健康寿命を延ばすことで、間接的ではありますが医療費負担の削減、地域の治安向上にも一定の効果を出しています。



協働者の声

横浜市寿町健康福祉交流協会はY.S.C.C.と協働して、コラボ企画(自己啓発講座・HTプロジェクト)を実施し、寿地区における元気な町づくり、健康づくりを目指しています。これまでに、「食育・栄養」「咀嚼力・口腔衛生」「健康体操」など、楽しみながら学べる講座を行い、参加者の心と体の健康に役立っています。今後は「睡眠」「体の痛み予防」などの講座も加え、更に多くの方に喜ばれる講座を行っていく予定です。

参加者の声

「Y.S.C.C.スタッフの管理栄養士から学んだ方法で料理を作り実践している。安くて簡単に栄養が取れるのでよい」「歯の磨き方など丁寧に教えてもらい、日々の歯磨きに役立っている」「Y.S.C.C.のスタッフから健康体操を教えてもらった。何度か参加し行くと楽になるので続けてほしい」「実用的な内容の講座でとても良い」などの声をいただき、講座を行う励みになっています。

活動の「ここぞ!」というPRポイント

総合型スポーツクラブを創設した当初から寿地区を「スポーツの力で、笑顔で元気に暮らせる街にしたい!」と考えており、困窮ぶりや様々な依存症を抱える人々が住む寿地区の課題解決を必ず実現します。

補足

1986年の創立以後、「地域はファミリー!」のクラブ理念のもと、ホームタウンである横浜市中区を中心に様々な地域貢献活動を行ってきました。その活動範囲は34年という歴史の中で徐々に拡大し、現在ではSDGsの17項目全てを網羅するまでになりました。その中でもシンボリックな活動が『寿町自己啓発プロジェクト』。寿町という街にフォーカスし、街の特性に起因する社会課題を解決する活動を総合的に展開し続けます。

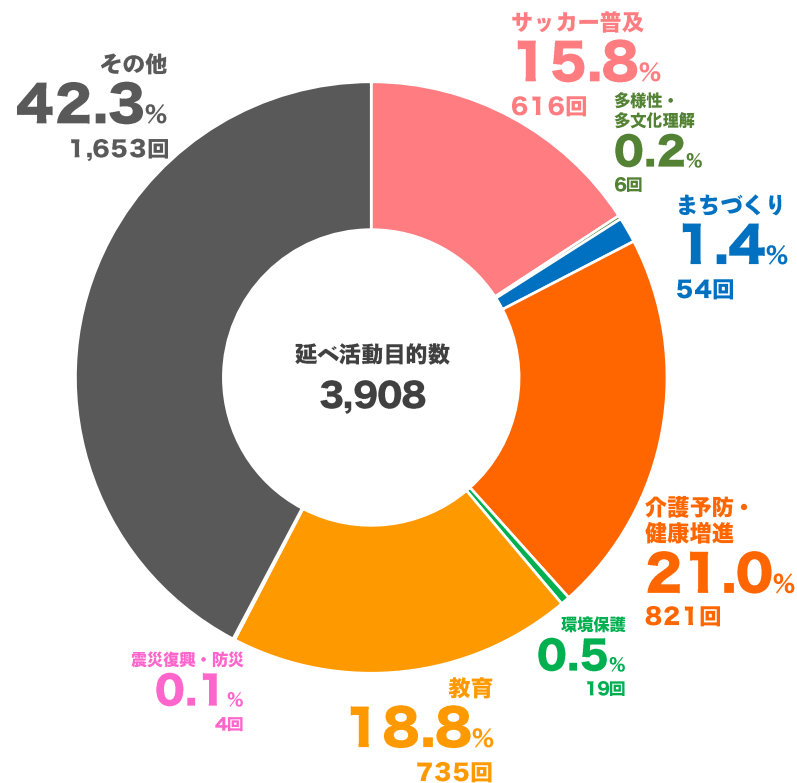


ホームタウン

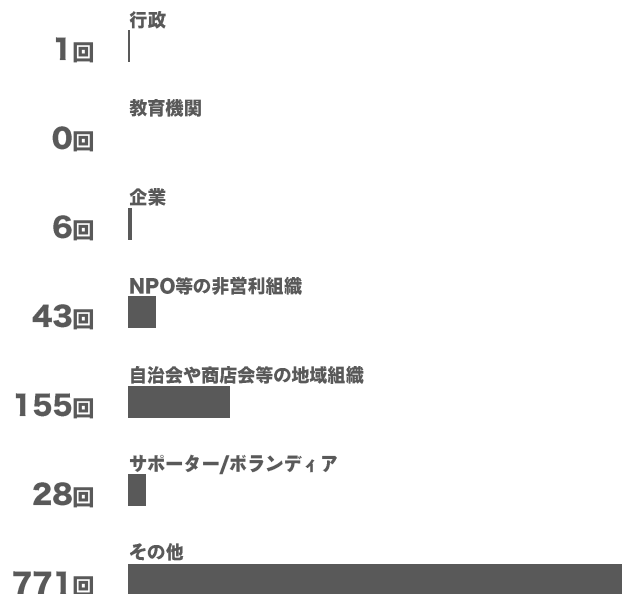
神奈川県／厚木市、伊勢原市、小田原市、茅ヶ崎市、秦野市、平塚市、藤沢市、大磯町、寒川町、二宮町、鎌倉市、南足柄市、大井町、開成町、中井町、箱根町、松田町、真鶴町、山北町、湯河原町

年間活動回数：**2,535**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



湘南まなべるまーれ

「湘南まなべるまーれ」は、クラブの行動指針である“たのしめてるか。”を軸に、地域の子もたちのはたらくって本当はなんだろう？を、その地域ではたらく大人の夢中に“圧倒される”ことで、自分が本当に夢中になれることを見つめ直し、大志を抱くリアルにこだわったローカルキャリア教育授業です。地元こんなにかっこいい大人がいるんだ！こんなにおもしろい会社があるんだ！という発見が、将来、一人でも多くの子どもの、地域ではたらくきっかけになればと考えています。

活動場所 : 金子産業株式会社 平塚工場 横浜ゴム株式会社 平塚製造所

取組テーマ : ④教育

協働者 : ①企業

協働者名 : 金子産業株式会社 横浜ゴム株式会社

活動で工夫した点

講師は、企業ではたらく社員とベルマーレフロントスタッフが行いました。よくある社会科見学ではありません。仕事に対するこだわり、挫折、たのしさを夢中になって伝えるヒューマン授業としました。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

実施日時調整・集客は苦労しました。企業としては稼働している平日、しかし平日だと学生の参加は難しい。今回は平塚市内の運動会の振替休日を活用しました。

クラブや地域の活動後の変化

動画公開によりスポンサー、地域メディアから大きな反響をいただきました。今後は第2弾としての提案もいただけるようになりました。

補足

-



協働者の声

金子産業株式会社菊池恭平さんの声：あまりこう、学生の前で今までの事や、今の仕事の事などを話す機会は全くなかったので、初めての経験ということで、非常に緊張しましたが、自分にとってもものすごくプラスになりました。原点に帰った気持ちになり私自身も非常にたのしめました。

横浜ゴム株式会社廣川一八さんの声：ベルマーレのパートナー企業で「何か集まりをやりたいね」ということは以前から、話はしていました。今回の取り組みをきっかけに、ベルマーレから、日本に発信するくらい、「パートナーたちがこんなにも強く絆を作ってきたよ、もっと仕事も盛り上がったよ！」「地域が盛り上がったよ！」というような、そういうチームからの発信があったり、我々サポーター側からの発信があったりというような、ちょっと地域性があるような活動になっていったらいいなと思ってます。

参加者の声

今回の活動を通じて参加者の声(参加生徒①)自分のストロングポイントを作って、トップレベルの選手になりたいです。(参加生徒②)プログラミングとかを頑張りたいです。(参加生徒③)発表会に向けて、もっと練習して、本番を楽しみたいです。(参加生徒④)将来は動物関係の仕事につき、世界の動物を助けたいです。

活動の「ここぞ！」というPRポイント

このプロジェクトをゼロから立ち上げたこと！サッカークラブからスポンサーに対して単なる広告料をいただくだけでなく、新たな価値を提供することができました。

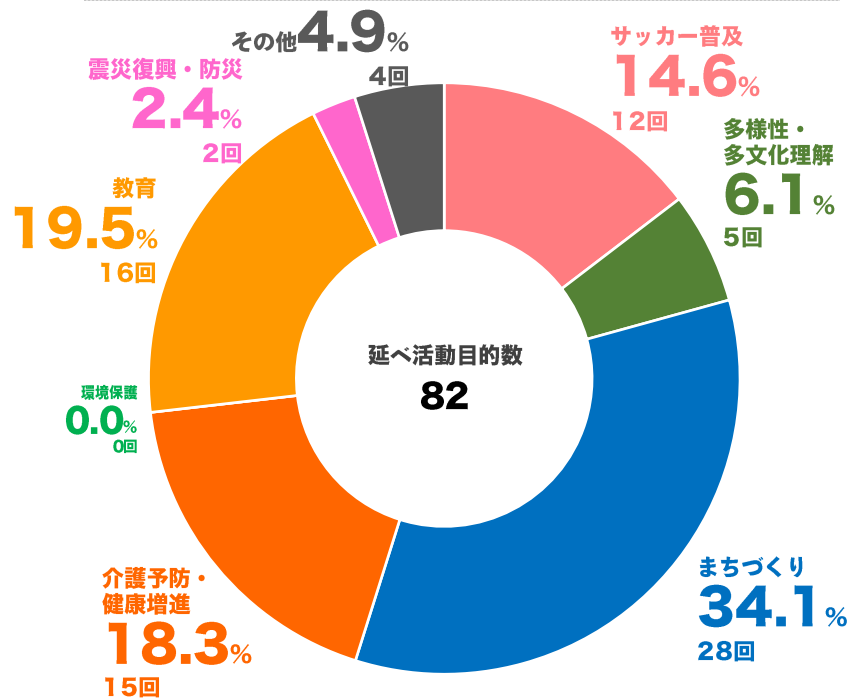


ホームタウン

神奈川県／相模原市、座間市、綾瀬市、愛川町

年間活動回数：**82**回

活動目的の構成



協働者

行政	NO DATA
教育機関	-1回
企業	-1回
NPO等の非営利組織	-1回
自治会や商店会等の地域組織	-1回
サポーター/ボランティア	-1回
その他	-1回

※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



SC相模原JOB見学・体験ツアー

Jリーグのスタジアムで働く人々の「お仕事」を見学しながら「小・中学生時代に今の自分を想像していたか」を質問してまわるスタジアムツアーを企画。企業・NPO・行政との連携により実現したこのツアーには、相模原市と座間市から家庭の経済的な事情により進学に課題があったり、居場所をみつけれない小・中・高校生が参加。「進学が困難である」と考える子の中には、進学そのものが「壁」として立ちばかり、「夢」に対して消極的な子もいるという。職に就くためのルートが「学校」の延長線上だけにあるわけではないことに、話を聞いてもらう中で気づいてもらえた。

活動場所 : 相模原ギオンスタジアム

取組テーマ : 持続可能な地域づくり

協働者 : 企業/NPO/行政

協働者名 : マイクロン財団、相模原のみり塾/座間市生活援護課、
社会福祉法人座間市社会福祉協議会、イオン株式会社

活動で工夫した点

ツアーガイドを、この業界に憧れているインターンをお願いしたことがヒットでした。年の近い大学生が引率してくれることで、子ども達の緊張をほぐすことができますし、働く人のやり取りでは、ガイド本人の憧れも加算され、働く人の魅力を聞き出すことができ、仕事の説明では業界用語などをかみ砕いて子どもたちに解説出来たと思います。彼は、この4月から同じJ3の藤枝MYFCのスタッフとして頑張るようです。

活動で大変だった(苦労した)ポイント

①子どもたちへの見せ方 参加対象者は、生活保護受給世帯の子どもや、学校にいけない子、ひきこもりの子でした。彼らにこそ今回の企画に参加して欲しかったので、どんな誘い文句であれば興味を持ってもらえるかを相談員さんと悩みました。②親御さんへの対応 子どもは参加希望でも、こういう場に子どもを連れだす事をあまりよしとしない方も中にはおり、ケアワーカーさんにその説得において力を発揮していただきました。

クラブや地域の活動後の変化

地域には色々な活動団体がある中で、互いの強み弱みを補い合いながら、助けてほしい部分を少しずつ重ねあうことで、子どもたちにかげがえのない1日を作るれたことに感動した。この1日が1人の子の人生を変える事になった。教育に携わりたいという高校生が、この経験を自分のストロングポイントとして小論文にし、自分の強みとして人にPRしてくれた、そのことがうれしく、余計に感動している。(座間市生活援護課武藤さん)



協働者の声

- 「裏方の人の職業」の話がすごくよかった。色々な人が関わって物事が成り立つということ、中学時代に見聞き出来ることは、非常に意義のあることだと思う。(保護者男性)
- お金を貰って働くという経験のない子どもたちにとって「働く」ことの意味を知る貴重な経験だったと思う。それよりも実は、「好きだから」というだけでボランティアとしてキラキラ活動していた方々の凄みに私は圧倒されました。子どもたちもそこは感じられていると思う。(のみり塾引率女性)
- 家にこもっていた〇〇君が、ゲートで他人に配りものを手伝ったり、選手と手をつないで入場したり(エスコートキッズ)、信じられない。(座間市社協職員)

参加者の声

- 学校の授業で理科は苦手だったけど、芝生育ててるよという話がびっくりした(小学生男子)
- 「学生時代なんて将来何するか考えられなかった、20歳頃に興味を持ったのがそのまま今の仕事につながる」っていうのが、今はまだ将来のこと決められてなくても大丈夫なんだって思った。(中学生女子)
- 「学校関係ない」っていう言葉、ちょっとうれしかったです。(中学生女子)

活動の「ここぞ!」というPRポイント

J3の小さなクラブで、今あるもの・今できることにどう魔法をかけられるか。

補足

この1日のことを題材に小論文を記した高校生が、大学の教育学部合格! 本人曰く、自分は表立ってPR出来る事はないが、裏側で支える人の存在や想いを聞いたことで「それでもいいのだ!」と思えた。

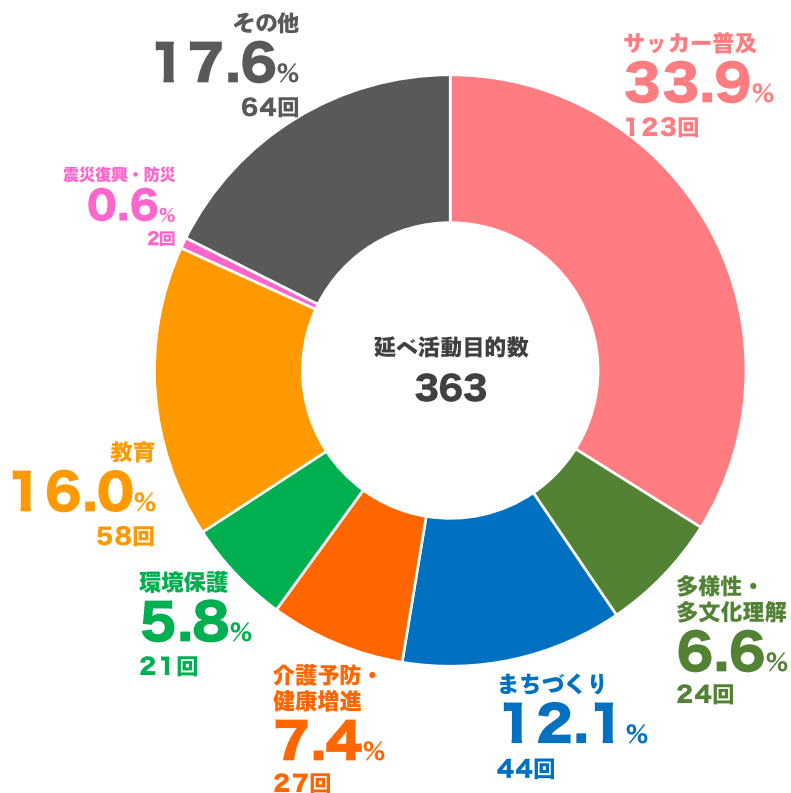


ホームタウン

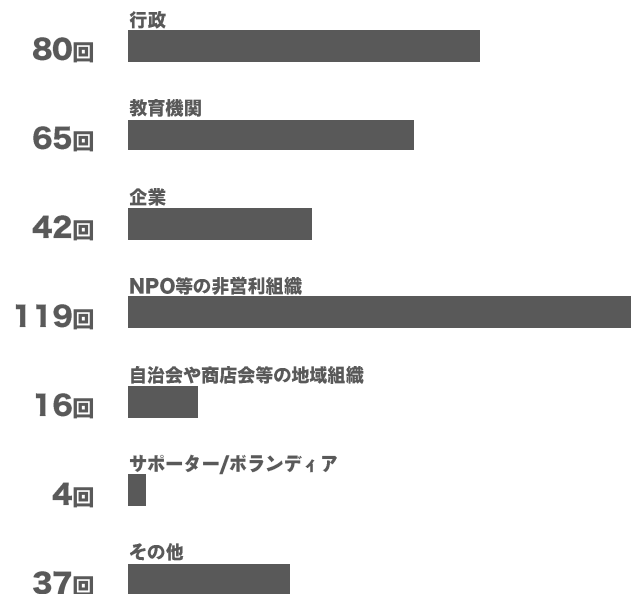
山梨県／甲府市、韮崎市を中心とする全市町村

年間活動回数：**363**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



キャリア&スタジアム(キャリアスタ)

『地方の若者人口減少』『企業の人材不足』を県内外の各種学校とクラブスポンサー企業の社員がレクリエーションや試合観戦による交流を通じて就職活動の前哨戦となる場を提供。課題を解決するキーワードとして「出会い」「コミュニケーション」「和やかな雰囲気」をテーマにイベントを実施しました。

活動場所 : 山梨県小瀬スポーツ公園

取組テーマ : 持続可能な地域づくり

協働者 : 企業／学校／行政

協働者名 : 後援：山梨県、山梨県スポーツ協会
協力：明治大学澤井ゼミナール、山梨県大学就職指導研究会

活動で工夫した点

まず山梨県に後援に入ってもらうことで、県規模の課題に取り組んでいるという位置付けにすること。そして、クラブの強みでもある約300社のクラブスポンサーのネットワーク、県内の大学就職課のネットワークを活用。企画当初から学生が関わっているため、学生の意見を尊重し学生目線で実施メニューを考えることが出来た。

活動で大変だった(苦労した)ポイント

学生の参加者集め。これまでに無いカタチの就職活動的なイベントだけに認知度が低く苦慮した。最終的には、人と人との繋がりで参加者は集まったが、もっと行政や教育機関と連動し企画意図、内容、熱量を伝えられれば改善できる。

クラブや地域の活動後の変化

教育機関や行政などから「ヴァンフォーレをこんな風を使うことが出来るんだ」という言葉が増えた。スポーツを活用し社会課題の解決が出来るというイメージがついてきたと感じました。



協働者の声

- ・学生ははじめ「スーツですか？」だった。普段着で参加できることで、学生も話しやすいのでは(大学教員)
- ・東京に住んでマリノスを応援している。でもクラブを支えているスポンサーについて知る機会は少ない。今日みたいに、企業の方と直接お話しして知ることができるのは貴重(澤井ゼミ学生)
- ・スポーツ公園の施設を利用して、スポーツを間接的に活用した新しい取り組みで施設活用の違った可能性が見えた(山梨県スポーツ協会)

参加者の声

若いうちから、地元の企業を知るという機会を設けていただけるのは大変良い取り組み。なかなか学生さんに知ってもらう機会が少ない弊社にとっては地元学生達と楽しくレクリエーションしながら話せたのは大変有意義な時間でした。

活動の「ここぞ!」というPRポイント

山梨県を元気に!それぞれの立場で抱えている課題を共有し、それぞれのリソースとアイデアを掛け合わせて実現したイベント。これを一過性のものにせず、継続することで「キャリアスタ」がキッカケで就職決定が目標!

補足

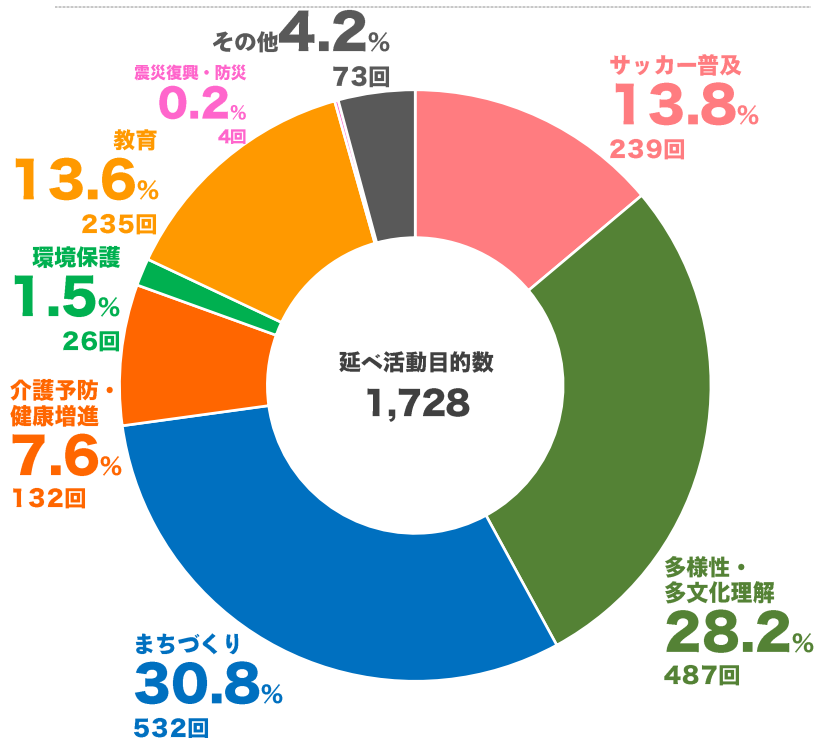


ホームタウン

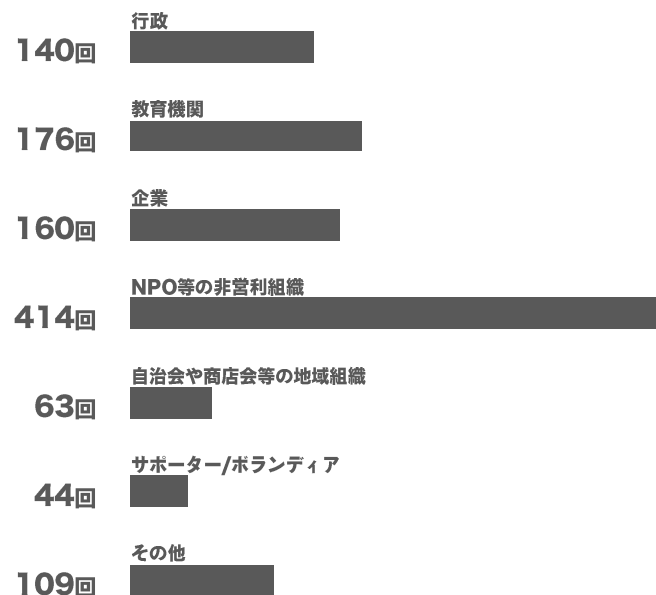
長野県／松本市、塩尻市、山形村、安曇野市、大町市、池田町、生坂村、箕輪町、朝日村

年間活動回数：**649**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



スマイル山雅農業プロジェクト

松本市の農業従事者、直売所、障がい福祉サービス施設と共同で「スマイル山雅農業プロジェクト」を発足し、松本市内の遊休農地で青大豆「あやみどり」の栽培を通して、「遊休農地の活用」「地域住民の交流活性化」「青少年の育成」を図り、地域が直面する課題の解決にチャレンジしている。本プロジェクトを通じて松本山雅FCジュニア生や地域の子も達が栽培・収穫を通して心と体の成長のきっかけづくり、食育を学ぶ場として参加する他、喫茶山雅・スタジアムで収穫した大豆の加工商品販売、またファン・サポーターの皆さんの参加イベント等の開催を通じて、地域が抱える課題と本プロジェクトを多くの方に知っていただきたいと考えている。

活動場所 : 松本市内畑（遊休農地）、松本市内保育園、障がい者サービス施設（3カ所） 直売所 スタジアム 喫茶山雅

取組テーマ : ①ダイバーシティ（共生社会）

協働者 : ①企業、②NPO、③住民、④学校、⑤行政、障がい者サービス施設、保育園

協働者名 : ①生産者直売所アルプス市場 quod,LLC 洞澤豆腐店 横山製菓 クワトロクオーレ
②NPO法人松本山雅スポーツクラブ ③地域農業者、サポーター、一般市民
④幼保育園、小学校 ⑤松本市農政課、松本市農業員会、松本市保育課
その他 社会福祉法人長野県知的障害者育成会ドリームワークス
アルプス福祉会コムハウス

活動で工夫した点

様々な企業団体と一緒に活動ができる体制にした 地域課題を解決しながら大豆の販売、マネタイズを工夫 マスコットの名前を商品名に入れて販売 売り上げの一部はアカデミー選手の育成費として寄付する仕組みに アカデミー選手が障がい者との関わりを持つことで他者への理解を深めてもらう機会作り 障がい者の就労、社会参画の場の提供を行った アカデミー選手が早期から地域貢献について学ぶ場を作った

活動で大変だった（苦労した）ポイント

- ・様々な企業・団体に関わっていただいているため、活動日の調整が難しい。
- ・草刈の人員不足（草刈機を使わないと刈れない場所があり、操作できる人が限られている）⇒地域の農業者とスタッフで協力して行った。 ・農作物の加工品の制作・販売ルートの確保 ⇒行政の方、直売所の方のアドバイスとご協力によりルートの確保ができた。

クラブや地域の活動後の変化

アカデミースタッフが活動を理解し積極的に関わろうとしてくれる スポンサー企業からプロジェクトの内容についてお褒めをいただいた またプロジェクトにご協力いただける企業様が徐々に増えてきた プロジェクトについて声をかけてきてくれるサポーターが増えたクラブを知らなかった農業者が応援してくれるようになった 大豆の選別等、障がい者サービス施設の利用者がやりやすい仕事ということで意欲的に取り組んでくれている



協働者の声

一緒に地域の中に混ぜていただき感謝しています。点と点を今回のプロジェクトで繋いでいただいたように思います。（障がい者サービス施設 施設長）
松本山雅さんと共に協力しながら、少しでもこの問題を解決する糸口が見つければと思います。皆さんと協力しなんとか地域・農業を盛り上げ、そして子どもたちの食育も考え、作ることに携わってモノの大切さを知ってもらいたいと思います。（アルプス市場 代表取締役社長）
農業従事者の高齢化が進んでおり、遊休農地・耕作放棄地が出てきております。昨年度より下限面積を限りなく下げるなど農業に参加できるような取り組みを行ってきました。しかし、なかなか荒地になる農地の歯止めがかからないのが現状です。そこで松本山雅さん他と協力して、できるだけ皆さんに注目してもらい、荒地をできるだけ少なくしようということを実施しています。（松本市農業委員会会長）

参加者の声

枝豆の収穫に参加してくれたサポーターの方が「農業に興味があり、初めて体験したが楽しかったし、採りたてはとても美味しかった！」「来年は種まきにも参加してみたいです。」と言っていた。アカデミーのジュニア生が枝豆の収穫後採りたての枝豆を食べて大きな声で「うまっ！」と言い、笑顔を見せてくれた。スポンサー企業様・アウェイのサポーターの方が「畑から見る景色も素晴らしい、最高ですね！」と話してくれた

活動の「こころぞい」というPRポイント

地域課題解決のための活動ではありますが、決してネガティブに捉えるわけではなく、どんなことをしたら楽しいか、また喜んでもらえるか、全員が主体となって考えながら、楽しむことを忘れず活動しています。

補足

本プロジェクトを通して育てた青大豆「あやみどり」は、地域の子もたちの食育の一環として、松本市内全保育園の給食メニューの中に出していただいています。また、松本山雅FCとの試合に訪れていただいたアウェイサポーターの方々に、サッカーを基盤とした地域活性化、また新規就農者開拓の一環として農業体験と試合観戦をセットとしたツアーを開催しました。

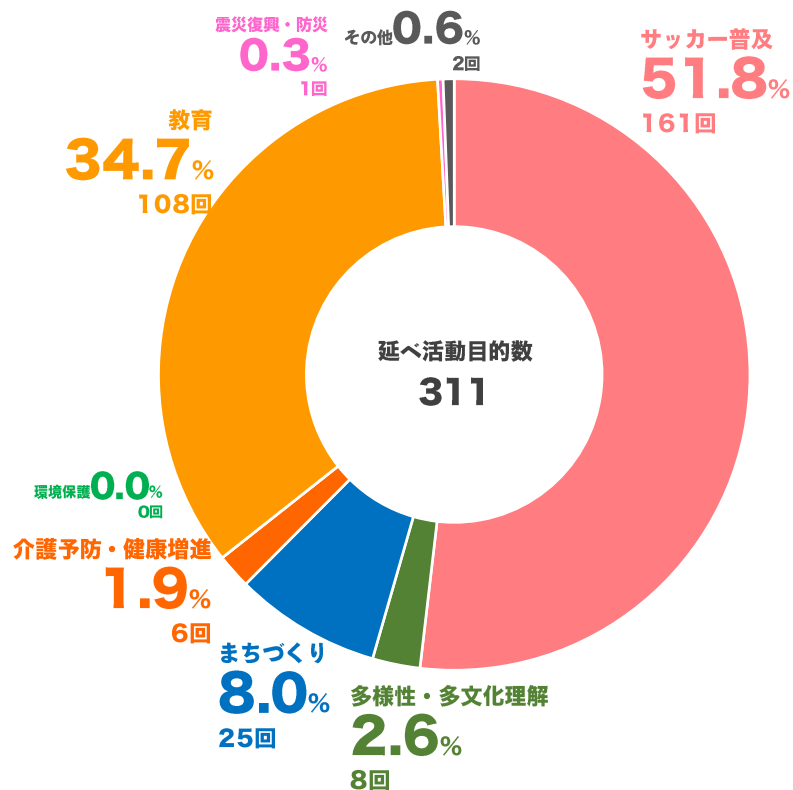


ホームタウン

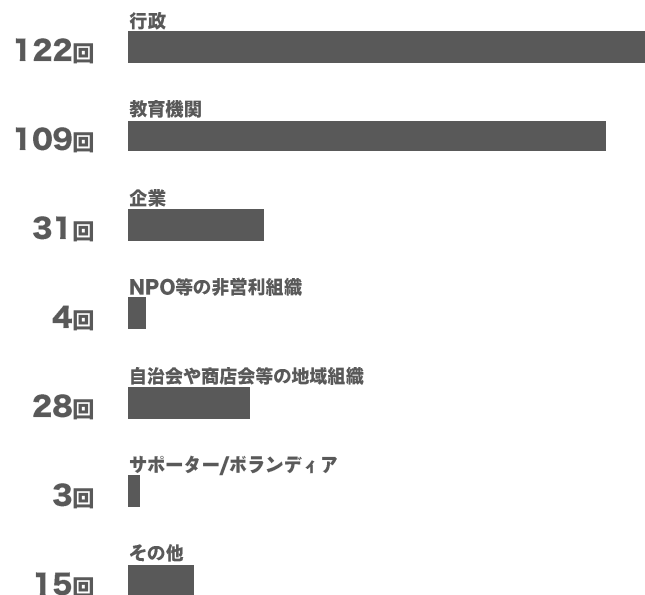
長野県／長野市、須坂市、中野市、飯山市、千曲市、坂城町、小布施町、高山村、山ノ内町、木島平村、野沢温泉村、信濃町、飯綱町、小川村、栄村、佐久市

年間活動回数：**210**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



ハナサカ軍手プロジェクト

子どもたちにとって長野の通学の時間は寒くて大変です。そんな雪降る街を見て、信州大学繊維学部 of 学生達が立ち上がりました。プロジェクトの主演は軍手。名づけて「軍手ィ」。「寒い冬をあったかく、街を華やかに」という熱い想いがこめられています。「ハナサカ軍手ィプロジェクト」は、この軍手ィをひとりでも多くの方にお届けし、上田市から日本の冬を盛り上げよう！という志から始まったプロジェクトです。軍手ィを買くと子どもたちの笑顔の花が咲く！軍手ィの売り上げで、「ちび軍手ィ」を制作。AC長野パルセイロは2011年からこの活動を推進しており、試合会場でもオリジナル軍手ィを販売し、ちび軍手ィの普及活動に貢献しています。

活動場所 : ホームゲーム会場、裾花小学校（平成31年度）

取組テーマ : ⑥地域のコミュニティ

協働者 : ①企業, ④学校

協働者名 : 信州大学繊維学部 ハナサカ軍手ィプロジェクト

活動で工夫した点

パルセイロを通してこの活動を知っていただく為に、選手にオリジナルデザインを作成してもらい、試合会場で販売しました。またAC長野パルセイロはスポンサーでもあるJAグリーン長野とタイアップして実施している「パルセイロ農園」にも絡めてオリジナル軍手ィの販売。事業マッチングによりスポンサーイメージも高めました。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

一対でもちび軍手ィを長野の子供たちに届ける為、毎年デザインを変えてパルセイロのファン・サポーターに購入していただいています。ただし、消耗品ではないため毎年安定した売上を確保できるよう選手デザインなど企画作り・プロモーションが大変です。また軍手ィ着用の時期が寒くなる冬になる為、秋ごろから販売してはいるが気候によっては試合会場での売上げが思わしくない時もあります。

クラブや地域の活動後の変化

2011年より継続して行われていることにより、このプロジェクトの認知度がファン・サポーターの中で高まっています。毎年購入者も増えており、県内一人でも多くの子供たちにちび軍手ィを贈呈できています。また年1回、対象小学校に伺ってちび軍手ィの贈呈式を行っており、多くの子供たちの笑顔が共有され、プロジェクトへのモチベーションにもなっています。



協働者の声

ファンやサポーターの方々から試合中に軍手ィをつけての応援を毎年楽しみにしているなどの声をいただき、軍手ィがより多くの人に知ってもらえているのと同時に、僅かながらチームの後押しもできていると感じることができて大変うれしく思っています。また、普段の活動では体験できないスタジアムでの販売やパルセイロ様の番組やコーナーに出演させていただくなど貴重な体験もでき、楽しみながら活動しています。（ハナサカ軍手ィプロジェクトメンバー）

参加者の声

軍手ィは温かくて柄がかわいくなってもらえてうれしい。また、みんなでサッカーをして楽しかったし、選手のシュートはすごかった。（ちび軍手ィ贈呈式参加の1年生）子供たちのための活動にサポーターとしてチームの応援をしながら関わることが嬉しい。（サポーター）

活動の「ここぞ！」というPRポイント

デザインの作成、印刷、販売などを自分たちで行い、より多くの長野県内の1年生にちび軍手ィを販売できるように頑張っています。カラフルな軍手ィで心も体も温かく！（ハナサカ軍手ィプロジェクトメンバー）

補足

長野の「子供たちの笑顔のために」にと2011年から継続してハナサカ軍手ィプロジェクトとはタイアップして活動を行ってきました。昨年度は約9,400人（長野県内小学1年生の約50%）にちび軍手ィを贈呈させていただき多くの笑顔の花が咲きました。贈呈式というイベントも行っておりメンバーと小学校にお伺いし、軍手ィをつけて交流会も行っています。子供たちの元気な笑顔が活動の源となっています。

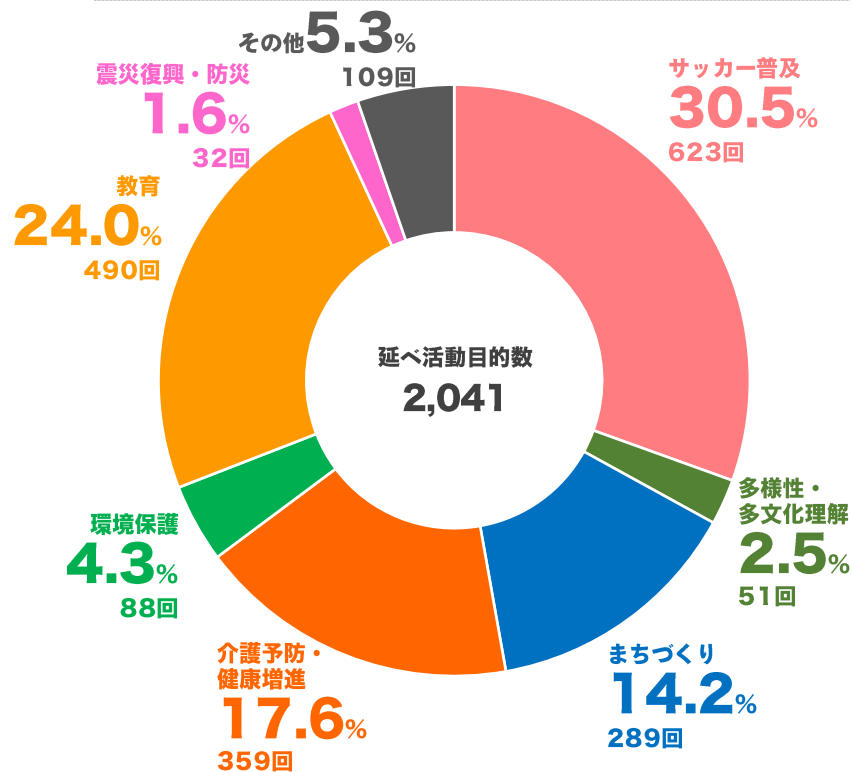


ホームタウン

新潟県／新潟市、聖籠町、長岡市、三条市、柏崎市、新発田市、小千谷市、加茂市、十日町市、見附市、村上市、燕市、糸魚川市、妙高市、五泉市、上越市、阿賀野市、佐渡市、魚沼市、南魚沼市、胎内市、弥彦村、田上町、阿賀町、出雲崎市、湯沢町、津南町、刈羽村、関川村、粟島浦村

年間活動回数：**2,041**回

活動目的の構成



協働者

行政	NO DATA
-回	
教育機関	
-回	
企業	
-回	
NPO等の非営利組織	
-回	
自治会や商店会等の地域組織	
-回	
サポーター/ボランティア	
-回	
その他	
-回	

※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



風評被害を払拭！選手による 村上市訪問・復興支援活動

2019年6月18日に村上市府屋で震度6強を観測した山形県沖地震の復興支援を目的に実施。震災の影響による観光資源への風評被害を懸念する村上市の実情を聞き、観光地を訪問して季節の食べ物を試食するほか、被災地域の小学校を訪問して児童と交流。

- 活動場所** : 村上市立さんぼく小学校、道の駅笹川流れ・夕日会館、瀬波温泉・大観荘せなみの湯
- 取組テーマ** : ②防災・震災復興
- 協働者** : ④学校, ⑤行政, 瀬波温泉旅館協同組合
- 協働者名** : 村上市立さんぼく小学校、村上市観光課、瀬波温泉旅館協同組合

活動で工夫した点

①アルビレックス新潟選手会の発案による実施②SNSの他、クラブ会員サイト（モバアルZ）で訪問の様子を動画配信してPR③マスメディア（TV・新聞）に取材にお越しいただき、広く発信。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

季節柄、特産品が岩ガキだった。自分たちが試食することで復興支援に貢献したい選手の想いと、暑い時期の生ものは控えてほしいというチームスタッフの考えの相違があった。

クラブや地域の活動後の変化

新潟県内全市町村ホームタウン広域化・追加承認を申請中であったため、本活動を通じて新潟市だけでなく他の市町村もホームタウンになるという意識づけができた。



協働者の声

瀬波温泉大観荘せなみの湯 予約部 本間さん：被害はなく翌日から営業していたが、（観光客に）戻ってきてほしい。リピーターの方からも励ましの電話をいただいた。

参加者の声

村上市観光課横山さん：子どもたち含め、訪問先の皆さんがとても喜んでいた。

活動の「ここぞ！」というPRポイント

①選手会の発案であること②村上市の声に耳を傾けた実情に即した活動であること。

補足

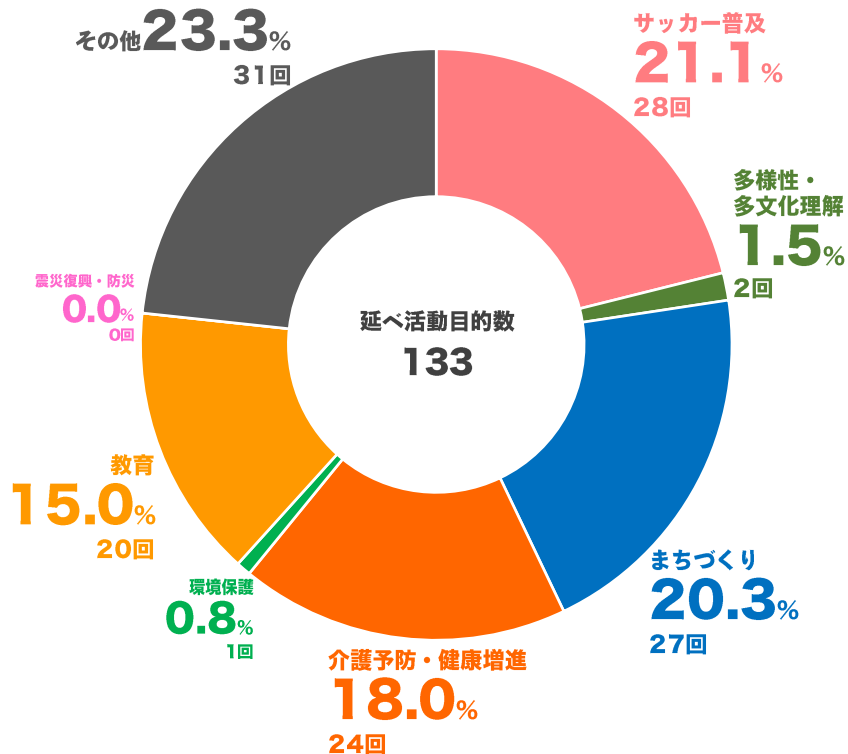
-



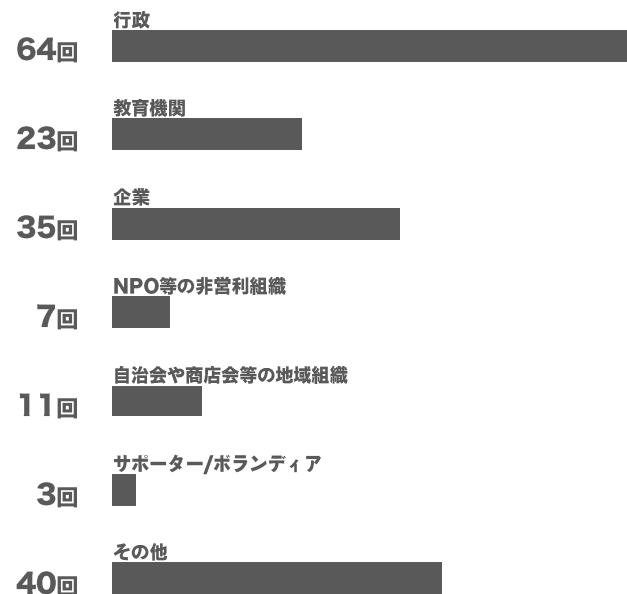
ホームタウン
富山県／富山市を中心とする全県

年間活動回数：**109**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



病院ビューイング

スポーツの力で患者さんに「笑顔と元気と勇気」を与え、入院中に抱える不安やストレスの軽減を図り、病院スタッフと一緒にスポーツを観るという体験を共有することで、病院スタッフとの距離を縮め、信頼関係を構築する。また、病院スタッフ間のコミュニケーションを推進し、働き甲斐のある職場作りに寄与するとともに、病院ビューイングを通じて、サッカーのことやカタール富山のことを知ってもらい関心度を高める。

活動場所 : 富山市立富山市民病院、富山県済生会富山病院、富山県立中央病院、富山西総合病院、黒部市民病院

取組テーマ : ⑨スポーツ観戦の生きるチカラに

協働者 : ①企業、②NPO、③住民、
④学校、クラブアカデミー、クラブダンスチーム、サポーター

協働者名 : 富山市立富山市民病院、富山県済生会富山病院、富山県立中央病院、富山西総合病院、黒部市民病院、NPO法人富山スポーツコミュニケーションズ、明治安田生命相互保険会社、富山大学、カタール富山アカデミー、カタール富山専属ダンスチーム

活動で工夫した点

これまでサッカーに興味がなかった患者さんに親しみをもってもらうため、選手のぼり旗の掲出、選手のプロフィール写真を用いた会場作りや、当日富山に残ったトップチームの選手、アカデミーの子どもたちを各机に配置し、患者さんとの交流を図った。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

入院している患者さんが対象のため、カタール富山を知っている患者さんよりも知らない患者さんが多かった。また、患者さんの都合もあり、前日までにははっきりとした参加人数が分からなかったため、準備するのに手間取った。選手がくるといことでサインを何にするか話し合った結果、リハビリも兼ねて患者さんにミニフラッグ等を作成してもらうなど、病院スタッフ側の事前準備も多くあった。

クラブや地域の活動後の変化

病院ビューイングに興味のある他の病院の先生が視察に来て、開催したいという病院が増えた。多くのメディアに取り上げられ、病院ビューイングの活動について地域住民の方にも知ってもらえる機会があった。



協働者の声

病院スタッフの声：患者さんだけでなく、スタッフ間でも距離が縮まって良かった。
 参加した選手の声：病院というストレスや不安が多い空間の中で、地元のチームが点を取って勝てば盛り上がり、一時的でもストレスや不安を忘れられる時間が作れると思った。もっと盛り上がりたかった。
 明治安田生命相互保険会社様の声：全国の支社から問い合わせがあるぐらい影響力のある活動である。1つの企業では成り立たない活動であるため、他方の理解・協力が大切である。
 参加している大学の声：取り組み的自体にはたくさんのメディアにおいて評価されているが、学生自体はボランティアで参加しているだけになっている。今後は病院ビューイングにおける院内・患者さん等の効果を測定し、情報の見える化を目指す。

参加者の声

カタールが身近な存在になった。スタッフの援助もよかった。サッカー観戦を通じて周りの患者さんと接する機会が増えたり、看護師との会話も増えた。一方で、応援が耳障りに感じる時があった。点滴が真ん中にあると観戦がしにくい。という声もあった。

活動の「ここぞ！」というPRポイント

病院という閉鎖的な空間をスポーツの力で明るく活気のある空間にできます。また、土日の空いている時間を有効に使い、患者さんの気分転換を！絶対に元気になります！

補足

試合前にはサポーターによる応援レクチャー、ハーフタイムには理学療法士が患者さんへ向けた体操も行っています。

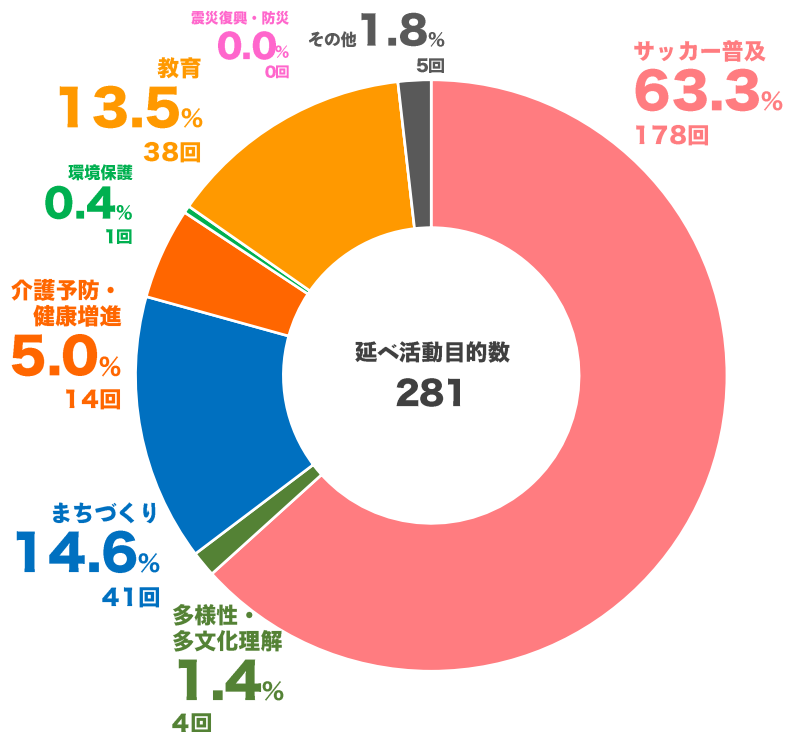


ホームタウン

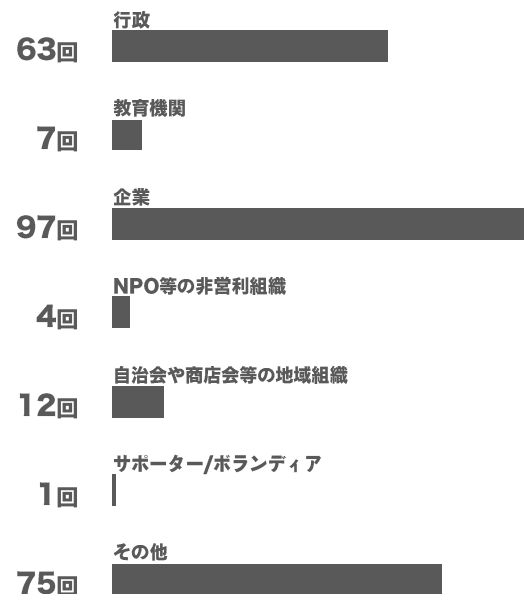
石川県／金沢市、野々市市、かほく市、津幡町、内灘町を中心とする全県

年間活動回数：**278回**

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。

ツエーゲン金沢



「ツエーゲン金沢BFC」 サポート事業

ツエーゲン金沢BFCは北陸初のブラインドサッカーチームです。2017年9月に、現・代表の松本陽子が「ブラインドサッカー立ち上げプロジェクト」を発足し、金沢市内の体育館を拠点に練習会等を開催しておりました。そして2018年5月より、ツエーゲン金沢のファミリーチームとして「ツエーゲン金沢BFC」に名称変更し、活動をスタートさせました。月2回練習会を開催しており、昨年は中日本リーグに参加し、公式戦デビューとなりました。また、ブラインドサッカーの普及活動も積極的に行っており、昨年は計11回開催しました。ツエーゲン金沢はBFCに対して、①告知協力②普及活動での人的サポート③活動資金集め、を行っています。

- 活動場所** : シェア金沢、他
- 取組テーマ** : ダイバーシティ (共生社会)
- 協働者** : ツエーゲン金沢BFC
- 協働者名** : ツエーゲン金沢BFC

活動で工夫した点

当クラブスタッフ1名を、ブラインドサッカー体験会に派遣し、BFCスタッフと同等に体験会を開催できるノウハウを習得させました。それにより、BFCの体験会に人的サポートができるようになりました。

活動で大変だった(苦労した)ポイント

クラブ側の課題としては、①相互の情報共有不足②クラブ側のマンパワー不足によるサポートの遅れ、の2点が挙げられます。

クラブや地域の活動後の変化

「ツエーゲン金沢BFC」の活動スタート当初は、「北陸初」のブラインドサッカーチームであること、「ツエーゲン金沢」の名を冠しているということから、地域情報誌に取り上げられる機会が多々ありました。また、小学校や地元のサッカーチームからブラインドサッカー体験会の開催をご要望いただく機会が増えました。ダイバーシティの理解に少なからず貢献できていると考えています。



協働者の声

今年では初めて公式戦に出場したことで、他地域のチームとの交流もでき、メンバーそれぞれの士気も高まった。普及活動においても、福祉イベント等への参加のお声かけを多くいただけるようになり、幅広い年齢層の方々に体験していただける機会を持つことができています。しかし、まだまだ認知度は充分ではなく、メンバー増員につなげることができていない。改めて、チームの方向性や今後の活動内容についてメンバー全員で話し合い、以降の活動に活かしていきたい。

参加者の声

ブラインドサッカーの体験会を通じて、視覚障害をもたれている方への理解が深まったと共に「目が見えない状態でサッカーができるなんてすごい！」という声が多く聞かれました。また、「声と音のみを頼りにするスポーツ」ということで、「従業員間のコミュニケーション向上を図る企業研修の一環として体験会を行うのも良いのではないか？」との声もありました。

活動の「ここぞ！」というPRポイント

BFCの活動サポートをスタートして今年で3年目になりますが、今後の目標として、①BFCの自立運営、②クラブ内に「ブラインドサッカー部門」を立ち上げ事業化、③ブラインドサッカー日本代表選手輩出、を目指します。

補足

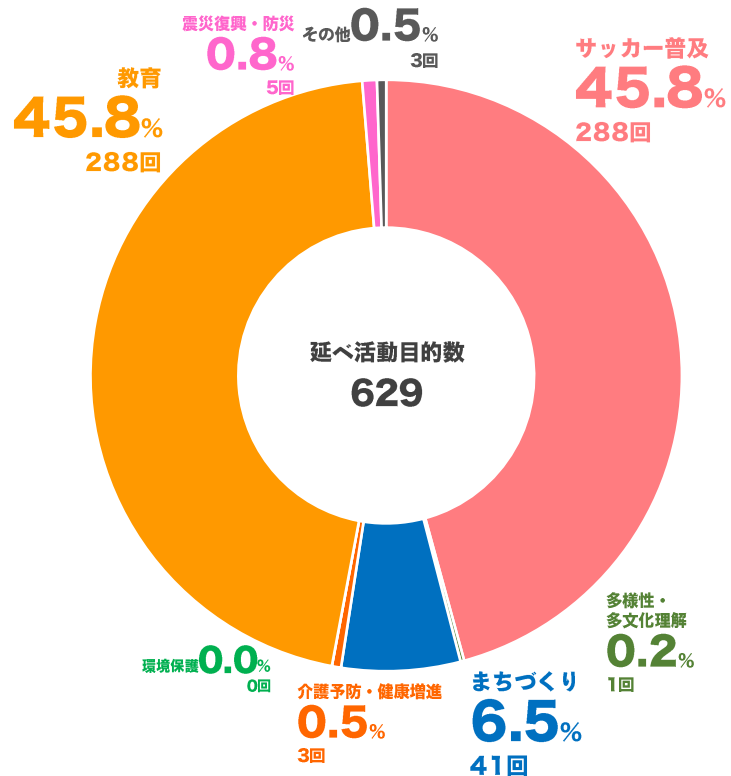
-



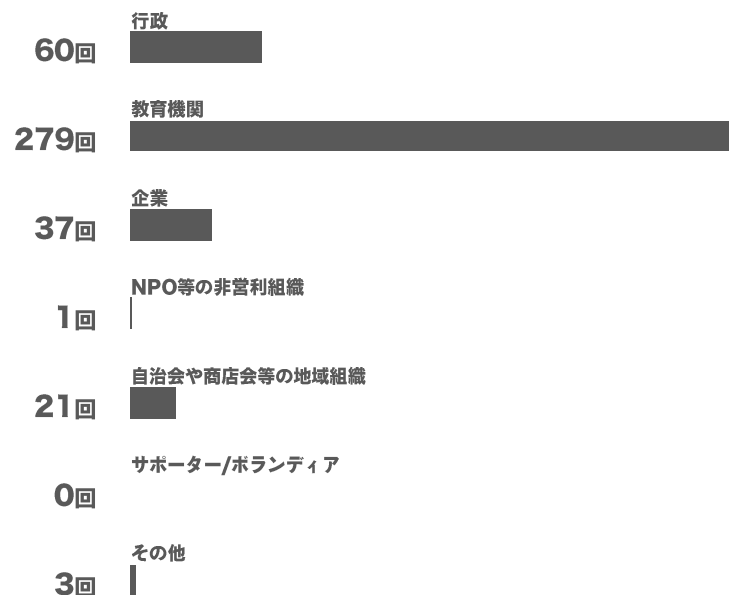
ホームタウン
静岡県 / 静岡市

年間活動回数：**327**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



エスパルス エコチャレンジ しずおか校庭芝生化応援団

エスパルスの練習場(三保グラウンド)の整備作業の際に抜き取られる廃材(小さな芝生の株)を利用したポット苗をつくり、育生し、植え付けることで、土だった場所に2~3か月後には緑に輝く芝生が広がります。このポット苗方式による芝生化を支援するために結成された『しずおか校庭芝生化応援団』は、地元団体、NPO、企業とエスパルスからなるもので、苗の育生と提供、苗づくり作業と植付け作業および維持管理における物資とボランティア人材の提供、セミナー開催や芝生の普及などを行っております。エスパルスの練習場とホームスタジアムの“兄弟芝”から生まれたポット苗で、2019年までに59か所の芝生化を達成してきました。

活動場所 : エスパルス三保グラウンド、芝生化する(した) 学校、幼稚園、保育園、施設ほか

取組テーマ : ⑧環境

協働者 : ①企業、②NPO、③住民、④学校、⑤行政、その他団体、アカデミー生

協働者名 : 静岡県地球温暖化防止活動推進センター { (特非) アスライフネットワーク }、(特非)グラウンドキーパーズ、鈴与グループ、静岡信用金庫、(株)静鉄ストア、(株)エンチョー、損保ジャパン日本興亜(株)、Shizuoka環境キャラバン隊、芝生化を目指す学校、幼稚園、保育園、施設等の関係者と親子、地域住民、エスパルスアカデミーの選手、静岡市、静岡県グリーンバンク

活動で工夫した点

- 誰もが参加できる体制作り。●芝生化を目指す園や学校、施設側の主体性、積極関与。
- 説明会、苗作りから植付け、維持管理までの一貫指導。●行政や団体の制度活用。
- ロゴ作成、ノボリやバナー、統一の帽子で一体感創出。●選手と一緒に作業するという体験。●こどもを飽きさせないよう紙芝居やキャラショー、抽選会を実施。
- ヒートアイランド現象緩和、涼感による空調の省エネ、保湿、生物多様性等環境面での効果P R。

活動で大変だった(苦労した)ポイント

- 芝の手入れに関する多数の問合せ(講座を受講、プロが指導、芝刈りや肥料散布を応援団が支援する等して対応)
- 当日のボランティア人数確保。
- エスパルスの練習場を使うため日程調整に苦心する。よって雨天でも決行(予め案内し参加者各自が雨具を用意して作業)
- 芝生がこどもの身体と心の発育に役立つことへの啓発。
- 「芝生の管理は大変だ」という固定観念から「やればできるんだ」というマインドチェンジ促進。

クラブや地域の活動後の変化

- こども、親、地域に喜ばれる様子を直接感じる事ができた。
- 芝生化によりこどもが外で遊ぶ時間が増えた。
- こどもの遊び場から地域コミュニティの場になった。
- 芝生化への理解が深まった。
- PTA活動は母親が中心だが芝生化作業は父親も参加するので子供との会話が増えた。
- 寄付して終わりではなく、ボランティアや人の交流でこれまでに無かった施設や企業と関わりを持つことができ、その他の案件でも連携するに至った。



協働者の声

- 地元に確かな貢献ができるとも良い活動だと思っている。継続していきたい(温暖化センター青島さん)
- 短期間で終わってしまったのでは社会にインパクトを残せない。また活動を継続させていく為には推進母体が機能し続けることが重要であり、エスパルスが求心力となるべく各協働者から信頼される存在でなければならない。自分だけ良い恰好をする者が出てきてはならない(鈴与商事(株)土屋さん)
- 10年以上続いているがまだ十分普及しているとは言えない。芝生化は園庭、校庭だけでなく公共施設や民間の空地まで広げていきたい。そのためにはエスパルスの更なる行動力が不可欠。エスパルスの中にも芝生のヘルプデスクがあると良い。(グラウンドキーパーズ佐野さん)
- 土ほりが上がらない、こどもが裸足で走り回れる、こどもが元気になった、芝生が一番の遊具、業者に丸投げではなく自分たちが植えた芝生なので愛着が沸く(芝生化した側の関係者)

参加者の声

ポット苗づくりは芝生化の肝となる作業で当初から参加しています。選手やバルちゃんと一緒に取り組む本活動は家族連れでの参加もあり、年代や性別、所属部署や組織の垣根を越えた交流も魅力の一つです。当グループとしては、県外出身者も多く新入社員が地域やクラブに親しみを持つ大変良い機会となっており、回を重ねるごと地域に緑が広がる様子は非常に感慨深く、毎年楽しく参加しています。(鈴与グループ社員)

活動の「ここぞ!」というPRポイント

- 先進性と10年以上の継続性。
- クラブ、協働者それぞれの強みを出し合い成功につながった。
- エスパルスの本拠地で選手と一緒に汗をかき、楽しみながらできる地域貢献活動である。
- アフターサポートも充実。

補足

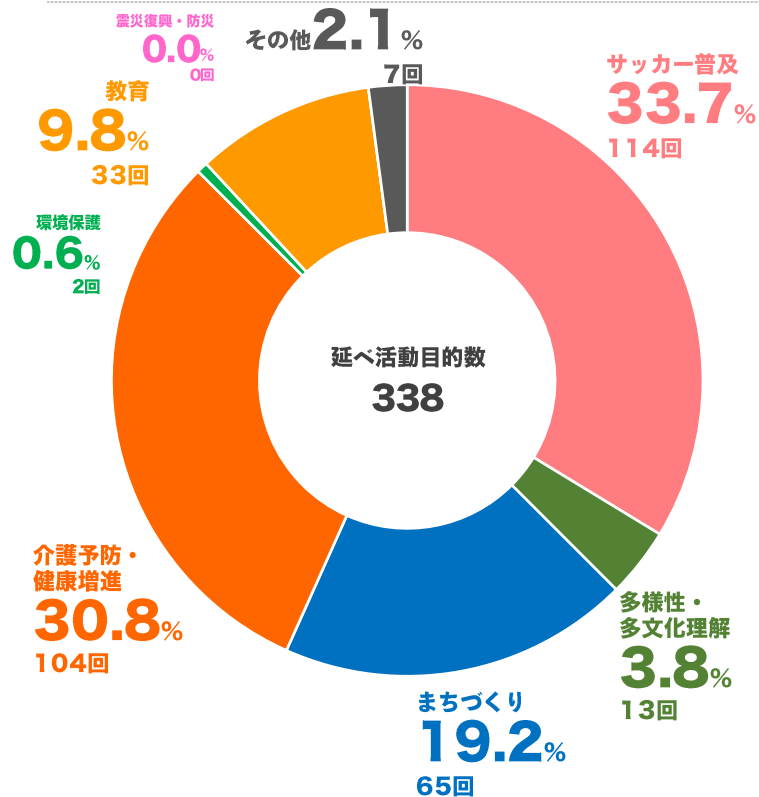
- 本活動は、2007年に始まった『エスパルス エコチャレンジ』と題したクラブの環境への取組みの一環である。『エスパルス エコチャレンジ』は2010年と2012年に環境大臣賞を受賞している。
- ポット苗方式による芝生化は従来の方式に比べ大幅に安価でできる。
- 地球温暖化防止、こどもの運動意欲の増進とスポーツ振興、そして情操教育にも役立つ。
- [3]の設問で⑧環境を選択したが①③④⑤⑥にも該当する。



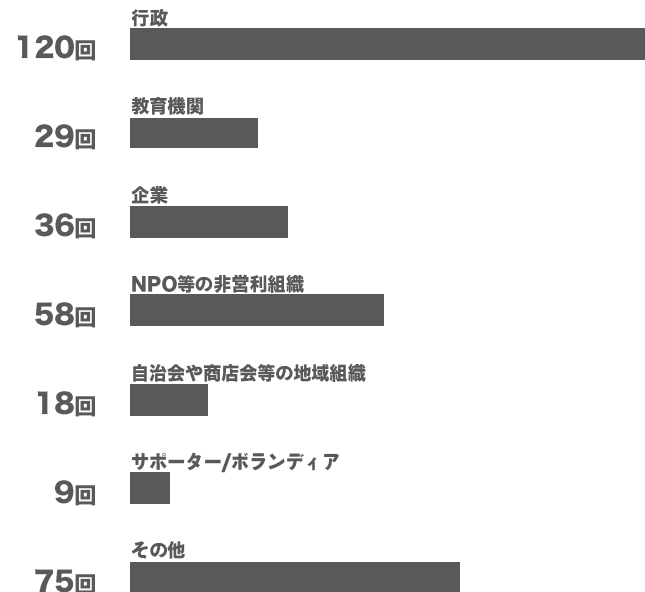
ホームタウン
静岡県 / 磐田市

年間活動回数：**247**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



磐田市内小学生一斉観戦事業

市民が気軽にスポーツを楽しみ、健康づくりや地域経済の活性化が図られ、活気あふれる「ものづくりとスポーツのまち」を磐田市とクラブは目指しています。その一環として磐田市内22校の小学5年、6年生約4,000人がJリーグ公式戦を一斉観戦しており、この事業に関わる全ての関係者の計らいで子供たちは授業として観戦をしています。子供達にはここにジュビロがある喜びを感じてもらい、街を誇り思い「おらが街」の意識を植え付ける事で郷土愛が育まれる事を望んでいます。そして、いつかは磐田の次代を担う人間へ成長していくことを願っています。

活動場所 : ヤマハスタジアム

取組テーマ : 持続可能な地域づくり

協働者 : 企業／学校／行政

協働者名 : ヤマハ発動機(株)、(株)サーラコーポレーション、ポッカサッポロフード&ビバレッジ(株)、NTN(株)、磐田市役所、磐田市教育委員会、磐田市推進協議会、磐田市PTA、磐田市内全小学校、サポーター(私設応援団)

活動で工夫した点

バス駐車場確保のため周辺企業へ社員駐車場貸出の協力要請。熱烈サポーターの協力を得て応援方法を子供たちに指導をお願いした。場合によっては事前に学校へ出向いていただき指導を行った。

活動で大変だった(苦労した)ポイント

各学校毎のスタジアムまでの安全な導線確保と人員配置。近隣の小学校は徒歩、遠方は大型バスで各駐車場より徒歩にてスタジアムに向うため各学校毎の導線を作成。

クラブや地域の活動後の変化

地域貢献から企業の協働者が増えてきました。



協働者の声

磐田市役所 職員の声：
磐田市ならではの事業だと思っています。2019年で9回目を数え、第1回目の子供たちが今年、成人式を迎えました。この事業は引き続き実施し更なる活動につなげていきたいと思っています。

参加者の声

子供たちからは楽しかった。またスタジアムに来ますと言ってくれました。別の事業の小学生招待事業では来場する小学生が増えています。

活動の「ここぞ!」というPRポイント

小学生約4,000人の声援はビクターチームにとっては脅威。

補足

一斉観戦第1回目の子供たちが今年、成人式を迎えました。その成人式の各会場で当時の映像を交え選手からお祝いメッセージ映像を届けました。今年はその成人式を迎えた方達を対象にした来場アプローチを企画しています。

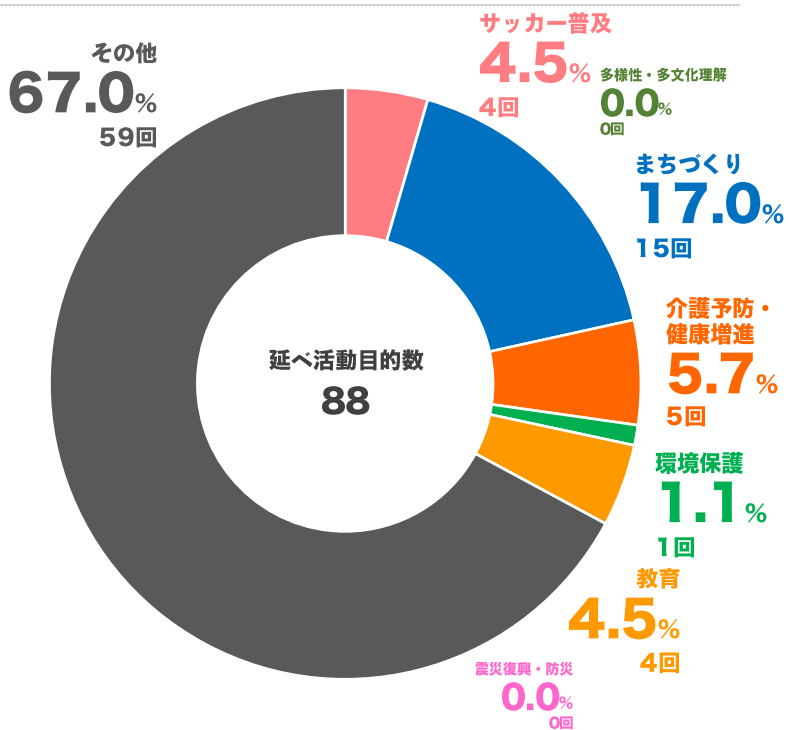


ホームタウン

静岡県／藤枝市、焼津市、島田市、牧之原市、吉田町、川根本町

年間活動回数：**88**回

活動目的の構成



協働者

行政	-1回	NO DATA
教育機関	-1回	
企業	-1回	
NPO等の非営利組織	-1回	
自治会や商店会等の地域組織	-1回	
サポーター/ボランティア	-1回	
その他	-1回	

※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



共生社会

『これまでの歩みとこれから』

「皆でサッカーがしたい！」という当事者の声を実現させようと、福祉事業所職員有志8名が実行委員会を発足（2015年）クラブは趣旨に賛同し、これまでに5回のフットサル大会を協働開催してきました。当初は、体力づくりや余暇活動の充実といった目的からスタートした大会は、回数を重ねる毎に参加者が増加し、2018シーズンより新たな取り組みが誕生！『藤枝MYFC応援ツアー』。2020シーズン、新たな一歩に向けて…。

活動場所 : 藤枝MYFCサッカー場内フットサル場

取組テーマ : ダイバーシティ（共生社会）

協働者 : 企業／行政／福祉事業所

協働者名 : 株式会社田子重、株式会社GV、ダイトー水産株式会社、サカイ産業株式会社自動車事業部、焼津チャレンジド・フットサル大会実行委員会

活動で工夫した点

施設を利用されるひとりでも多くの方に参加し、楽しんでいただけるよう、クラブスタッフも実行委員会の打ち合わせに参加、職員の方の意見・情報のもと、環境面・運営面での改善に工夫・努力しました。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

参加される福祉事業所（複数）とクラブ間の日程調整。雨天時に備えての会場含め準備。

クラブや地域の活動後の変化

チーム全体での参加が根付き、クラブ恒例イベントへと成長。行政関係者の参加や行政理解を得るまでに成長。



協働者の声

福祉施設職員：サッカー選手に参加してもらえることは嬉しい！選手を身近に感じることができた！一緒にボールを蹴った選手を応援したいとの声が施設利用者から上がり嬉しい！

協賛企業代表：予想以上の参加人数に驚きました！皆さん楽しそうに参加され、喜んでいただき光栄です。

参加者の声

福祉施設利用者：次回はいつですか？とても楽しみです！

活動の「ここぞ！」というPRポイント

今後の展開（2015年～フットサル大会⇒2018年～応援観戦ツアー⇒2019年4月障がい者就労支援プロジェクトスタート）

補足

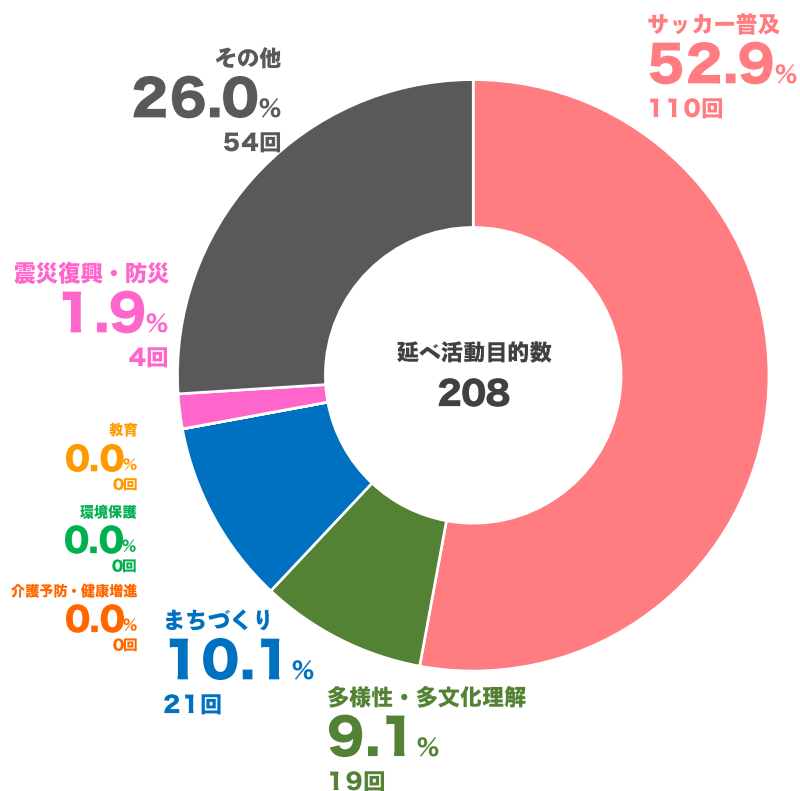
大会を通じて、福祉施設利用者さんの選手を応援したい！という声で“応援”という『支え手』の役割が生まれ、次は共に創り高め合う地域共生社会の実現に向かって動き出します。



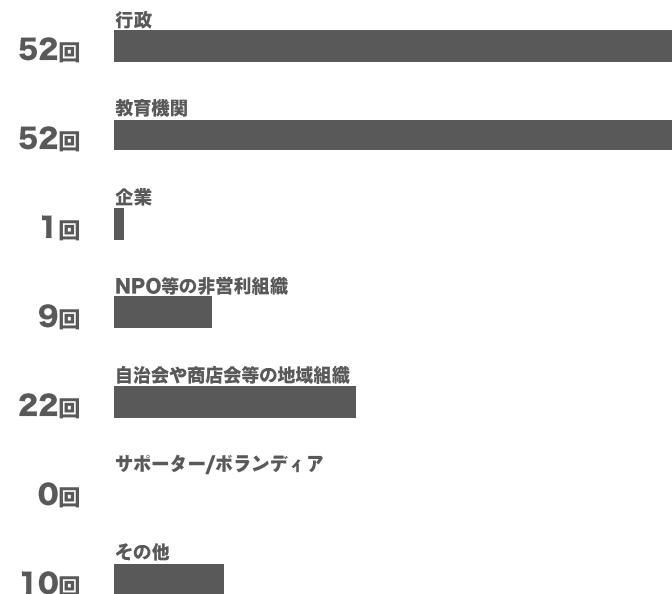
ホームタウン
静岡県 / 沼津市

年間活動回数：**88回**

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



ぼうさいマップ作り2019

自治会などと連携をし、地域の子もたちが楽しみながらまちを見て回り、ぼうさいマップを作製する安全教育プログラム「ぼうさい探検隊」の取り組みを行いました。企画経緯としては近年台風や水害、南海トラフ地震などが懸念されている静岡県において防災意識を高めることと、子どもと地域自治会が協力をして年齢、性別を超えた機会をJリーグクラブが創出する。

活動場所 : 沼津市門池地区

取組テーマ : ②防災・震災復興

協働者 : ④学校, ⑤行政

協働者名 : 門池自治会、一般社団法人 日本損害保険協会、沼津市

活動で工夫した点

今回は初の試みということと、特別支援学校との連携だったので、防災についての認識を高めるため、事前学習を実施して、危険な物などの予備知識を学校にも協力してもらい時間を設けてもらったことと、子どもたちが主役になるよう、あくまでクラブスタッフと自治会の担当者はサポートに回ることを徹底しました。

活動で大変だった(苦労した)ポイント

クラブからの提案に対し、自治会の理解を得るために沼津市との協力体制で数回のプレゼンをし、ようやく理解をし協力してくれる自治会との連携ができるまではかなりの労を要したことや、ぼうさいマップ作りはクラブとしても初の試みだったためスタッフの研修などに時間を費やしたこと。

クラブや地域の活動後の変化

活動後、自治会の評価も上がり、他の地域でも取り組みたいという相談があったことや、特別支援学校での取り組みにより障害者理解が深まったことで、より多くの取り組みのプランがたてられるようになった。また沼津市の理解も深まり、協力体制がより強固になりました。



協働者の声

特別支援学校の先生：生徒が楽しみながらぼうさいについての意識が高まったので、非常によかった。

自治会役員：普段は見過ごしているような箇所なども子ども達の手で発見されることにより、改善しなければならない点があったことや一緒に自分の地域を見直す機会ができた。

参加者の声

参加した子ども：歩くのがすごく疲れたけど、色々な物を発見できて楽しかった。

活動の「ここぞ!」というPRポイント

自治会、行政と連携をし、地域課題に取り組むことは非常に困難ではあり、小さいステップではあるがこういった活動を実現できたことは大きなステップだと強く思います。

補足

今回のぼうさいマップ作りというアイデアはシャレンの勉強会から学び、ここまで取り組むことができました。多くの人との知識の共有や取り組みを知ることで、地域へ還元できることを学んだ。クラブは単なる地域との連携を行うだけの機関ではなく、日本全国に点在していることでの知識や経験を共有していくことで、自地域に帰ったときに地域へ還元できる存在でもあることが非常に大きな役割を担っていると思います。

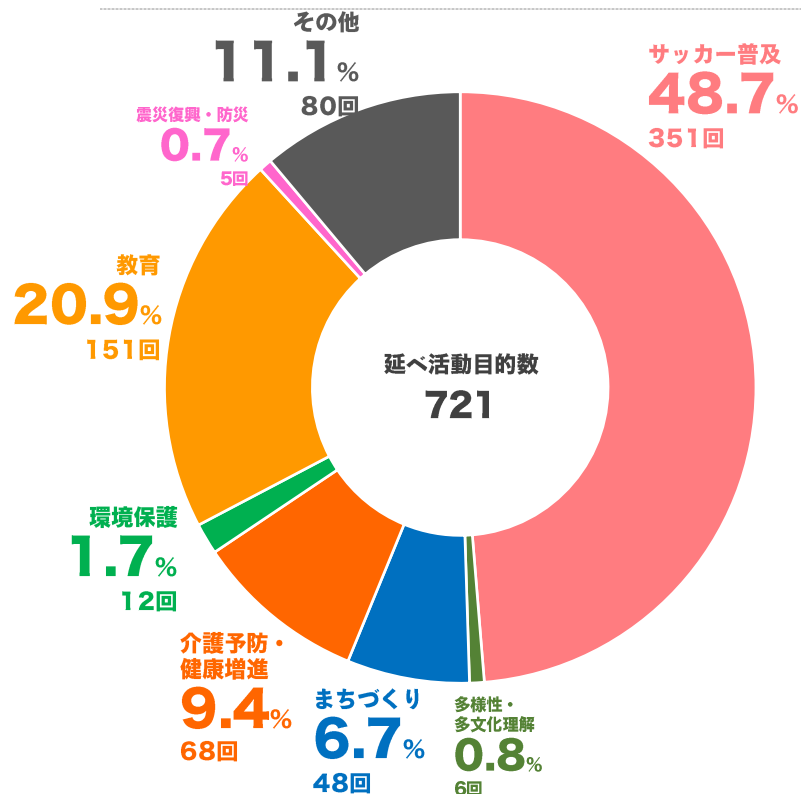


ホームタウン

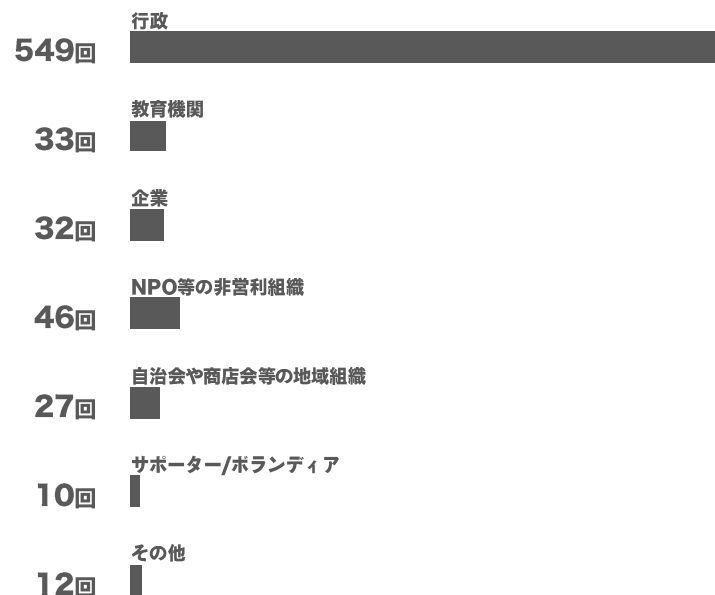
愛知県／名古屋市、豊田市、みよし市を中心とする全県

年間活動回数：**387**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



グランパス未来商店街

企画経緯・目的：豊田スタジアム最寄りの豊田市駅周辺は商業者が多いにもかかわらず、試合時のサポーターの滞留が少ない。一方で街並みは都会的できれいな商業エリアを有するものの、店主のサラリーマン化が進み、豊田市らしさの魅力に欠け、横のつながりも希薄である。

そこでクラブが地域のハブとなり、かつて駅前にあった商店街のようなコミュニティを新たな取り組みの中でつくることを目的に、試合の有無に関わらず、商店も地域もサポーターも嬉しい、新たな共創の場となることを目指して始まった。

主体：グランパスシャレンメンバー（約20名）

協働者：地元商業者、一般社団法人TCCM（まちづくり団体）

たきつけ役：クラブ

活動場所：豊田市駅前

取組テーマ：交流人口・関係人口の増加

協働者：企業／住民／行政／グランパスシャレンメンバー

協働者名：TCCM(豊田市中心市街地活性化協議会)、
グランパスシャレンメンバー

活動で工夫した点

クラブと社会課題解決を目指したいプロボノメンバー（グランパスシャレンメンバー）が中心となり、地元のキーマンを巻込んでメンバーを構成した。デザイン思考の手法を一部取り入れ、顧客視点に立った発想で生まれたアイデアを具現化させるために、ホームゲーム2試合を活用してインタビューを中心としたフィールドワークやプロトタイプ検証を実施し、仮説アイデアをより顧客ニーズに沿ったアイデアにブラッシュアップしていった。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

普段は一緒に活動することがない、グランパスシャレンメンバーと、行政や地元のまちづくりの担い手が一緒になって、同じベクトルで取り組んでいく点が難しかったが、4回の参加型のセッションを継続していく中で、徐々に一体感を醸成していくことができた。

クラブや地域の活動後の変化

これまで、試合開催日ですら街とサポーターとの距離感があった中、セッションやプロトタイプを通してグランパスを活用したまちづくりの意義をTCCMや街の方々に賛同いただいた。また街中を利用する顧客へのアプローチとして、未来商店街を通じて「とよたまちなかLINE」を立ち上げ、今後のまちなかイベントの情報発信につなげる。



協働者の声

■豊田市中心市街地活性化協議会 中井さまの声：シャレンの活動に参加することによって、名古屋グランパスのサポーターの生の声を聞くことができました。また、昨年一緒に取り組んだ未来商店街がきっかけで、とよたまちなかライン会員の取組に至りました。

■大学生スタッフ 佐々木さまの声：クラブが私たちの身近なところで地域を支える活動をしているかを実感しました。クラブは試合で勝つことだけが重要だと思っていましたが、ホームタウンとの結びつきを大切にしたり、ファンの方々とホームタウンの両方が笑顔になれる仕組みを考え、地域へ貢献していました。今住んでいる地域の課題に目を向け、よりよい未来を創るために試行錯誤を重ねて企画を行うことはとてもやりがいのある活動だと感じました。

参加者の声

8/10は歩行者天国になったこともあり、試合前の盛り上げとしてワクワク感があった。キックターゲットや等身大パネルでの撮影など、親子やファミリーで楽しんでいただいていた。

11/23の駅前イベントでは縁日企画でコンテンツが増えたこともあり、普段のホームゲームより約2倍の来場者があった。（駅前商業者のご意見）

活動の「ここぞ！」というPRポイント

地域とクラブ・サポーターとの長年の距離感が、プロトタイプを通してお互いの距離感を縮められる感触を得ることができた。

補足

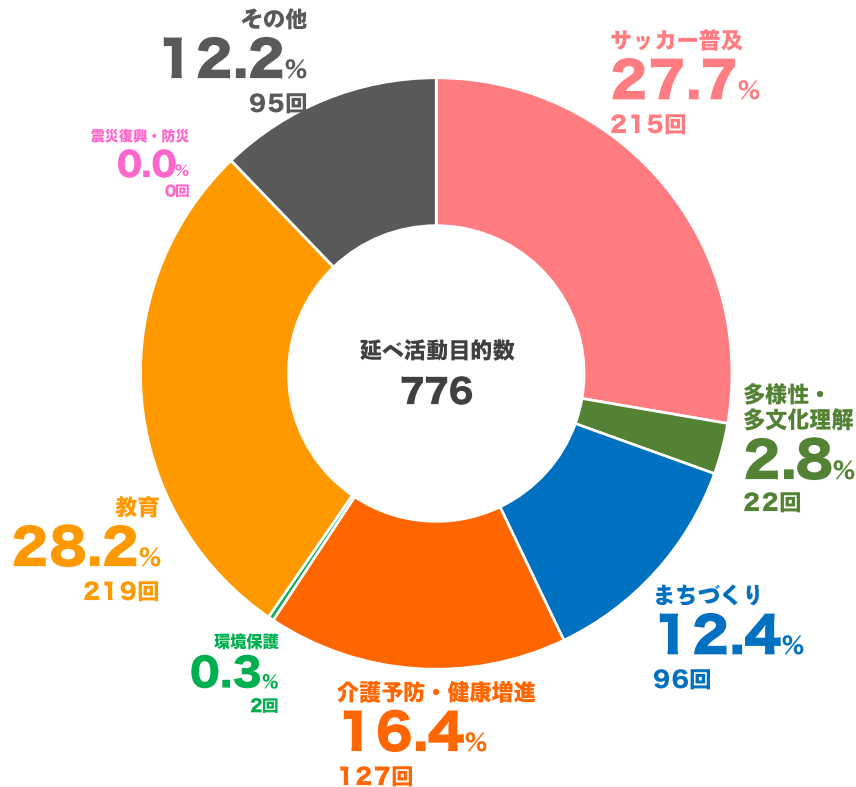
企画を引っ張っていく存在としてグランパスシャレンメンバーを構成した。企業・行政・大学生等、多様なメンバーで構成され取り組みの企画・運用を伴走した。まちなかの中心となる団体・商業者は課題感はあるものの他の業務で手一杯だったりアイデア・企画含め手法が思いつかない場合もあるが、それに伴走する役割がいることで課題の克服を目指した。



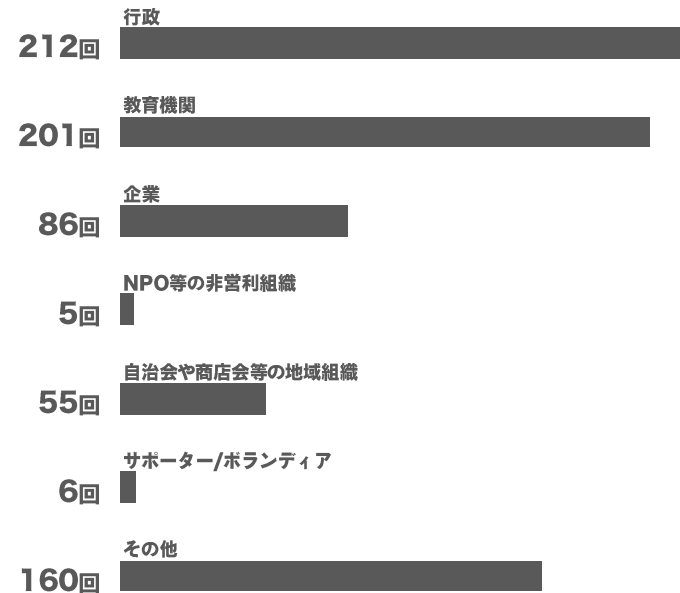
ホームタウン
岐阜県／岐阜市を中心とする全県

年間活動回数：**453**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



F C岐阜 × Wings 交流会

Wingsは岐阜市長良の長良医療センターの筋ジストロフィーの入院患者らで結成された電動車椅子サッカーチームで、1998年に結成され全国大会でも優勝を経験した強豪チームです。F C岐阜が2008年にJリーグに昇格したことをきっかけに、同じ岐阜の地で活動するサッカーチームということで交流企画が始まりました。昨年12回目の開催を迎えました。選手が電動車椅子に乗ってのドリブルやシュートに悪戦苦闘する姿に大きな笑い声や歓声が上がります。また毎年恒例のPK対決はとても盛り上がり、応援に来ているご家族の方々も笑顔にあふれています。最後は共にサッカーに打ち込むものとして互いの健闘を誓いエールを交換しています。

活動場所 : 独立行政法人国立病院機構 長良医療センター

取組テーマ : ⑥地域のコミュニティ

協働者 : ①企業, ③住民

協働者名 : 独立行政法人国立病院機構 長良医療センター、
電動車椅子サッカーチーム「Wings」

活動で工夫した点

出来るだけメディア等に取り上げてもらえるよう知名度の高い選手、試合で活躍している選手に参加を依頼した。

活動で大変だった(苦労した)ポイント

Wingsの参加者のなかには当日体調の都合で参加できない方がいたこと。

クラブや地域の活動後の変化

活動後は、クラブ側としては、サッカーに携わるものとしてより一層真摯に今後の活動に取り組んでいくという意識が出てきます。Wings側もF C岐阜を応援しようという想いが強くなりました。



協働者の声

長良医療センターの作業療法士(Wings監督)の浅岡俊彰さんの声:
障がい者スポーツではなく、地元の同じサッカーチームとして参加してくれてうれしかった。

参加者の声

Wingsの選手: プロの選手とサッカーできて楽しかった。これからもF C岐阜を応援するので、お互いにがんばりましょう。

活動の「ここぞ!」というPRポイント

F C岐阜がJリーグに昇格してから続く伝統の行事です。これからも互いに切磋琢磨して地元のサッカーを盛り上げていきます。

補足

交流会の終了後には、長良医療センターの病棟を訪問して入院している患者さんともふれあいなども行っています。

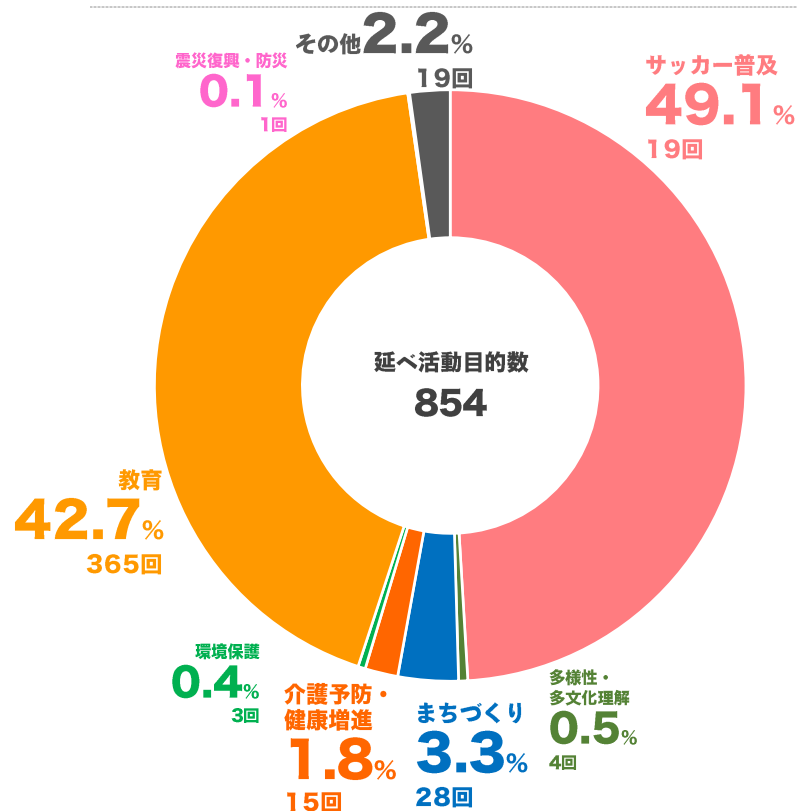


ホームタウン

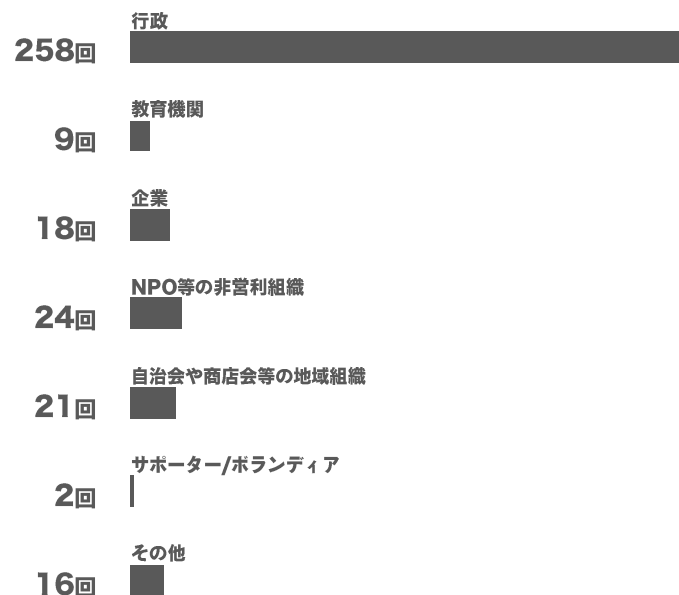
京都府 / 京都市、宇治市、城陽市、向日市、長岡京市、京田辺市、木津川市、亀岡市、南丹市、京丹波町、福知山市、舞鶴市、綾部市

年間活動回数：**489**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



亀岡セーフコミュニティ 外傷予防講習会

亀岡市では、事故やけがを予防し、誰もが安全に安心して暮らせる「セーフコミュニティ」に市民と協働して取り組み、平成20年3月に、日本初のWHO（世界保健機関）セーフコミュニティ協働センターによる国際認証を取得しました。セーフコミュニティの一つの課題である「けがの予防」を目的とした中学スポーツ部活動生徒対象の講習会にサンガのアスレティックトレーナーを講師として派遣。腰などを痛めやすい成長期の子どもたちへ正しい身体の使い方や負担のかからない走り方など、プロクラブが持つ専門的な知識を伝え、地域課題解決に取り組んでいます。

- 活動場所** : 亀岡市立大成中学校
- 取組テーマ** : 健康/SIB
- 協働者** : 学校/行政
- 協働者名** : 亀岡市/市内中学校サッカー部

活動で工夫した点

パワーポイントを用いた座学と本格的な実技を織り交ぜ子どもたちの興味を引く内容とした。
また講習会だけで終わってしまわないよう、普段の練習でも取り入れることができる内容を加えた。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

日程調整。中学校サッカー部員を対象に夏休み中に実施したが、部活動のスケジュールとトレーナーのスケジュールがうまく合わず想定よりも参加者が少なかった。

クラブや地域の活動後の変化

子どもたちのけが予防に対する意識が高まった。



協働者の声

亀岡市担当者：次回は市内の指導者ばかりを集めた講習会なども実施したい。

参加者の声

部活動指導者：子どもたちにサッカーを教えることはできるが、けがを予防するトレーニングを指導するノウハウを持っていないので大変ありがたく、今後の部活動に活かしたい。

活動の「ここぞ！」というPRポイント

2020年2月にオープンした新スタジアム「サンガスタジアム by KYOCERA」の所在地である亀岡市との協働。地元の人たちから「Jクラブがあって良かった」と思っている活動が続けていきます。

補足

-

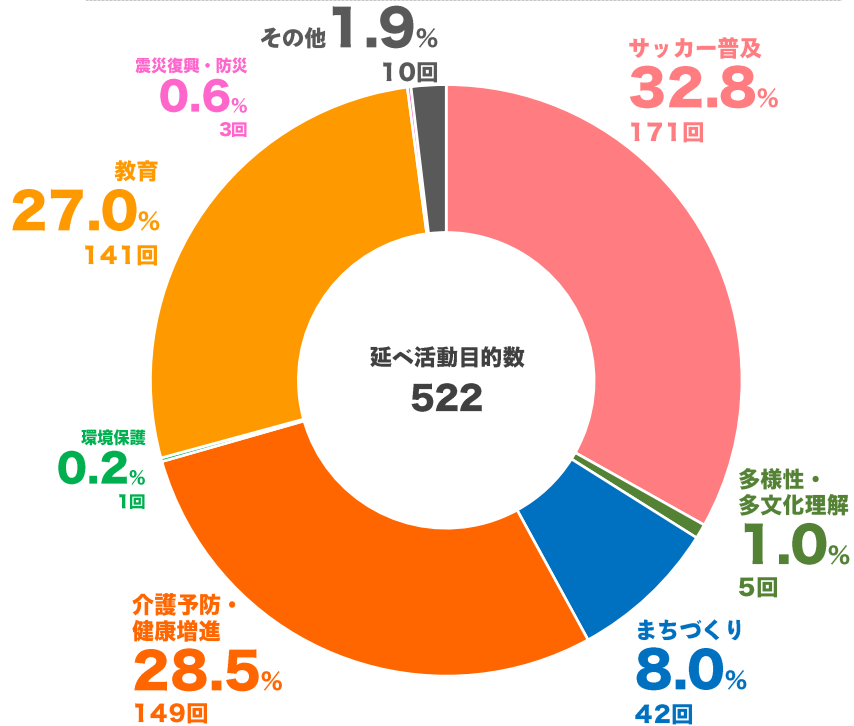


ホームタウン

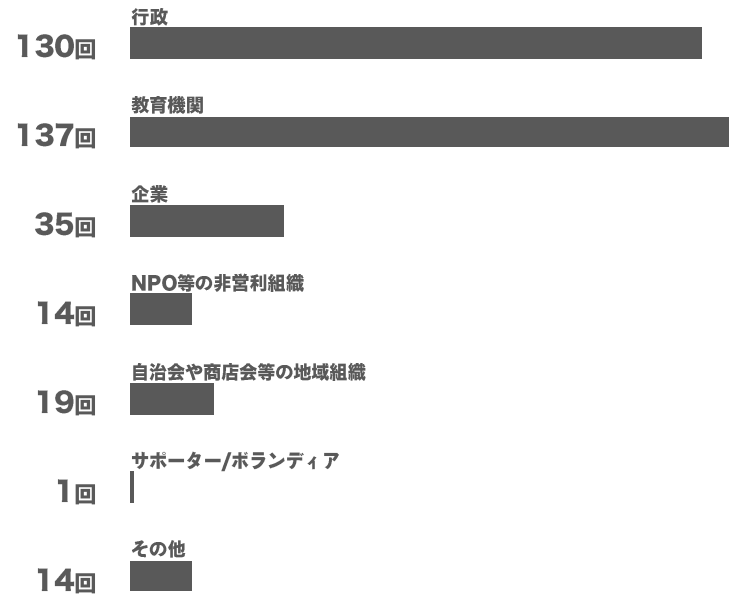
大阪府／吹田市、茨木市、高槻市、豊中市、池田市、摂津市、箕面市

年間活動回数：**231**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



ガンバ大阪スカンビオカップ／ スカンビオ関西交流大会

2007年にガンバ大阪のホームタウンである高槻市の新阿武山病院の院長先生より、高槻市で活動する精神障がい者のフットサルクラブにガンバ大阪として協力してもらえないかとの依頼をいただき、クラブスタッフが練習を見学させていただきました。そこで、健常者との区分けがつかない現状を目の当たりにし、心の中に悪しき偏見が存在するとの気づきから精神障がい者の社会復帰を目的としたアカデミーコーチによるサッカー指導を開始したことがきっかけです。その後、練習だけでなく、チームを組んで試合をしたいとの要望があり、イタリア語で「交流」を意味するスカンビオと名付けたフットサル大会を開始し、昨年で12年目を迎えました。

活動場所 : ノア・フットサルステージ茨木 大阪大学グラウンド「すいらん」

取組テーマ : 交流人口・関係人口の増加

協働者 : 企業／NPO／学校

協働者名 : 特定医療法人大阪精神医学研究所新阿武山病院、
NPO法人日本ソーシャルフットボール協会、国立大学法人大阪大学、
大阪成蹊大学、平成医療学園専門学校

活動で工夫した点

2007年から5年間、アカデミーコーチによるサッカー教室とは別にスカンビオカップ（フットサル大会）を実施していましたが、2012年から大会ではなく参加者同士の交流を目的とした交流試合を開始いたしました。そこでは、アカデミーコーチも試合に参加し、勝敗は関係なしにみんなでサッカーを楽しみます。チーム参加ではなく即席でチームを組んで試合を行うため、選手同士でのコミュニケーション向上に役立てられます。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

身体的な障がいとは異なり、外見で精神障がいの有無を判断することは困難です。また、アカデミーコーチは普段健常者の子どもたちを指導しているため、どのように接したらいいのか悩みました。とりわけ当事者への言葉の使い方や、指導方法に苦労いたしました。

クラブや地域の活動後の変化

クラブとして障がい者スポーツに取り組むことにより、普段の生活では接することの少ない障がい者への理解が深まると同時に、精神障がいに対する垣根を取り払うことができました。



協働者の声

NPO法人日本ソーシャルフットボール協会真庭大典氏の声：開始当初は100名弱であった大会も回を重ねるにつれて参加者が増え、お互いの近況報告をする場としてのコミュニティーの役割や、この大会に参加することを目標にして日々の生活リズムを整えるなど、フットサル以外の部分での相乗効果が得られております。

参加者の声

・大会に参加するために、生活リズムを整え、練習をする時間を作るなどして色々なことを順序立てて考えられるようになりました。・自分たちの試合を応援してくれている人たちが沢山いることが本当に嬉しくて、今までそんなこともなかったので頑張ることができています。（茨木市在住の参加者）・1年に1回大阪へ行って試合をするのが楽しみで、帰りに大阪観光するのがさらに楽しみです。（九州からの参加者）

活動の「ここぞ！」というPRポイント

クラブとホームタウンの病院との出会いから始まったこの活動も12年間継続する活動となり、世界大会に参加するソーシャルフットボールの日本代表も参加するような全国規模の大会を開催するまでに広がりました。

補足

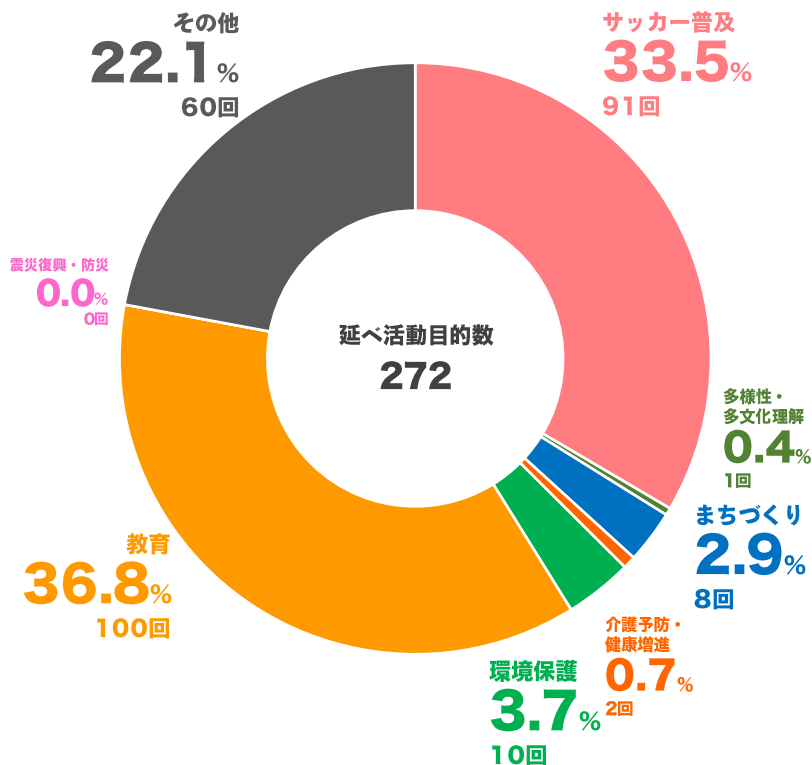
2007年の第1回大会に参加した方と昨年お話しする機会があり、現在は地域で健常者の小学生サッカーチームのコーチとして活躍されているとお聞きしました。この活動の最終目的である当事者が一般社会に出て普通に社会に溶け込んでいる事実を実感し、継続して取り組んできたこの活動のやりがい、達成感を味わいました。



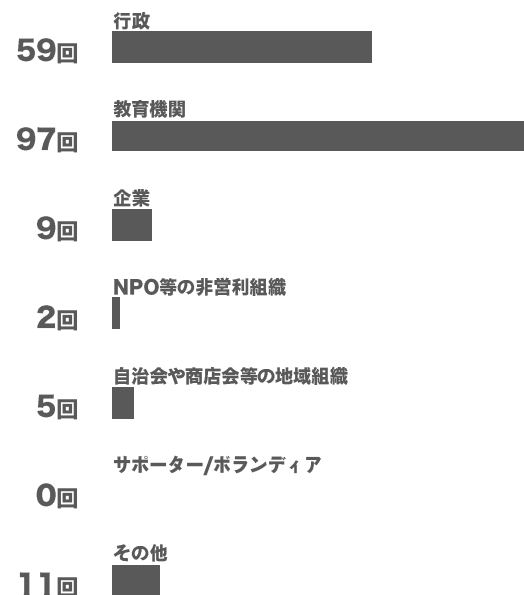
ホームタウン
大阪府／大阪市、堺市

年間活動回数：**181**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。

セレッソ大阪



大阪市立図書館×セレッソ大阪 読書推進プロジェクト

きっかけは、図書館の担当者から読書人口が減少しており、中でも子どもに顕著であると聞いたこと。小学生のうちに本を読む習慣をつけてほしいと、読書手帳の配布を中心に、イベントや図書館での巡回展、学校図書館でのポスター掲出などを行った。その際、営業チームからCSR活動に興味を持っている企業があると聞き、支援を呼びかけたところ4社が協力してくれた。協力の形も金銭的な支援だけでなく、読書手帳のデザイン、印刷、シールの制作といった実務面のほか、社長のおすすめ本を紹介してもらうなど、パートナーとして一緒に取り組んでもらうことを重視した。今後、さらに魅力的なイベント実施などで、取り組みを広げていきたい。

活動場所 : 大阪市内各所（図書館ほか）

取組テーマ : 教育

協働者 : 企業／住民／学校／行政

協働者名 : 大阪市、大阪市立図書館（大阪市教育委員会）／株式会社カスタマーリレーションテレマーケティング、東洋シール株式会社、ナカバヤシ株式会社、株式会社ヘソプロダクション／（イベント協力）たこ焼道楽わなか、日本出版販売株式会社

活動で工夫した点

サッカーチームとして、セレッソ大阪にも興味を持っていただけのように、読書手帳に選手のおすすめ本を掲載したり、50冊読んだ特典としてホームゲームの招待券をプレゼントしたりした。また、イベントとして、秋の夜のスタジアムでの読書会を企画。サッカーに興味のない方にもご参加いただき、手ごたえを感じた。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

読書手帳の製作では、全国の事例等を踏まえつつ、どうすれば子どもたちが楽しんで本を読んでもらえるかを意識した。時間も人員も限られる中、図書館をはじめ外部の方々に多くの助言をいただき、なんとか実施することができた。社内の理解・協力を得ることも重要だったため、企画書などでビジュアル化しながら説明をするなどし、徐々に協力的な環境となっていた。市内12万人への手帳の配布は図書館が10日ほどかけて仕分け作業を行ってくれるなど、それぞれが主体的に取り組んでくれたおかげでスムーズに行えた。

クラブや地域の活動後の変化

別件での小学校訪問時などに、以前に比べてセレッソの認知度が上がったように感じた。活動は新聞等でも紹介され、少しではあるが、サッカーに興味のない方たちにもセレッソの活動を認識していただけているのではないと思う。また、メディアに露出したことで、出版社から協力・協働の申し出があり、新しい関係も広がっている。



協働者の声

図書館担当者：多くの子どもたちが図書館へ読書手帳を持って来てくれるのが嬉しい。本を読んでもらえるきっかけになっている。（イベントについては）普段、図書館に来られない方にもPRするいい機会になった。こういった活動も続けていきたい。

参加者の声

【教員】（読書手帳に）シールを貼るのが嬉しいようで、どんどん本を読んでもらえる。続けてください。【保護者】まったく本に興味のなかった子どもが、柿谷選手の勧める本を読みたいと言ってきた。読みながら「僕も同じことを感じた」と言っていた。【イベント参加者】初めてスタジアムに入ったが、そこで読書するのは面白い。サッカーも見てみたいと思った。

活動の「ここぞ！」というPRポイント

最初は大阪市立図書館だけの取組みとして考えていたが、大阪市や企業を巻き込むことでできることが広がり、まさに社会が連携した活動となった。クラブ内でも営業チームと連携したことで今後の可能性も広がっている。またこの活動を通して出版社や取次など数社との付き合いが始まり、次の企画やイベントへの取組みをスタートさせることができた。

補足

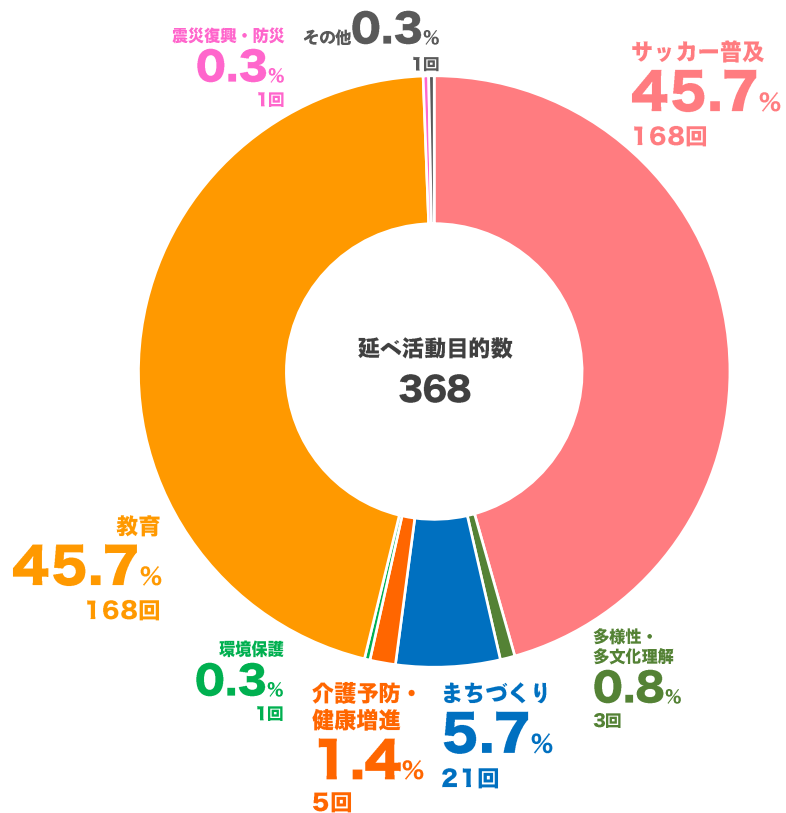
講談社からお声掛けいただき、2/23に大阪市立大学のキャンパス内で読み聞かせイベントを実施する予定だったが、新型コロナの影響で中止。講談社からのリリースもあってか、短期間で予想以上の申し込みがあったのに残念。しかし、メディア露出や、活動を続ける中で新しいパートナーができ、次のステップにつながるのだということを実感した。



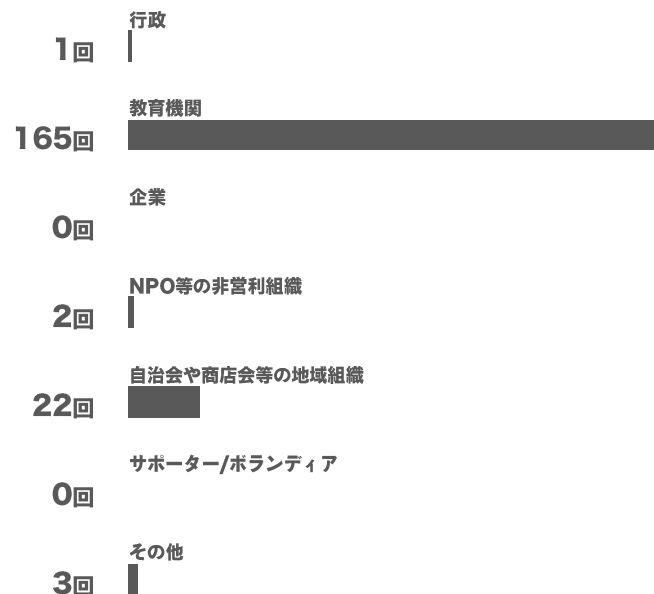
ホームタウン
兵庫県／神戸市

年間活動回数：**193回**

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



JR西日本津波避難訓練

JR西日本と連携し、近い将来高い確率で発生が予想される南海トラフ地震で発生する津波を想定し、津波緊急情報が発令されたとの想定のもと、列車に乗車されているお客様の人命や地域順民を安全に避難できるよう、スタジアム近隣地域の皆様や企業の方にご協力いただき「津波避難訓練」を実施いたしました。



活動場所 : JR和田岬線およびノエビアスタジアム神戸

取組テーマ : ②防災・震災復興

協働者 : ①企業, ③住民, ④学校, ⑤行政

協働者名 : 西日本旅客鉄道株式会社

活動で工夫した点

実際に列車を動かし、リアルな訓練を行い、JR西日本はどのように乗客の避難誘導を行うか、スタジアム管理を行っている楽天ヴィッセル神戸は、災害時にスタジアムを素早く解放し、地域から避難してくる方々をどのように受け入れるかなどを改めてチェックすることを目的として実施。

活動で大変だった(苦労した)ポイント

災害時は電気や備品など身の回りの限られた手段で、約620名もの乗客(避難者)へ災害情報の伝達、避難誘導をどう伝えるかが課題として上げられました。

クラブや地域の活動後の変化

阪神淡路大震災を経験している地域住民の意識は高いが、企業、そして避難施設としてスタジアムを管理しているヴィッセル神戸が訓練に参加し、それぞれが連携することで、「人の命を守る」という意識を改めて認識させられた訓練活動となりました。

協働者の声

災害時のお客様誘導と地域住民、企業、行政との連携は不可欠となります。今回実際に走行中の列車から最終的にスタジアムへ避難するという流れの中で地域の方々、企業、行政が連携して行えたのは非常によかったです。

参加者の声

普段の生活の中で起こりうる場面を想定しての訓練は非常によかったです。あって当たり前のスタジアムに避難するという安心感も確認することができました。

活動の「ここぞ!」というPRポイント

普段の生活の中で起こりうる事態を鉄道会社と連携し訓練出来たのは非常によかったです。今後も他の機関を巻き込んでスタジアムを使った訓練を実施していきたいと思います。

補足

-

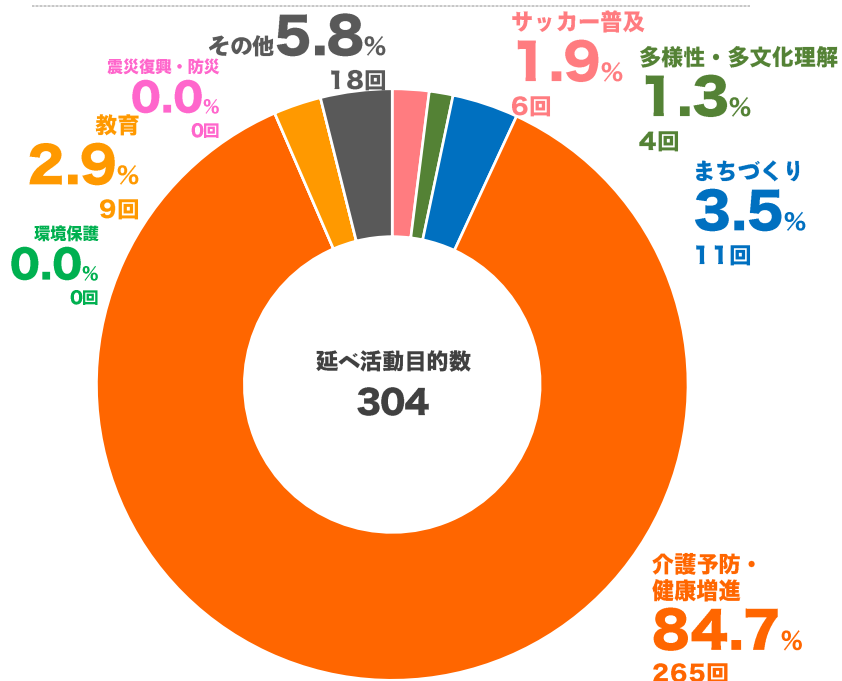


ホームタウン

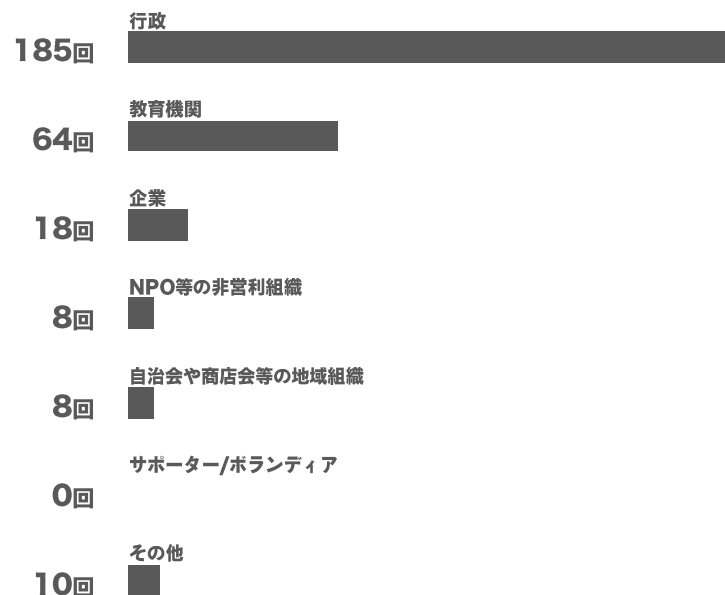
鳥取県／鳥取市、米子市、倉吉市、境港市を中心とする全県

年間活動回数：**313**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



芝生で地域課題解決！ 「しばふる」で街も人も笑顔に！

チュウブYAJINスタジアムの施設管理で培った芝生ノウハウをもとに複数の協力者と立ち上げた芝生産プロジェクト。「地域社会の一員としてお役に立つ」という想いから地域課題である米子市の遊休農地（耕作放棄地）を借りて芝生を生産。生産はスタッフだけでなく、企業協力や障害者による軽作業協働など地域を主語にした多面的なプロジェクトとなっています。生産した芝生は県内外問わずの教育施設や多目的広場、社屋等に販売。昨年は鳥取県トライアスロン協会や地元ケーブルテレビ局と一緒に芝生クラウドファンディングを立上げ1,300万円を超え達成（山陰地方のギネス）。クラブの地域価値の向上、収益強化につながっています。

活動場所 : 生産場所：米子市弓浜地区、境港市つばさ保育園

取組テーマ : ③持続可能な地域づくり

協働者 : ①企業, ②NPO, ⑤行政

協働者名 : 本田技研株式会社（HONDA）、三光株式会社、ミライズ、チュウブ緑地 有限会社岡田商店、株式会社まるごう、鳥取県トライアスロン協会

活動で工夫した点

・芝生産における工夫点：本田技研工業（HONDA）と提携し、芝生管理の省力化や肥料の効果測定などの実証実験を行った。また低農薬栽培にチャレンジし、環境や身体にやさしい芝生産も開始。・芝生化における工夫点：芝生化したいが予算の捻出が難しい団体へ、クラブスポンサーのネットワークを活用し、地域企業がCSRの一環として芝生を購入し団体に寄贈するというモデルをつくり、芝生化を実現した。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

芝生産未開の地であったため、周りの農家からの理解や協力が得にくく、また農業者としての経験がないJリーグクラブに芝生産ができるのかといった批判的な対応や時には心無い声が多くあった。また実際に取り組むと未知の部分が多く次々と課題も出てきたが、生産スタッフの情熱、姿勢、プロジェクトパートナーの助言や協力、芝生化の実績づくり、広報などを通し徐々に理解を深めていった。

クラブや地域の活動後の変化

初出荷で幼稚園を芝生化した際に園児たちが笑顔いっぱい走り回る様子が地元メディアに取り上げられ大きな反響があり地域からも温かい言葉をかけられることが増えた。また全国紙や雑誌、TV番組で数多く取り上げられるようになると地元をはじめスタッフの自信にもつながり、プロジェクトの成功が地域課題（耕作放棄地）解決につながることで、地元の方々にも新たな芝生の産地が誕生したことを喜んでいただくことができた。



協働者の声

芝生を寄贈した地元企業（スーパー）の声、買い物に来るお客様に「本当にいいことされましたね！」というお声かけをいただくようになり、活動に参加したことを喜ぶとともに芝生の持つちからにびっくりしました。

参加者の声

芝生化した保育園の園長先生から「園庭を芝生化してから、子どもたちが裸足で飛び出すことが多くなり、土の園庭と比べて芝生だと転んでも痛くないので思いっきり身体を動かす姿を目にすることが多くなり保護者からも良い評判を耳にする機会がふえた。また芝刈りロボットを導入することで芝の管理も手がかからず想像以上で驚いている。」との感想をいただいた。

活動の「ここぞ！」というPRポイント

Jリーグクラブだからこそそのノウハウや信頼を顕在化している地域課題とリンクすることで、スポーツ以外の価値を提供できている実感と実績。シャレン！は地方クラブの生き方のひとつであり大切な活動だと思います。

補足

耕作放棄地は、人口減少、少子高齢化に伴う課題の一つとして選挙公約になるなど地域の解決すべき課題の柱であり、しばふるプロジェクト発足時に村井チェアマンや米子市長など行政や地域の200名を超える参会者のなか、地域課題を考えるシンポジウムを開催し機運を醸成することができました。その後、新規耕作地を探す際の相談や、農業参入に関わる補助金の紹介など行政との連携も活動の大きな推進力となっています。

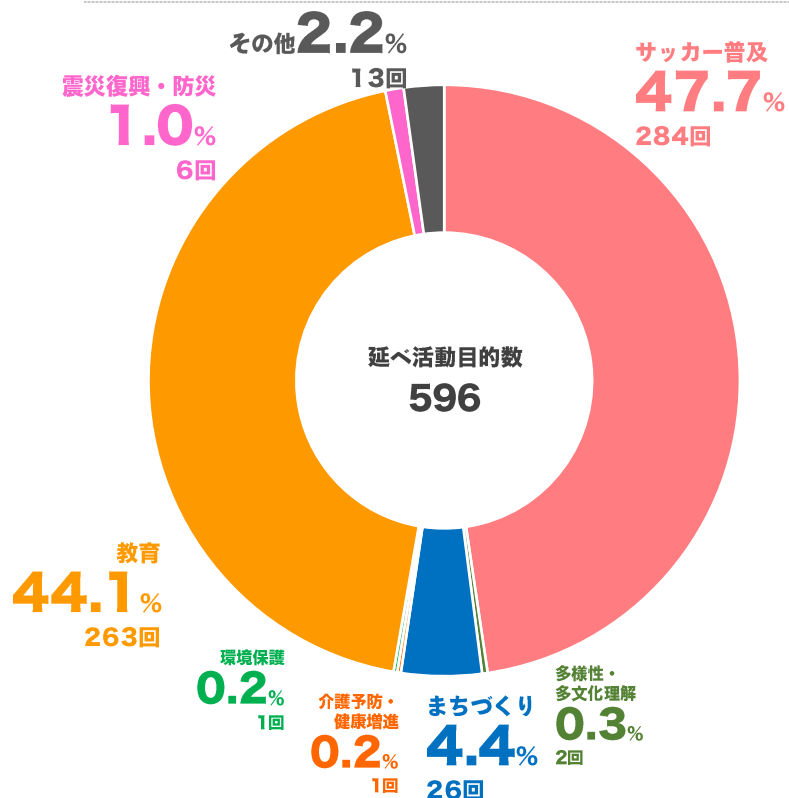


ホームタウン

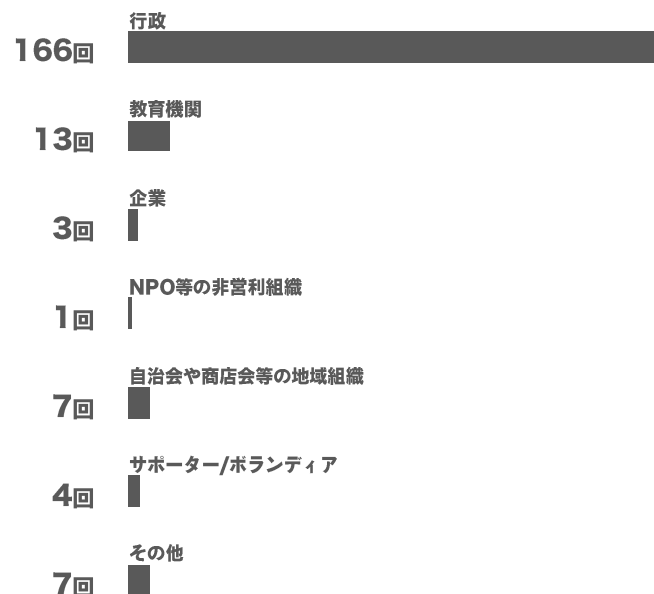
岡山県／岡山市、倉敷市、津山市を中心とする全県

年間活動回数：**333**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



Ki-Bi Lab. 48時間デザインFunRun

経緯：障がいのある人の芸術文化活動の振興及び障がいのある人の自立と社会参加の促進を図るため、オフィシャルグッズをコラボして作りたいことを相談受けた。目的：商品作成や販売を通じて、社会全体に「障がい者アート」への理解が広がることを願い、情報発信する。実行者の想い：この事業の取組みは、障がい者（クリエイター）とデザイナーがチームを結成し、2日間という限られた時間の中で、商品化に向けたデザインを制作する取組。社会の中に創造的環境をつくることで、障がいのある人たちの芸術文化活動の振興、自立と社会参加が図られ、多様性のある文化の発信ができればと願っています。



活動場所 : 岡山市栄町商店街

取組テーマ : ①ダイバーシティ（共生社会）

協働者 : ②NPO, ⑤行政

協働者名 : 主催：岡山県備前県民局、協力：NPOハートアートリンク、FabLab Setouchi B

活動で工夫した点

デザインの個性を生かせるアイテム選び。印刷範囲が広く、色も多く使えること、単価が高くなりすぎないこと、日頃から使用してもらえるアイテムにすることなど。選手が特定できる絵やオフィシャルマスコット（肖像権）の絵は避け、クラブカラーを配慮したデザインを依頼した。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

スケジュール決め。①観戦日②デザイン作成③デザイン調整④デザイン確定⑤グッズ制作⑥販売日調整

クラブや地域の活動後の変化

障がい者との接点が協働事業によって生まれ、デザインして下さったグッズが具現化したことをとても喜んで下さった。周囲からもとても良い取り組みだと評価いただいた。

協働者の声

主催：岡山県備前県民局：（想い）ファジアーノ岡山と2年連続でこの取組を実施することができました。障害者アートを活用したデザインの価値は、まだまだ認知度が低いのが現状です。そのデザインが、地元にも広く愛されるクラブの公式グッズに採用・販売されることで、多くの方に興味を持っていただけるきっかけになればと思い、地元NPO団体とも連携してこの取組を行っています。（感想）デザインを制作する前に、参加者全員でファジアーノ岡山のホーム試合を観戦しました。参加者は、会場が一体となって応援の渦がうまれた感動をしっかりと胸に刻んだ様子で、その後のデザイン制作ワークショップがとても充実したものになりました。採用されたデザインをあしらったナップサックとハンドタオルが、公式グッズとしてホーム試合会場でもうすぐ販売されます。たくさんのサポーターの手に素敵なデザインが届き、この取組が広がっていくことを願っています。

参加者の声

クリエイター：「是非次回も参加したい」「みんなで楽しく大きな作品ができたことが良かった」デザイナー：「互いの意見を交えながら、チームとして楽しく作業ができた」

活動の「ここぞ！」というPRポイント

地域の活動でファジアーノ岡山が必要とされ、クラブを活用してもらうことでその活動に取り組むエネルギーや発信力が增大する。そのようなことに少しでも寄与できればこの事業に参加しています。

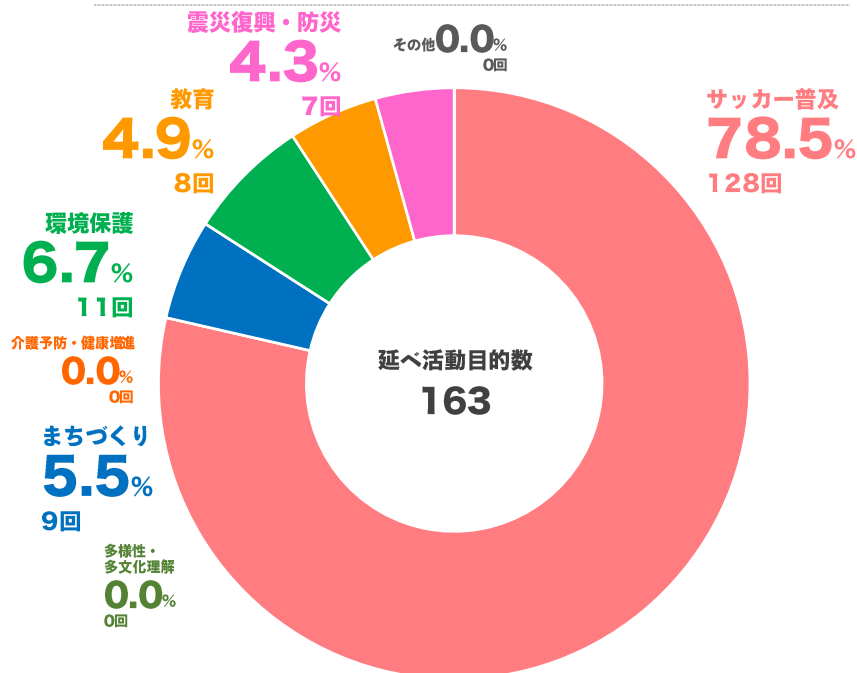
補足



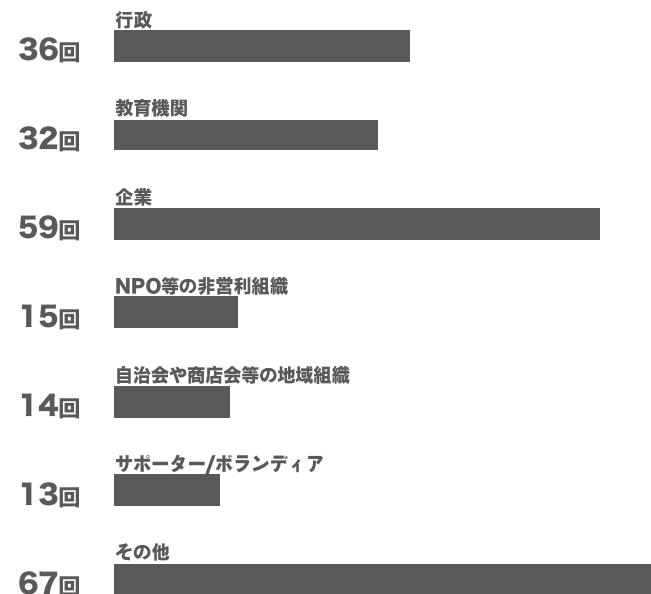
ホームタウン
広島県／広島市

年間活動回数：**158回**

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



“ピースマッチ” (サッカーを通じた平和発信)

被爆地で活動するクラブとして、サッカーを通じて、全世界へ平和の発信をするため、原爆投下の8月6日の直近のホームゲームを「ピースマッチ」として位置付け、8月3日のコンサドーレ札幌戦において実施した。前年のV.ファーレン長崎戦に引き続き実施したもので、~One Ball.One World.スポーツができる平和に感謝~をスローガンに、選手・観客が一体となって、平和の発信を行った。

取組内容：折鶴持参の小中高生招待、両チーム選手等のリレーメッセージ・平和の宣誓、高校生の平和宣言、平和の鐘による黙とう、行政、高校・大学による平和ブース、ピースメッセージボード、スタジアムでの平和学習、平和のバスツアー等

活動場所 : エディオンスタジアム(8月3日)

取組テーマ : 平和活動

協働者 : ⑤行政, 平和首長会議、対戦相手

協働者名 : 広島市役所、平和首長会議、北海道コンサドーレ札幌

活動で工夫した点

相手チームのコンサドーレ札幌の協力を得て、前日の慰霊碑参拝に加え、選手全員がピースマッチの統一Tシャツ(サンフレは86番のユニフォーム)を着て入場したほか、大型映像のリレーメッセージ、チームキャプテンによる平和の宣誓などを実施した。また、平和(復興)を象徴する緑のジェット風船をビジターの皆さんも含め、平和の思いを込めて飛ばすなど、スタジアム一体となって平和の大切さを発信できた。

活動で大変だった(苦労した)ポイント

2018シーズンの広島・長崎に比べた発信力の低下を防ぐための工夫が課題であった。その結果、前述のジェット風船等に加え、原爆資料館の見学とサッカー観戦をセットにしたバスツアー、日・英語による高校生の平和の誓い、広島県の復興展示や広島市のピースロゴ入り缶バッチの提供など関係者の努力により、昨年よりも多くの施策が実施できた。

クラブや地域の活動後の変化

マスコミや行政のツールを通じて、広く平和を発信できたと考えている。2年目となる「ピースマッチ」であるが、次世代に語り継いでいくべき若い世代の参加が増えるなど浸透してきていると実感している。



協働者の声

広島市長からも、スポーツを通じて平和の発信をするという取組に対し、高い評価をいただいている。出展、出演をしてくださった各学校からも、平素から取り組んでいる平和学習のよい発表の機会となった等前向きな感想が寄せられている。

参加者の声

近年、被爆体験の風化が叫ばれる中、アンケート調査などからも平和を考える1日になったとの声寄せられるなど、一定の成果があったと考えている。

活動の「ここぞ!」というPRポイント

1クラブだけの力では何もできないが広島県、広島市、平和首長会議等行政との連携や被爆者団体をはじめ平和活動を行っているNPO等の協力を得ることで多くの方に平和に対する広島の思いが発信できたと考えている。

補足

今後も、相手チームや関係者の協力を得て、8月6日の直近のホームゲームで平和の発信を続けてまいりたい。

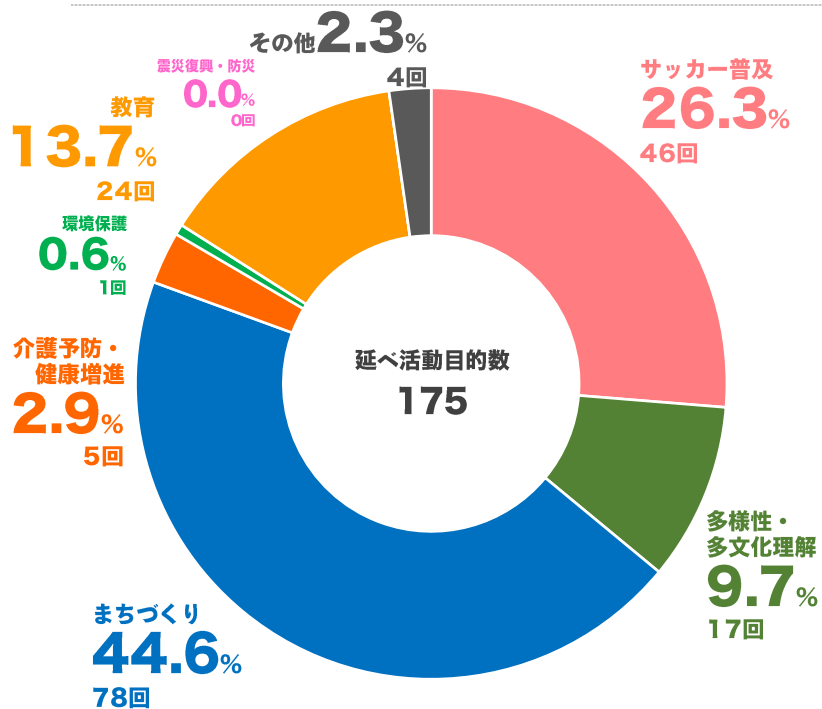


ホームタウン

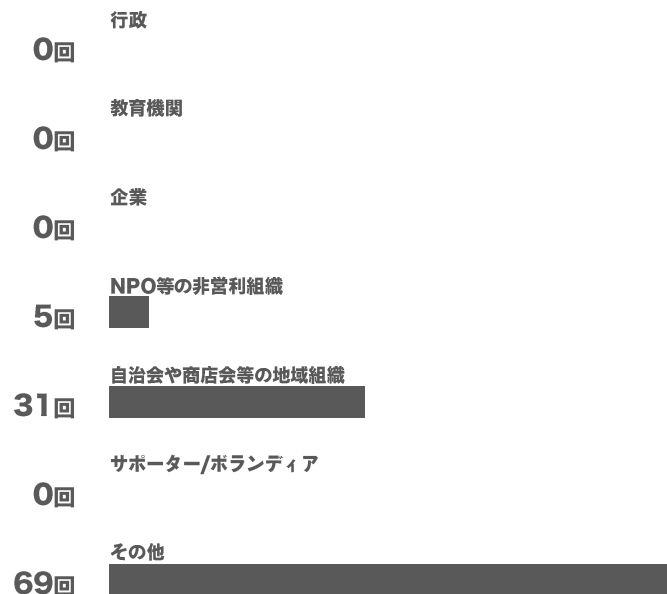
山口市・下関市・山陽小野田市・宇部市・防府市・周南市・美祿市・萩市・下松市・岩国市・光市・長門市・柳井市・周防大島町・和木町・上関町・田布施町・平生町・阿武町 【山口県全県】

年間活動回数：**101**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



レノファ健康・元気体操

社会福祉法人から「多世代交流・健康寿命の延伸」を目的に、プロスポーツクラブの発信力を活用し、“健康元気体操”の制作をする旨の相談が2017年12月にあった。住み慣れた場所で生活を続けていくため、地域と地域を繋ぐ交流人口を創出・拡大する取組はクラブの理念とも繋がり、新たな関係性や価値を生み出す流れになると共感した。社会福祉法人とプロスポーツクラブの資源を相互活用し、健康元気体操を開発・制作・普及することで、地域の人材を活かし、誰もが活躍する地域社会をつくること出来れば、人口急減・超高齢化社会に直面する山口県の大きな課題に対し、問題解決の大きなツールに成り得ると感じ、2018年から活動している。

活動場所 : 維新みらいふスタジアム、山口県内市町地域交流センター、学校、地域の交流拠点

取組テーマ : ⑤健康/SIB

協働者 : ①企業, ③住民, ④学校

協働者名 : 社会福祉法人ひとつの会

活動で工夫した点

- ・発表前に試作体験会をし、体感者の生の声を聞き、制作側の「やりたいこと」ではなく、受け手にとって効果の高い体操づくりをした。
- ・あえて「選手をつかわない」ことで、体操の本質追究。
- ・人々の交流を生み出すよう、地域交流センターや学校等のコミュニティにて体験会を実施。
- ・アンバサダー養成講座を開催し、地域単位での“体操の担い手づくり”やDVD作成、Youtubeへのアップをし、地域に根付かせる環境を整えた。

活動で大変だった(苦労した)ポイント

- ・体操の軸をブレさないこと。曲調重視の“踊り・ダンス”とならないように。
- ・利用者にとって最大の効果が得られる内容とすること。理学療法士や作業療法士等の介護の現場で働く専門家を集め、制作する中で、互いのこだわりがぶつかる場面があった。プロジェクトリーダーを設置し、それぞれの意見を尊重しながら、かたよりのない内容にすることができた。

クラブや地域の活動後の変化

参加者より、「体操をすることで、子どもや孫、近所の人と“レノファ”という共通の話題ができて、前よりも会話が増えた気がする。」との声をいただいた。体操をして、体が健康になるだけでなく、会話や笑顔が増えて、心の健康にもつながると感じた。



協働者の声

ひとつの会：谷口さん(プロジェクトリーダー) 携わる職員のモチベーション向上に繋がり、職場でのやりがい・役割を明確にすることができるようになった。様々な場所で活動させてもらうことで、「社会法人ひとつの会」をより多くの山口県民に知ってもらうことにも繋がり、求人数の増加にも繋がっていると人事担当より聞いている。より多くの県民に「健康」をテーマに関わりを持ってもらうことで、サッカーをする人だけではないことを私自身より多くの人と共有したい。

参加者の声

試作体験会参加者の声…「肩の周りが温かくなった」60代・女性 「ゆっくりだから、やりやすい」50代・男性 「無理なく動いて、じわっと身体が温かくなる」60代男性 「うっすらと汗が出るので、すこし運動した気持ちになる」40代女性 「レノファと体操がどう結び付くか不思議だったけど、馴染みのある曲なので、自然と動いてしまう」50代女性

活動の「ここぞ!」というPRポイント

山口県出身アーティストが制作したレノファ山口公式テーマソングで、2020年モデル健康元気体操を制作。地域の健康教室から企業での健康意識醸成まで、多世代に柔軟に使用できる普及促進ツールを継続制作します。

補足

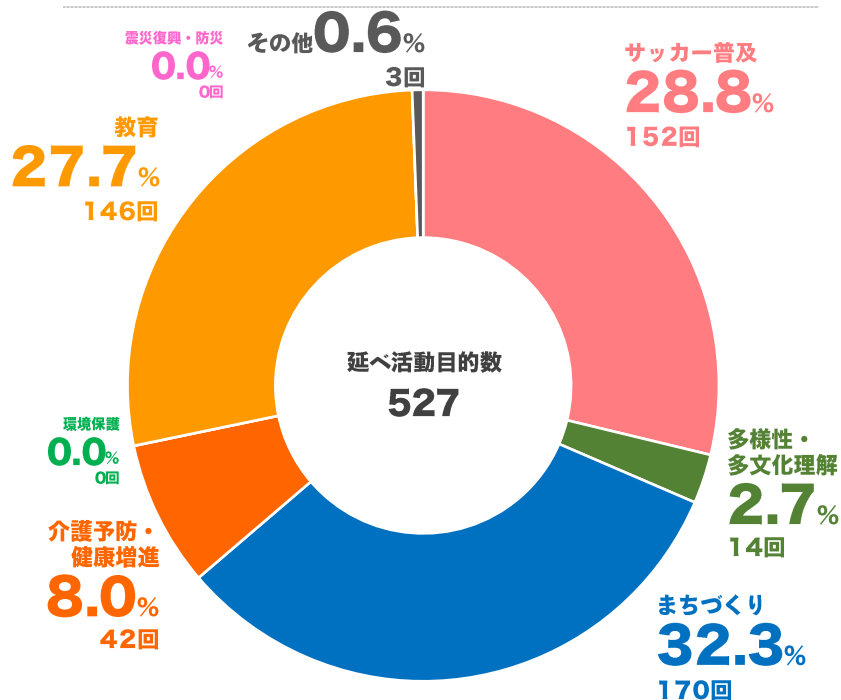
-



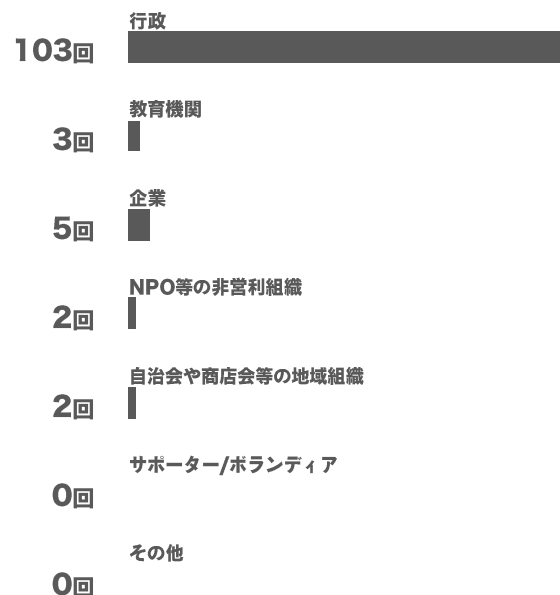
ホームタウン
香川県／高松市、丸亀市を中心とする全県

年間活動回数：**190**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



アバターを活用した 観戦体験・魅力体験

2014年から選手が障がい者支援施設に訪問し、施設の利用者の方と触れ合う機会があった。選手を目の当たりにし、目を輝かせていた利用者の方だが、様々な理由で試合観戦が出来ていなかった。そんな皆さんに、「アバター」を通じスタジアムの雰囲気や少しでも感じてもらい、そこにいるファン・サポーターと触れ合う機会を作りたい。そしてあの時、一緒に遊んでくれた選手たちが勝利に向かって闘う姿、そして勝利を信じ応援するサポーターの姿を見ることができたら、それが利用者の方に新しい感動を与え、更なる笑顔を生み出すきっかけになると信じ、私たちは「誰もが笑顔になれるスタジアム」を合言葉にこの企画を進めた。

活動場所 : Pikaraスタジアム かがわ総合リハビリテーションセンター

取組テーマ : スポーツ観戦の生きるチカラに

協働者 : 企業／行政／障がい者支援施設

協働者名 : 香川県、全日本空輸株式会社高松支店、
かがわ総合リハビリテーションセンター

活動で工夫した点

参加していただいた方にいかに楽しんでいただけるか。また、アバターを操作したい、しゃべりたい雰囲気を作るため、スタジアム側にスタジアムガイドを用意、施設側に司会者を用意し、ファン・サポーター、選手との架け橋を作った。また、アバター以外でもレクリエーションを用意した。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

サッカーのもつ可能性・魅力・楽しさをより生に近い「観戦体験・魅力体験」をしてもらう遠隔スタジアムづくり。取材対応可能な方と対応不可の方が混在した。このため、一目で見極めることができるように、入場証の紐を色分けするとともに、座席を区分するなどの工夫をした。雨天時の対応。

クラブや地域の活動後の変化

実施に際して、クラブからサポーターあてに、事業への協力依頼のリリースを行ったが、サポーターからは好意的な意見が多く寄せられ、多くのサポーターが、事業に参加した障がい者施設入所者等に、アバターを通して声掛けを行ってくれた。また3者以上が協働企画を実施することで、地域密着型の新しいCSR取り組みが評価されたと感じた。



協働者の声

香川県亀井さんの声：企画に参加いただいた、障がい者支援施設の利用者などは、身体的な制限があるため、実際にスタジアムに行く機会がないが、スタジアムの雰囲気を感じられ、とても楽しそうにしていた姿が印象的であり、意義深い取組みであったと思う。

ANA社員中本さんの声：遠隔観戦ではあるものの、参加者があそこまで前のめりになって応援していて感動してくれるとは思わなかった。アバターを通じてスタジアムとの一体感が出せていた。観戦、応援の場を共有できてよかった。

参加者の声

参加者：来年も来てね！来年もまた待ってるね！楽しかった。施設の方：今回のように、自分でロボットを操作し、施設外の方と触れ合うことは非常に貴重だと感じ、参加した施設入所・通所者も楽しそうにしていた姿が印象的であった。

活動の「ここぞ！」というPRポイント

ゴールを決めた重松選手（1-0で勝利）は、今年施設に訪問した選手であった。そして、勝利した時、改めて大きな拍手と歓声がおこり施設側の雰囲気とスタジアムが一体感に包まれ、施設側の応援が届いた気がした。

補足

参加していただいた施設入所・通所の方は、楽しそうにアバターを操作していた。また、アバターを通して、スタジアムにいる多くのファン・サポーター、選手と会話を楽しみ、触れ合うことで、空間を超えて人と人の繋がりが広がった。カマタマーレ讃岐は今後も誰もが笑顔になれるスタジアムを目指し、様々な取り組みを行っていききたい。

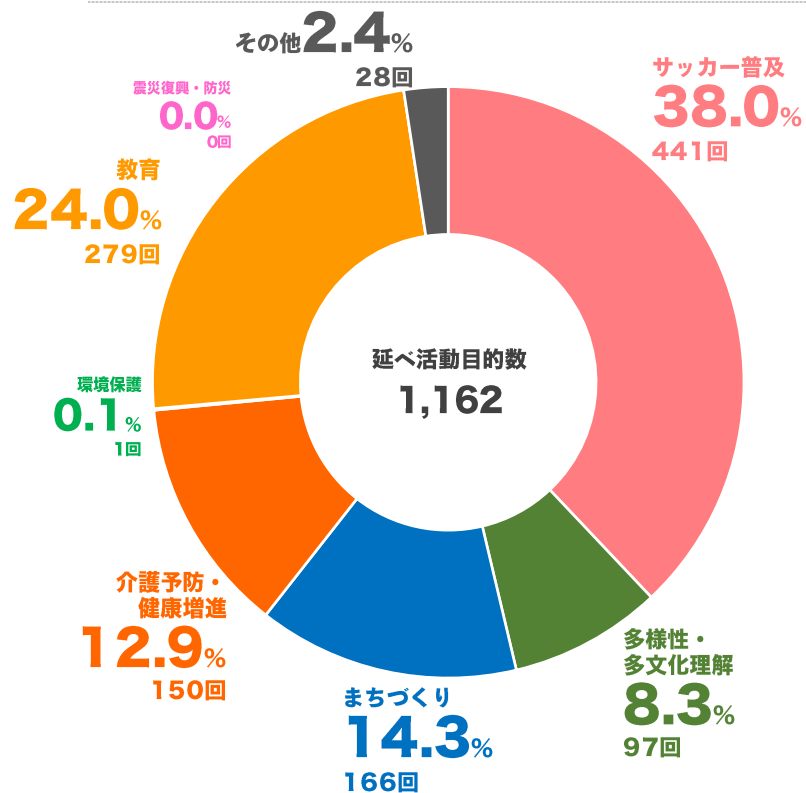


ホームタウン

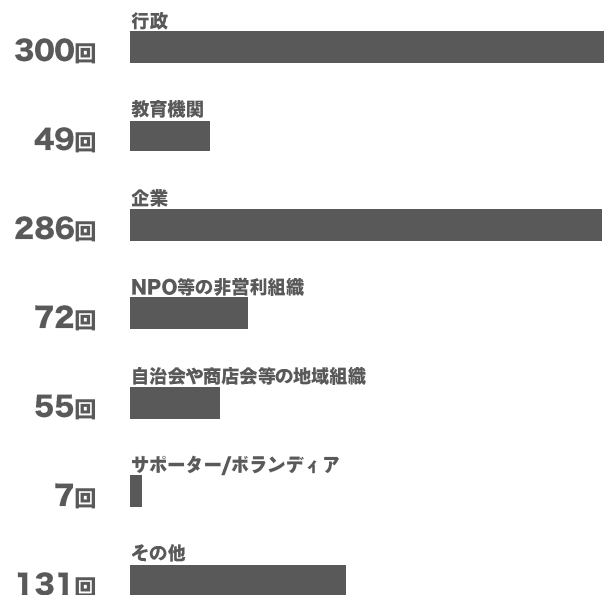
徳島県／徳島市、鳴門市、美馬市、板野町、松茂町、藍住町、北島町、吉野川市を中心とする全県

年間活動回数：**405**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



ヴォルティスコンディショニングプログラム (SIB)

徳島ヴォルティスはホームタウンへの貢献活動として年間400回以上の活動を継続してきていたが、その殆どがボランティアでの取り組みでもあり、活動の拡大にも限界がある為、次のステップとして事業化による活動の広がりや雇用の拡大を模索していた時、SIB事業の情報を知り、取り組みを開始した。具現化に向けて、自治体の協力が必須であるが成果連動型の取り組み、SIBの考え方に美馬市長からの賛同を得ることができ、また市長のリーダーシップによる美馬市としての協力体制があり、案件組成まで進むことができた。また、SIBのポイントであるKPIの設定については、経済産業省や外部シンクタンクの協力を得て設定、合意することができた。

活動場所 : 地域交流センター ミライズ

取組テーマ : ⑤健康/SIB

協働者 : ①企業, ③住民, ⑤行政

協働者名 : 美馬市、大塚製薬株式会社、株式会社R-body project、株式会社タニタヘルスリンク、明治安田生命保険相互会社、株式会社阿波銀行、徳島県信用保証協会、筑波大学名誉教授・河野一郎先生、株式会社日本総合研究所

活動で工夫した点

個々の目標ではなく、共通の課題解決に向け、自治体をはじめ、様々な企業との連携により実施している。運動プログラムはトップアスリートも実践するトレーニングを体系化したR-body project社のプログラム、栄養面では大塚製薬のボディメンテゼリー、日々の活動の見える化(ICT)はタニタヘルスリンク社等、関連する企業との連携が大きい。

活動で大変だった(苦労した)ポイント

そもそもSIBとは何か? SIBや国の動き、制度等への理解と人材の確保、またクラブ内での理解・了解(これは実施するスタッフも含めて)なかなか理解を得られなかった。まずは美馬市にシンクタンクよりKPIの設定等の指導を行ってもらい、美馬市の理解と協力で共に課題解決するんだという強い想いで実施することができた。

クラブや地域の活動後の変化

Jリーグクラブによる全国初のヘルスケアSIBとして、経済産業省をはじめ、各社マスコミに取り上げて頂き、クラブ内に事業として成り立っていけるという意識が芽生えた。また、参加者の方々が2ヶ月で卒業後、今度はOB・OGとして、この方々が友人・家族に対して、健康情報を発信してもらえるよう、月に1回OB・OG会を実施していく。参加者募集は市の広報、知人・友人の勧めでスムーズに進んでいる。



協働者の声

美馬市藤田市長のお話:「市民から叱られることはあっても褒められることはまず無いが、このヴォルティスコンディショニングプログラムの取り組みは、市民の皆さんから大絶賛されているんですよ」

参加者の声

「膝が悪く、以前、病院で人工関節の手術を勧められたがやらなかった。その後、医師の指導もあって膝への負担が少ない水中での歩行などの運動を続けてきたが、痛みはとれなかった。そんな時にこのプログラムに出会って、毎日、夕食後に12種目を35分かけて継続してきたら先週ぐらいから、痛みが無くなっている。このプログラムに出会って本当に良かった。膝が痛くて旅行にも行けなかったけど、お父さんと旅行に行きたい。」

活動の「ここぞ!」というPRポイント

Jリーグクラブによる全国初のヘルスケアSIB。また、投げっぱなしではなく、成果に応じて支払う、成果連動型であること。自治体との強い連携が生まれる。

補足

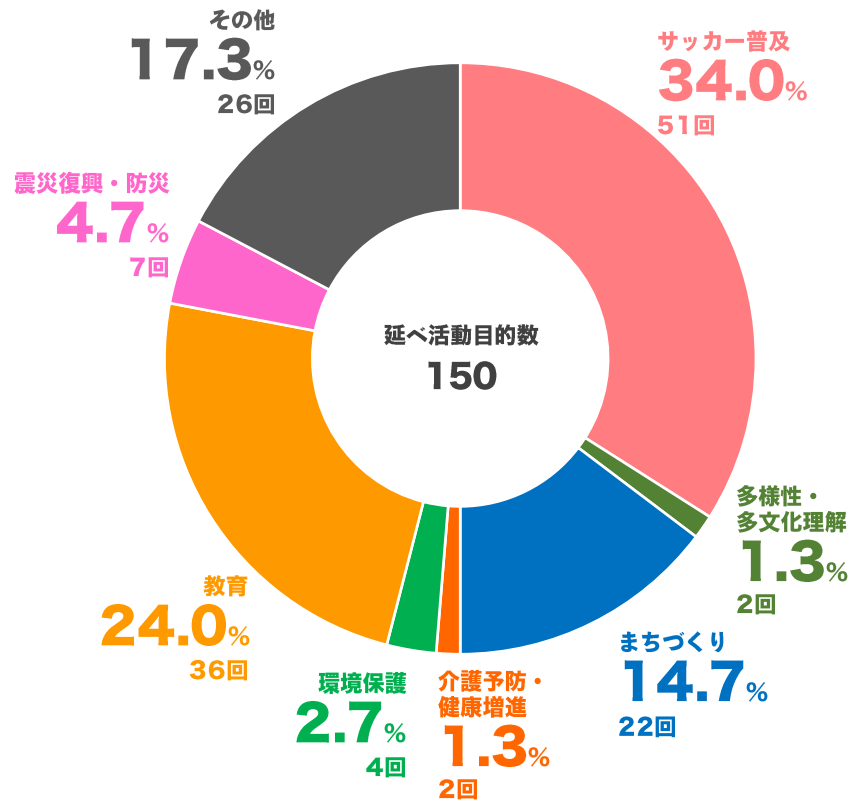
みなさんの笑顔をいただける喜び、みなさんのお声を直に聴ける楽しさ、そして、みなさんの役に立つことの嬉しさを実感しています。



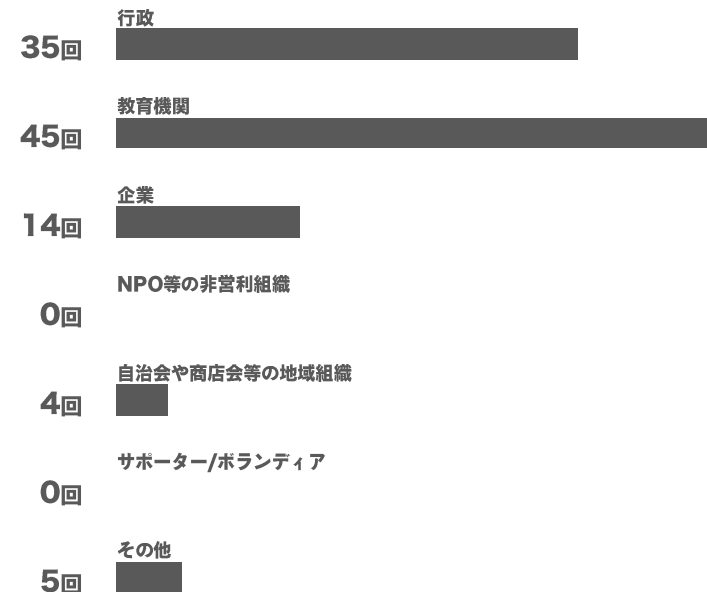
ホームタウン
愛媛県／松山市を中心とする全県

年間活動回数：**97**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



東温市×愛媛FC COOL CHOICE 事業

東温市では、「第2次東温市環境基本計画」及び「とうおんスマートエコタウン計画」を策定し温室効果ガス削減目標を27.7%としています。取組を推進していくエンジンとして「東温まるごとCOOL CHOICEプロジェクト」を展開しており、その一環として2011年より愛媛FCのホームゲームの際に「東温市COOL CHOICE MATCH」としてこの試合に排出される二酸化炭素を、東温市で創り出されたクレジットでカーボンオフセットしたり、試合時にCOOL CHOICEへの賛同書を募ったり、東温市と共に環境問題への関心を高める活動を行っています。

活動場所 : ニンジニアスタジアム／松山市駅／東温市内中学校など

取組テーマ : ⑧環境

協働者 : ①企業, ⑤行政

協働者名 : 東温市／えひめ先進環境ビジネス研究会／
カーボンフリーコンサルティング株式会社／
株式会社伊予鉄グループ

活動で工夫した点

試合で排出される二酸化炭素を事前に東温市内で創り出されたクレジットを使用し、試合で排出される二酸化炭素（スタジアム稼働に係る二酸化炭素排出量や臨時バスの運行に係るバス燃料など）をカーボンオフセットしています。この活動を通してCOOL CHOICEの推進の為、試合時に賛同書の署名活動も行い、その際に愛媛FCと東温市のコラボグッズのプレゼントを行いました（グッズ作成には国と市の助成金を使用）。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

COOL CHOICEや環境問題に興味や関心がない人たちへ認知拡大を仕掛ける策として、どのようにすれば目を向けてくれるのか、苦慮しました。

クラブや地域の活動後の変化

スタジアムに来るファンやサポーターの方たちは、グッズとして販売しているマイボトル（別事業で愛媛県と協働し販売したもの）を持参した方や、ポスターを複製（市の助成金を使用）したことにより、スタジアム以外でも東温市内の飲食店や学校などで掲示しており、環境への関心が高まっているように思えます。



協働者の声

【東温市環境保全課】

今回、COOL CHOICE事業の普及啓発にあたり、愛媛FCからの提案により、選手を積極的に起用することにし、ポスター制作やうちわ作成などを例年とは違い行いました。それによってファンサポーターの方々にも、より一層COOL CHOICEを理解していただいていたのか、自ら対策グッズを以って応援していると聞いて、うれしく思います。今後も更なる普及啓発を目指し、愛媛FCと連携していきたいと考えています。

参加者の声

COOL CHOICEという言葉は知ってはいるが、何のことかわからずいました。毎年マッチシティ東温市の試合ではCOOL CHOICE MATCHとして行っているとスタジアムで聞く中で、段々と関心が深くなり、特に2019シーズンはポスターを街で見かけるようになったり、自宅や職場でもちょっとした心がけをするようになっていきます。自分の街の将来は自分たちの手で守らなければならないですね。

活動の「ここぞ！」というPRポイント

昨年は一層の認知拡大を目指しポスター作成や活動に賛同した伊予鉄グループ様のご協力により映像をビジョンで放映したりと、クラブを活用した活動を積極的に行いました。現在更なる活動を協議しております！

補足

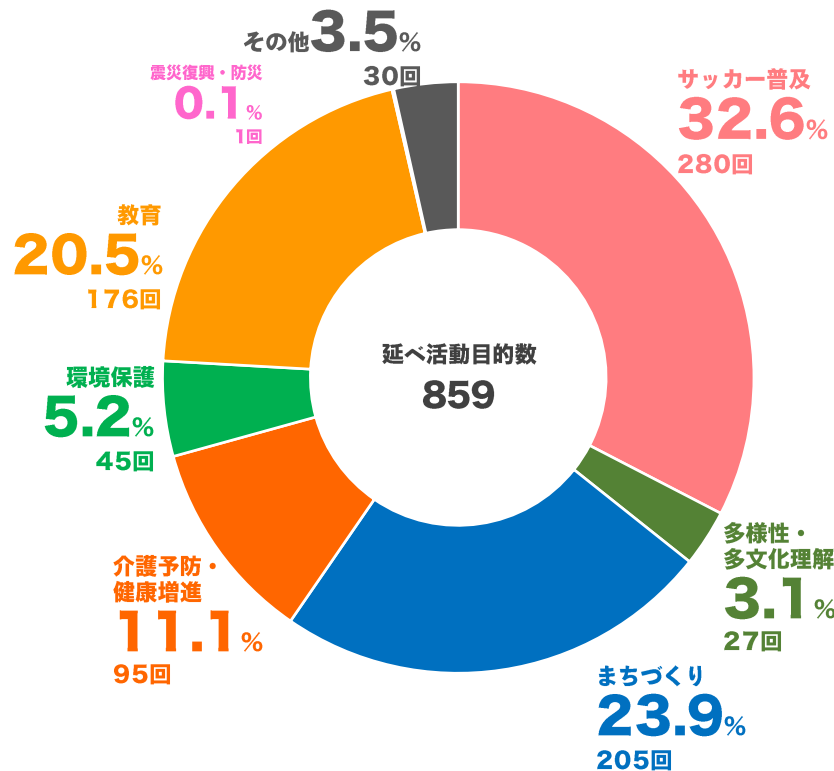
試合時に募ったCOOL CHOICE宣言の賛同書への記入者は、2019シーズンが615人（入場者数は6,903人）。2018シーズンは660人（2,449人）おり、毎年多くのファンサポーターの方々に活動への賛同をいただいております。



ホームタウン
福岡県／福岡市

年間活動回数：**859**回

活動目的の構成



協働者

行政	NO DATA
-回	
教育機関	
-回	
企業	
-回	
NPO等の非営利組織	
-回	
自治会や商店会等の地域組織	
-回	
サポーター/ボランティア	
-回	
その他	
-回	

※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



健康づくり地域交流フェスタ

地域における人口の高齢化、少子化等に対応する ための事業の一環として 政令市を除く福岡県内市 町村の世代間交流と健康増進を図ることを目的に 「健康づくり地域交流フェスタ」を公益財団法人 福岡県市町村振興協会 からの委託事業として2013年から開催しています。三世代や近隣との 関係も希薄になった現代において、本イベントを通して交流の一助に なればとの 思いでお手伝いさせていただいています。

活動場所 : 大任町B & G 海洋センター体育館

取組テーマ : ⑥地域のコミュニティ

協働者 : ③住民, ⑤行政

協働者名 : 公益財団法人福岡県市町村振興協会

活動で工夫した点

3世代の参加者約80名が安全かつ心から楽しめるメニュー作りを現場を担当する スクールコーチが試行錯誤しながら作っています。年間約15会場実施しますが 毎回1メニューは新しいメニューを必ず取り入れています。

活動で大変だった(苦労した)ポイント

この活動は公益財団法人福岡県市町村振興協会からの委託事業ですが、この事業を受託するまで何度も担当者の方と打ち合わせをして内容を修正しながら受託することが出来ました。

クラブや地域の活動後の変化

数年活動を通して行政との信頼関係が築かれていき、この活動以外で自治体主催の イベントを受託することもできました。



協働者の声

地域コミュニティの交流や高齢者の健康増進に寄与している点を評価しています。(福岡県市町村振興協会事務局長さまのお声)

参加者の声

(1)イベントの内容が濃く、楽しくて時間が経つ感じがしなかった。「まだこんな時間?」と思うくらい本当に楽しい時間を子どもたちの元気の良さとコーチのやさしさの中過ごすことができました。(69歳)(2)さいごはまけたけどよくがんばったとおもいます。かてなかったことはくやしいけどつぎこんなイベントがあったら参加したいです。(6歳)

活動の「ここぞ!」というPRポイント

会場を後にされる時には、皆さん笑顔で「ありがとう」と言っていた瞬間が最大の喜びです。

補足

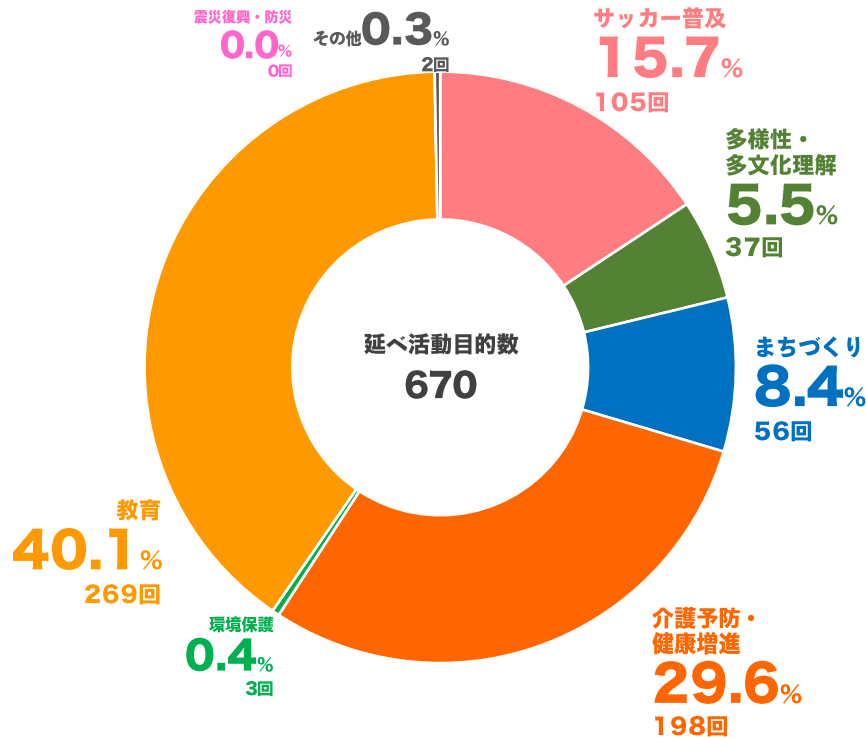
-



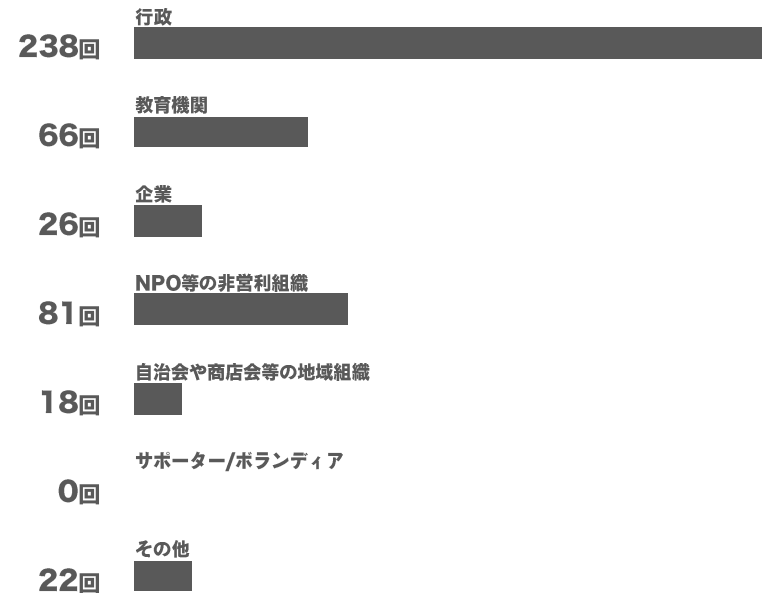
ホームタウン
福岡県／北九州市

年間活動回数：**341**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



高齢者向け健康教室

企画した意図については、社会活動への参加が乏しくなる高齢者が、日常的に社会活動への参加機会を増やすことを目的に「あしは心臓」をテーマにクラブと病院でできることはないかと協議したことがきっかけです。はじめは病院は独自で講演会形式の市民公開講座を、クラブは独自でシニア健康教室を市の委託事業として別々に実施していました。そこに認知症支援・介護予防センターも企画趣旨に賛同し、3社での継続事業となっています。ゴールとしては友人との交流・趣味、健康意識を高めることによって社会活動への参加機会を増やしてもらいたい。その一つのコンテンツとしてサッカー観戦にきていただきギラヴァンツに興味を持っていただく。

活動場所 : ミクニワールドスタジアム北九州

取組テーマ : ⑤健康/SIB

協働者 : ⑤行政、病院

協働者名 : 一般財団法人平成紫川会小倉記念病院、
北九州市認知症支援・介護予防センター

活動で工夫した点

「あしは心臓」をテーマに取り組んでいたのが2017年からホームスタジアムになったミクニワールドスタジアム北九州での試合前のピッチを実際に歩いていただくを創出したかったので、プログラムの中に組み込み、参加者に喜んでいただいております。

活動で大変だった(苦労した)ポイント

特に苦労はありませんでしたが、対象が高齢の方になるので散水の面やオンタイムでの実施を図るにあたり運営との協議に時間を費やしました。実施の際は小倉記念病院の看護師や認知症予防センターの職員の方々のフォローもあり、安心・安全、時間も予定通りの進行ができました。

クラブや地域の活動後の変化

参加された方々はギラヴァンツのホームゲームにも足を運んでいただくようになり、2018年、2019年のホームゲーム会場をみても高齢者の方の来場が増えました。また小倉記念病院とはより密接な関係を築き、2020年度の新体制発表会では病院の講堂で開催するまでの関係性につながっています。クラブ職員は特にホームゲーム時での高齢者への対応の仕方、お身体の不自由な方への配慮について考えるきっかけとなりました。



協働者の声

小倉記念病院第一部講師曾我芳光先生の声：参加されている方々はもともと健康への意識が高い方なので、このプログラムに参加している時点で心配はない、問題は家にひきこもり、こういった活動に参加していない方々。そういった方々にも興味を持っていただけるようにこれからも継続事業として取り組んでいきます。

参加者の声

最近運動不足なのでそれが解消できた。スタジアムのピッチを初めて歩いて気持ちよかった。抹消動脈疾患というあしの血管が詰まる病気を知り(歩くということは継続しないとけないことを学んだ)。

活動の「ここぞ!」というPRポイント

サッカー選手はあしが命といいますが、一般の方もあしが命です!あしは私たちの健康寿命を左右する要で(あしは第二の心臓といわれるほど健康と密接な関係があります)。

補足

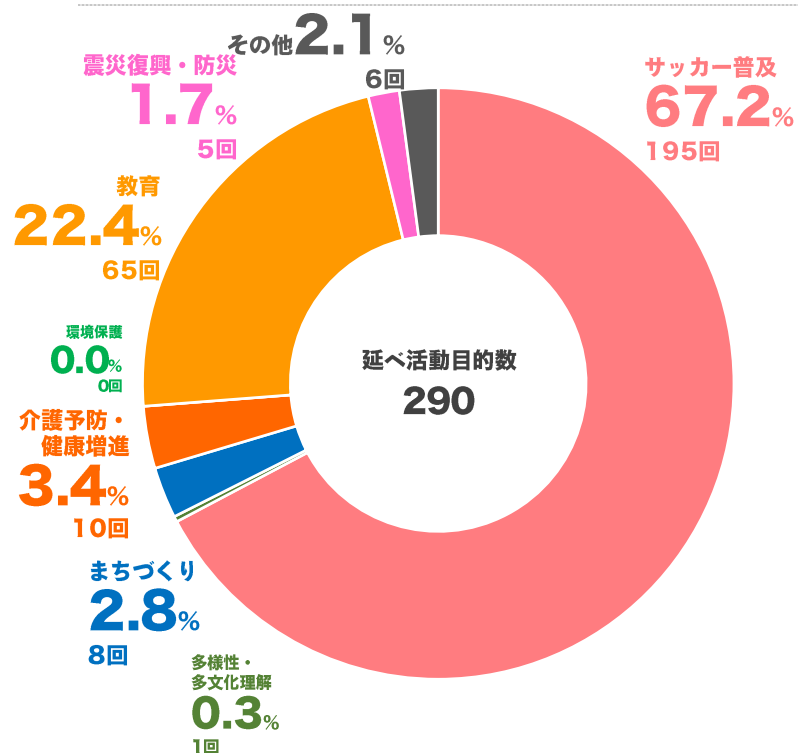
対象の具体的な年齢の明記はしていませんが、60歳以上の方、参加者は150名で抽選。内容について主に3部構成で、ホームゲームの日の記者会見室で第一部は小倉記念病院の循環器内科の先生から「あしは心臓」をテーマの講義、第二部ではギラヴァンツ普及コーチ&認知症予防センター職員による「脳の活性化体操プログラム」第三部は「ピッチを実際に歩いてみよう」そして最後に試合を観戦していただくという構成で喜ばれています。



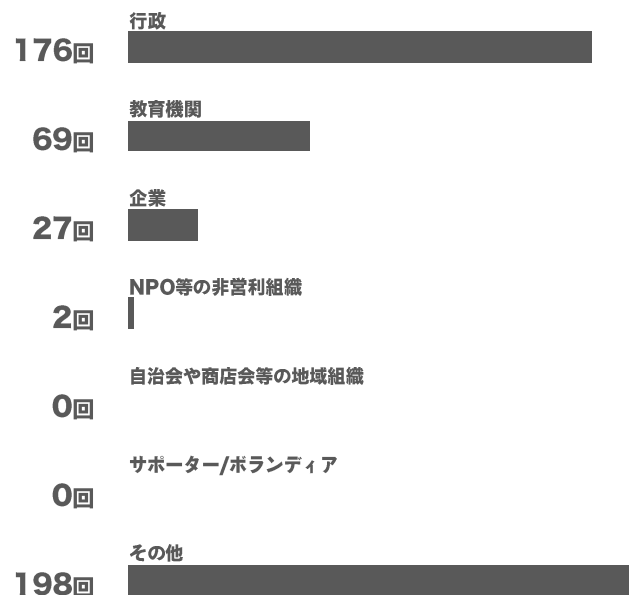
ホームタウン
佐賀県 / 鳥栖市

年間活動回数：**287**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



世界一安全なスタジアム計画

きっかけは、2017年、スタジアム内で1人の女性が倒れたことでした。幸い一命を取り留めましたが、大切なサポーターを守ることができませんでした。二度と起きないよう、スタジアムドクターの佐賀大学医学部附属病院の阪本教授監修、らいふ薬局協力のもと救急対応の質の向上に着手しています。1.事前に患者となる方の基本情報(個人健康記録)を把握 年齢、既往歴、服用薬、健康データ(血圧・体重・食生活)など
※有事の際に診断精度が上がり、治療の初手を迅速に行う 2.個人健康記録(パーソナルヘルスレコード：PHR)を集積
※同様の病歴を持つ方に事前に注意喚起を促す新しい健康サービスを提案

活動場所 : 駅前不動産スタジアム

取組テーマ : 健康/SIB

協働者 : 企業/医療機関(病院)

協働者名 : 佐賀大学医学部附属病院、らいふ薬局

活動で工夫した点

「来場ポイント特典と特製ピンバッジのプレゼントを実施し認知と参加を高める活動を実施」1.来場ポイント『JリーグYBCルヴァンカップ』、『明治安田生命J1リーグ』のホームゲームへご来場いただいた場合2ポイントを付与。2.更新ポイント『JリーグYBCルヴァンカップ』、『明治安田生命J1リーグ』のホームゲーム開催(当日24時まで)に限り、更新質問に回答し登録していただいた場合1ポイントを付与。

活動で大変だった(苦勞した)ポイント

セーフティーカードの携帯率の低さが課題で、カードの必須性、重要性を周知することや、携帯方法の提案(チケット、カードホルダーなど)を各ホームゲームでご案内しています。

クラブや地域の活動後の変化

健康をキーワードに地域やスポンサー様と連携をとり、ヨガ体験や救急救命士による応急手当(心肺蘇生、AEDの使用法、止血法)セミナー、熱中症の原因・予防・対策のミニセミナー、熱中症対策の飴の配布など、多様な角度で「世界一安全なスタジアム計画」を拡大しています。



協働者の声

株式会社ナチュラルライフ(らいふ薬局)大石さんの声:スポーツ観戦がスポーツという枠だけに収まらず、生活や人生(健康や生きがい)により密接に関わる存在になりつつあると感じます。その間口を作っていくこともクラブの大きな課題・使命となっていると思います。

参加者の声

スタジアムでの試合観戦が安全・安心にできることに喜びを感じています。また、「世界一安全なスタジアム計画」を通じて、健康への意識が今まで以上に高まったと感じています。(サポーターのご意見)

活動の「ここぞ!」というPRポイント

将来的にPHRを軸とした観戦方法(健康状態や嗜好品等から食事指導のアラート通知)の提案や、災害現場における初期現場活動での要救助者の情報活用の可能性があります。

補足

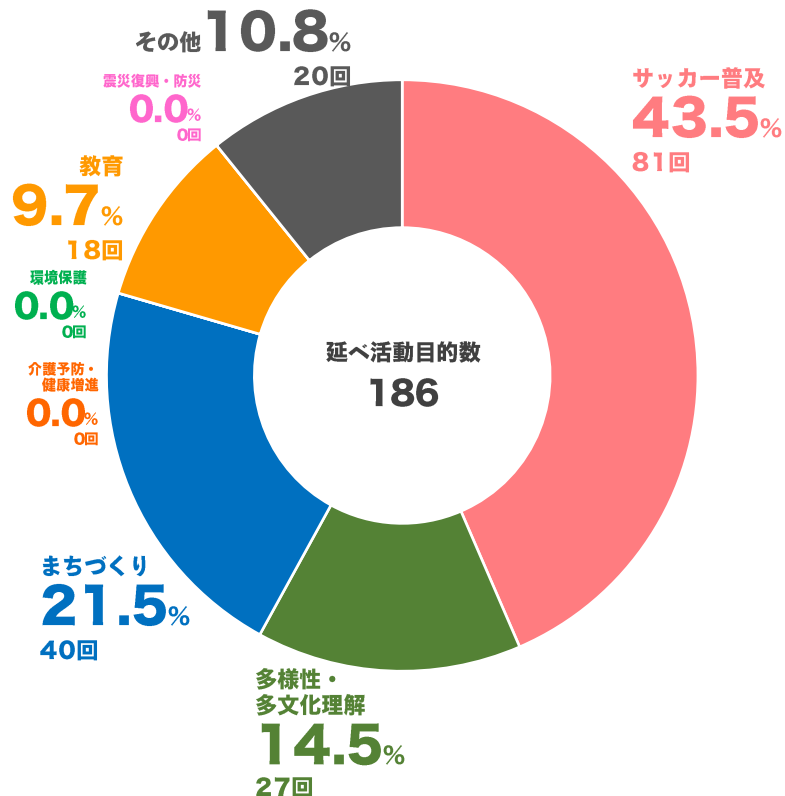
以前からサガン鳥栖は、安全・安心なスタジアム運営を心がけていました。その代表例として、スタジアムコンコースは一周できます。ホームゴール裏でもビジターグッズ、アウェイゴール裏でもホームグッズを身につけていても通行できる安全なスタジアムを運営しています。これはJリーグクラブでは非常に珍しい取り組みで、サポーター同士が試合前後に交流をする姿は鳥栖らしさの象徴とも言えます。



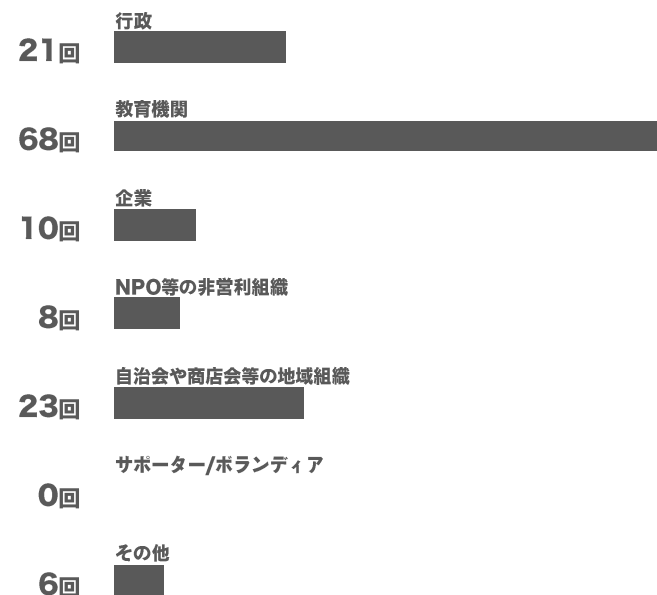
ホームタウン
長崎市、諫早市を中心とする全県

年間活動回数：**132回**

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



V-DREAM

V・ファーレン長崎は、「スポーツで豊かな長崎を創る」というクラブ理念の実現に向けて、クラブ所属の選手やコーチングスタッフ（指導者）が長崎県内の小中学校を訪問し、ゲームの時間とトークの時間を実施いたします。プログラムを通して、子どもたちに体を動かすことの楽しさ、仲間と協力すること、ルールを守ることなどを伝え、子どもたちの健全育成とスポーツ振興を図るとともにV・ファーレン長崎を身近に感じてもらうこと、そして、夢を叶えた元プロ選手の体験談をもとに夢についての話をするこことで子どもたちの夢や目標達成の力になりたいと考え企画。

活動場所 : 長崎県内小・中学校

取組テーマ : 教育

協働者 : 学校／行政

協働者名 : 各自治体、教育委員会、校長会

活動で工夫した点

学校によっては生徒人数が多いところもありましたが、子どもたちに体を動かすことの楽しさを届けることを工夫しました。また、クラブや活動を知ってもらうために、メディアの方々にも来ていただき、クラブ独自のローカル番組でも紹介いたしました。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

工夫した点と相反する部分ではありますが、生徒人数が多いと体を動かすメニューも限られる部分がありました。それを乗り越えるために、コーチングスタッフなどともコミュニケーションを図り、メニューの相談なども行いながら取り組みました。

クラブや地域の活動後の変化

各学校での話題となり、県内からの応募の依頼が増えました。活動された方々の満足度も高く、クラブへの興味・関心が非常に高めることができました。



協働者の声

V・ファーレン長崎の皆様におかれましては、ご健勝のこととお喜び申し上げます。さて先日は、ご多忙中にも関わらず本校6年生のキャリア教育を快諾していただき、心に残るお話と体験ありがとうございました。子供たちは、教科書で学ぶ以上のことと見聞きし、また体験することができました。そして、考えたこと・感じたことをもとに、まとめの作業に入ることができました。これもコーチの分かりやすく丁寧な説明のおかげだと心より感謝しています。心からお礼申し上げます。

参加者の声

先日はお忙しい中、学校へくださってありがとうございました。私は、コーチのお話を聞いて、どのスポーツでも協力することが大切だとわかりました。どのスポーツでも協力をしながら、支えてくれる人たちがいるから楽しくスポーツをすることができると思いました。このお話を聞いて、これらの学校生活では「協力」ということを忘れないようにして、生活をしていきたいです。先日とてもすばらしい話をしてくださり本当にありがとうございました。

活動の「ここぞ！」というPRポイント

2019年からはじめたこの活動をもっと多くの学校の子供たちに伝え発信していきたいです！！

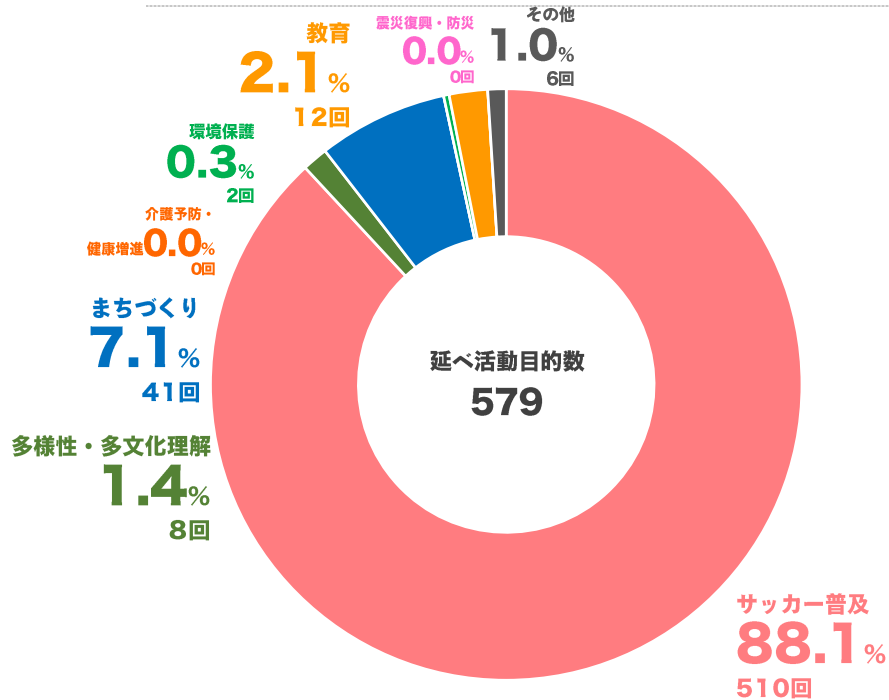
補足



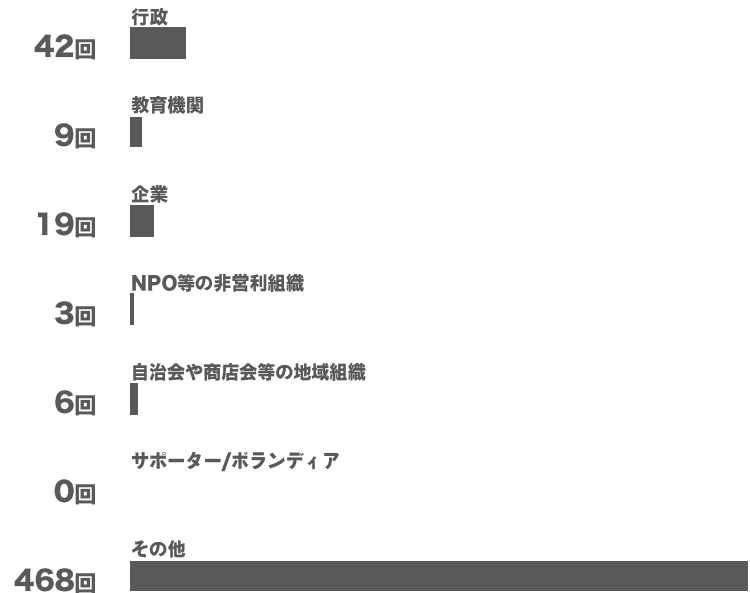
ホームタウン
熊本県／熊本市

年間活動回数：**549**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



「火の国もりあげタイ！」 プロジェクト

ロアッソ熊本の選手が行政や地域住民の方と交流を図りながら、地域の「まちづくり」や「まちおこし」の応援を行い、県民と共に熊本を盛り上げていくことを目的としている。

- 活動場所** : 熊本県内49市区町村
(2019年は熊本市東区、宇土市、小国町、西原村、氷川町)
- 取組テーマ** : ③持続可能な地域づくり
- 協働者** : ⑤行政
- 協働者名** : 熊本県内49市区町村担当者
(2019年は、熊本市東区、宇土市、小国町、西原村、氷川町)

活動で工夫した点

各自治体のニーズに応じ、少しでも満足度を高めるように活動内容の構成を考えた。

活動で大変だった(苦労した)ポイント

選手派遣のスケジュール調整。イベントなどが、土、日に開催されることが多く試合や練習と重なり派遣依頼に答えることが難しい場合もあった。

クラブや地域の活動後の変化

担当者を含めた自治体の職員がロアッソ熊本を身近に感じてくれるようになり、その後の事業展開に発展した自治体も出てきた。



協働者の声

ロアッソ熊本を身近に感じられるようになった。もっとロアッソ熊本といろいろな事をしたい。ロアッソ熊本を更に応援したくなった。

参加者の声

ハイタッチが出来て選手と身近に触れ合うことができた。多くの方に地域の特産物を知ってもらえることが出来た。バスツアーのおかげで、遠方のためなかなか訪れにくいスタジアムに行くことができた。

活動の「ここぞ!」というPRポイント

各自治体は、ロアッソ熊本を活用して地域の魅力を発信し、その自治体の地域住民が住んでよかったと思える「まちづくり」に貢献し、総合的に理念の「熊本に活力を」に繋げる。

補足

-

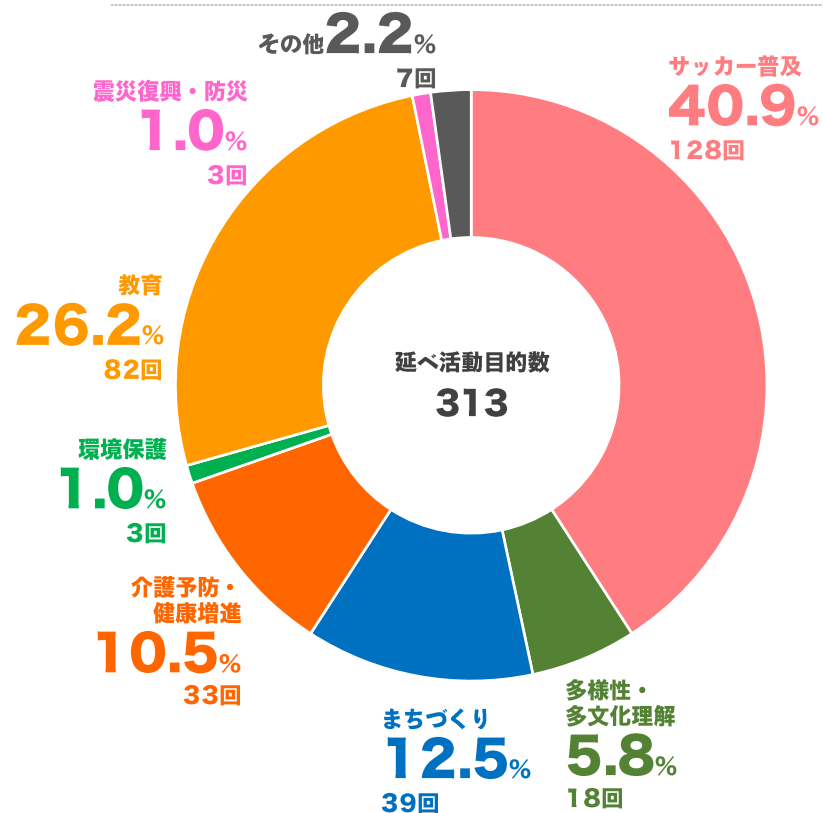


ホームタウン

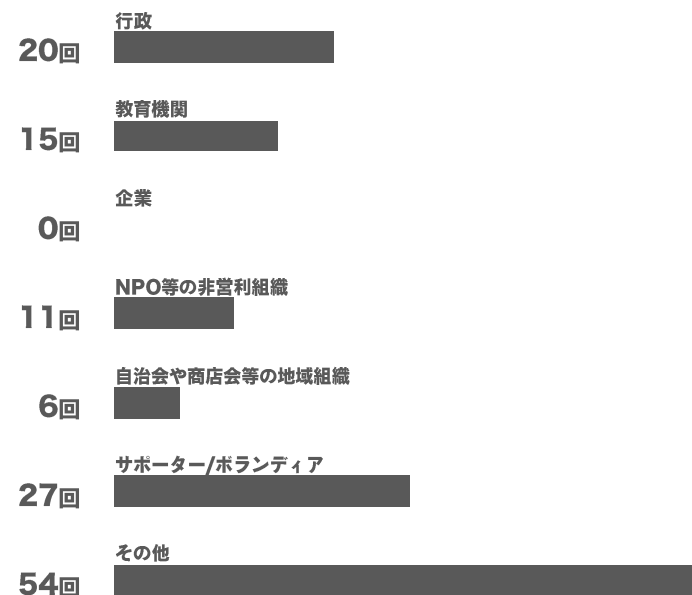
大分県／大分市、別府市、佐伯市を中心とする全県

年間活動回数：**189**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



ホームゲームでの パラスポーツ体験会

障がいのあるなしに関わらず、一緒にスポーツを楽しめる社会づくりのきっかけになることを目指して、（市営陸上競技場開催分を除く）全ホームゲームで「パラスポーツ体験コーナー」を実施。毎回多くの子供たち、年配の方々、そしてトリニータの選手も交え、様々な種類の「障がい者スポーツ」楽しんでいただくことができました。実際に体験することでパラスポーツへの興味を育み、多様性を尊重し合える優しい社会づくりに取り組んでいきます。

活動場所 : 昭和電工ドーム大分

取組テーマ : ダイバーシティ（共生社会）

協働者 : 企業／NPO／学校／行政

協働者名 : サインポスト(株)、大分大学アダプテッドスポーツクラブ、大分県障がい者体育協会、大分県ポッチャ協会、大分県アーチェリー協会、大分県車いすバスケットボール連盟、大分県フロアホッケー連盟、NPO法人日本パラ・パワーリフティング連盟、NPO法人SMIS、NBU日本文理大学サッカー部、FC九州バイラオール、杵築市パラアスリートクラブ

活動で工夫した点

競技に興味をもち、より多くの人に体験してもらえるように、体験会の周辺にバナーを設置するほか、SNS等で体験会の様子を積極的に発信しました。毎回選手にも体験に参加してもらうことで、選手の参加時間にはその様子を目見ようと沢山のサポーターの方に集まっていただき、取組を紹介することができました。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

競技ごとに必要となる空間が違い、体験する事で周りのお客様にボールが当たったりご迷惑をかけることの無いように、毎回会場を調整して実施しました。多くの人に参加してもらうため当初屋外での体験会を予定していたものの、雨天で急遽場所をドーム内に移動して実施することもありました。競技ごとに必要な準備を各競技団体のの方に丁寧にヒアリングし、運営担当と調整することでそれぞれの体験を楽しんでもらえる環境を作りました。

クラブや地域の活動後の変化

この活動をシーズンを通じて行うことで、クラブ内のスタッフもパラスポーツを身近に感じ、選手が参加する小学校を訪問してのサッカー教室にアンブティサッカー体験を組み込むなどのチャレンジにも繋がりました。スタジアムだけでなく地域にも体験を広げ思いやりの気持ちを育むことに繋がっていると感じます。



協働者の声

協力いただいた各競技団体の方からは、「普及のために、競技団体や自治体主催でイベントを開いてもこんなに多くの人に体験してもらえることはなかなかない」「スタジアムを使わせてもらい、沢山のの人に協議を体験し楽しみながら関心を持ってもらえることができました。」「競技の事を知らない障がい者の方にも、この機会に体験した人づてで伝わることもあると思うし、もし自分が将来障がいを持つことになってもスポーツを楽しめることを知ることが希望が持てる。」等と評価いただき、次回以降もぜひ参加したいといただきました。

参加者の声

実際に体験した方からは、「競技は知っていたけど体験したことが無かったので体験できてよかった。」「やってみたら難しかったけど楽しかった」「パラアスリートの人の技術を目にして、カッコいい・応援したいと思いました」と、体験を通じて沢山の感動と笑顔を生むことができました。

活動の「ここぞ!」というPRポイント

大分はパラリンピックの父といわれた中村裕先生がパラスポーツを根付かせ、毎年大分国際車いすマラソン大会が開催されるなど、パラスポーツが身近な県です。パラリンピックに向けてトリニータも後押ししていきます！

補足

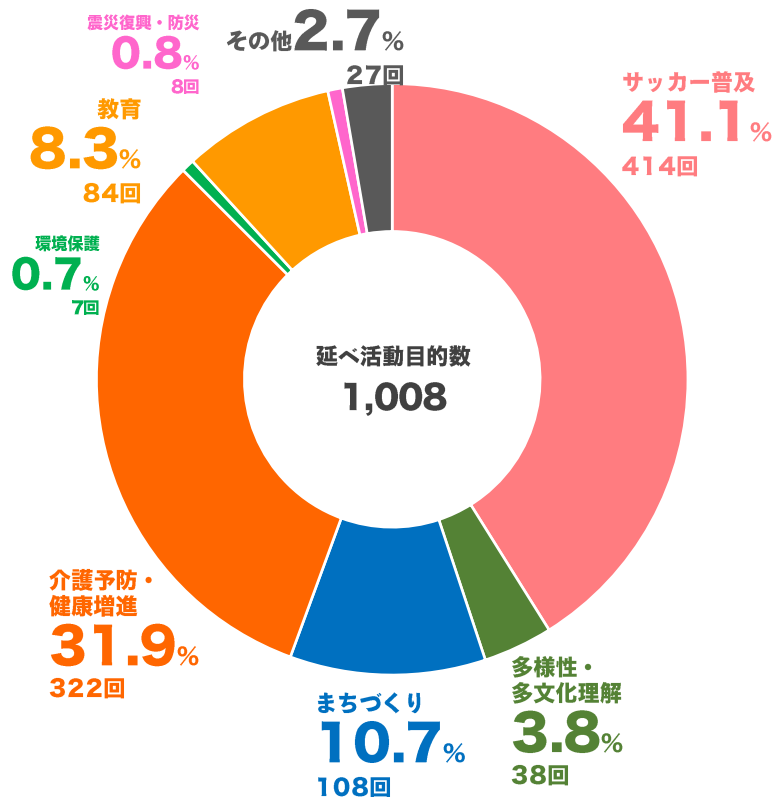
大分トリニータのホームスタジアムである昭和電工ドーム大分は、入場ゲートと観戦席に段差が無く、車いす席を設ける等、バリアフリースタジアムになっています。2020年からは、高齢者や障がい者、足が不自由な方、妊婦・乳幼児連れの方等にも安心して観戦できるよう、ホーム側自由席の最上段に優先席（ハートフルシート）を設けました。お互いの事を思いやれるインクルーシブ社会の実現を目指してさらに取り組んでいきます。



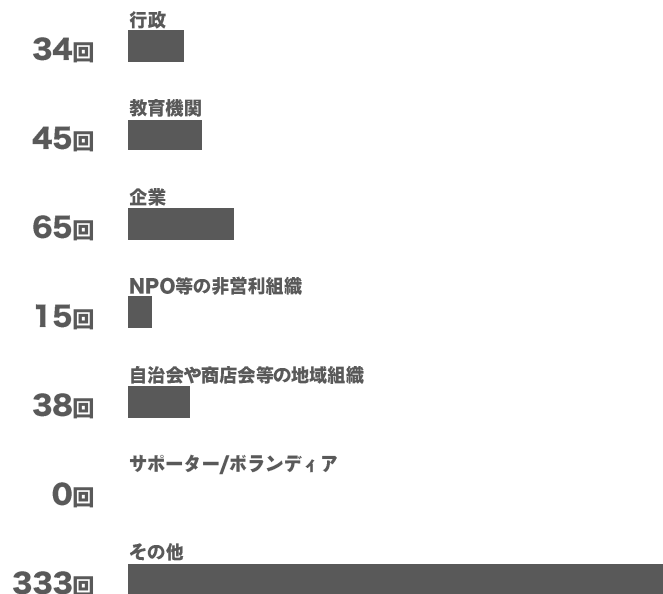
ホームタウン
鹿児島県 / 鹿児島市

年間活動回数：**613**回

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



鹿児島ユナイテッドFC×離島

2015年にJFLのホームゲームを奄美市で開催して以来、航空会社「日本エアコミューター」ご協力のもと、スクールコーチが各離島を訪れてのサッカー教室を開催しています。逆にサッカースクールに通う県本土の生徒たちが夏休みに離島を訪れ、離島の文化を体感する企画も毎年行っています。今年はシーズン前のキャプを奄美市で開催して、地元の人たちと交流を深めました。また藺田卓馬選手が3歳まで奄美大島の瀬戸内町で生まれ育ったことから、瀬戸内町の観光大使に任命されました。こういったクラブとしての活動を通して、鹿児島のアイデンティティである離島の魅力を鹿児島自身と全国に向けて発信することを目指しています。

- 活動場所** : 奄美大島を始めとする県内各地の離島
- 取組テーマ** : ⑦交流人口・関係人口の増加
- 協働者** : ①企業, ⑤行政, 地元のサッカー関係者
- 協働者名** : 奄美大島サッカー協会 (奄美市以外の離島も含めたサッカー協会です)

活動で工夫した点

当初は日帰りでサッカー教室だけを行っていましたが、1泊することで地元の方々と交流したり、名所を観光する機会を得られるようになりました。

活動で大変だった(苦労した)ポイント

スケジューリングです。鹿児島ではホームゲーム時にもスタジアムでサッカー教室を行っているため、シーズン中に離島へ行けるのはアウェイ戦の時のみ。そのため、他の事業に比べるとかなり早い段階から打ち合わせる必要があります。それでも離島にはつきものの台風が迫ると航空便は欠航となるむずかしさがあります。

クラブや地域の活動後の変化

現地の指導者の方は「いつもと違う目線で教えてもらえる貴重な機会」と仰って下さっていますし、子どもたちはプロのコーチとの時間をとても楽しんでくれています。1回2回で何かが変わるわけではないですが「鹿児島ユナイテッドFCが自分たちのクラブだ」と地元の人が少しずつ感じている印象は受けます。



協働者の声

すべては島の子どものためです。2015年にJFLの試合を行った時に、生で観るプロのプレー、そして間近で聴くプレーの音はやはり島の人たちにとってインパクトがあった。今年はキャンプで子どもたちにプロサッカー選手を間近で観てもらったし、サッカー教室も開いてもらい、プロを「私たちのもの」と感じられた。自分たちはそのために地元の協力を募って、人と人とを繋ぐ役割を果たすために尽くしていきたいです。(奄美大島サッカー協会事務局長 新納太志さん)

参加者の声

コーチ「島は練習だけでなく、試合もいつもと同じところと対戦する環境です。だから、いつもと違う目線で教えてもらえるのは、貴重な機会です」。子どもたち「プロの技術を間近に感じることができました」「プロサッカー選手を現実に感じることができました」

活動の「ここぞ!」というPRポイント

クラブの活動を通じて、お互いが鹿児島の一員であること(ユナイテッド感)を実感し、魅力を知り、訪問するきっかけとなることを目指しています。

補足

ひと口に「離島」と言っても、種子島と屋久島、奄美大島と喜界島、沖永良部島と与論島と、島ごとに異なる風土があり、歴史があります。南北に長い鹿児島島の多様な人々を、クラブの活動を通して一体感を醸成すること。それはクラブスローガン「鹿児島をもっとひとつに。」に沿ったものでもあります。

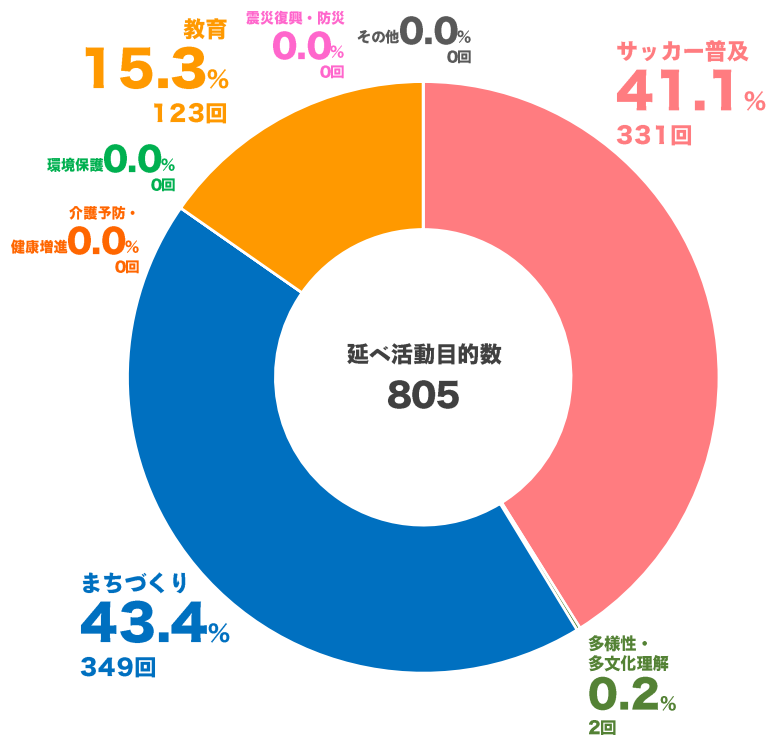


ホームタウン

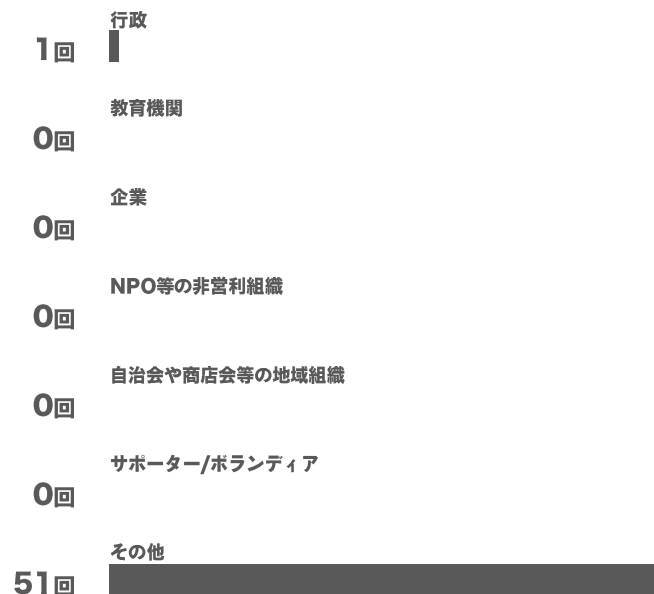
沖縄県／沖縄市を中心とする全県

年間活動回数：**352回**

活動目的の構成



協働者



※「活動目的」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



ビーチクリーン活動

協賛企業トランスコスモスさん起案のもと、ビーチクリーン活動を実施。経緯としましては、トランスコスモスさんが社内でビーチクリーン活動を取り組むことになり、FC琉球選手・スタッフも参加可能か打診したところ快く承諾をもらった。沖縄の企業、チームとして沖縄のビーチをキレイに保っていく。ビーチが汚いことでウミガメやその他の生き物にも被害を被るので私たちがそれを守っていかなければならない。という思いで取り組んだ。

活動場所 : 南城市玉城奥武島ビーチ

取組テーマ : ⑧環境

協働者 : ①企業, ②NPO, ③住民

協働者名 : トランスコスモス株式会社、一般財団法人沖縄美ら島財団、JICA沖縄国際センター

活動で工夫した点

トランスコスモスの社員・その家族、FC琉球スタッフ・選手はもちろんのこと、昨シーズンから協賛企業としてお世話になっているJICA沖縄の研修員の方にも参加してもらい国際交流にも努めた。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

沖縄美ら島財団さんにも参加していただきましたが、その際の時間調整等で苦労した。良い活動になるように何度も美ら島財団と連絡をとりあった。

クラブや地域の活動後の変化

企画していただきました、トランスコスモスさん社員・その家族、JICA沖縄職員・研修員の方々もFC琉球選手と一緒にビーチクリーン活動に取り組めたということもあり、終始笑顔が絶えなかった。選手の中には、外国語を話せる方もおりJICA研修員の方ともコミュニケーションをとってJICA職員の方が大変喜んでいました。活動終了後は、選手との記念撮影・サイン会も実施した。



協働者の声

トランスコスモス担当者の声：本日はご参加いただきありがとうございました。本日の取り組みにはFC琉球の選手5選手にも参加していただきましたが、参加していただいたみなさんともコミュニケーションをとっていただきましたのでそれも踏まえたうえで有意義な活動になったのではないかと思います。沖縄人として海を大事にしていくのは当たり前のことだと思います。その大事なことができていない方がまだ沖縄人にはいるので今回の活動を機に皆さんも意識付けをしていきましょう。

参加者の声

参加者(高校生)：初めてビーチクリーン活動に参加しましたが、沖縄の海がここまで汚かったとは思っていませんでした。沖縄の海が少しでもキレイになっていく過程がみれたので気持ちよくなりました。今後もビーチクリーン活動に参加していきたいです。

活動の「ここぞ！」というPRポイント

様々な企業・地域でビーチクリーン活動が行われていますが、今回のトランスコスモス主催のビーチクリーン活動にはFC琉球プロのサッカー選手が参加しております。

補足

-